

教育研究業績書

2023年10月23日

所属：食物栄養学科

資格：教授

氏名：鞍田 三貴

研究分野	研究内容のキーワード
臨床栄養学	NST（栄養サポートチーム）、チーム医療 栄養評価法 病態別栄養療法（がん疾患、血液透析、糖尿病、肝疾患、心不全）リハビリテーション栄養
学位	最終学歴
論文博士（食物栄養学）	神戸女子大学 家政学部 管理栄養士養成課程 卒業

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 大学院の論文指導（食物栄養科学研究科 食物栄養学専攻）	2022年4月～現在	研究課題（仮課題） 回復期リハビリテーション病院にて研究課題の打ち合わせ中
2. 臨床栄養学 I 夏期講習	2019年8月	前期臨床栄養学の振り返りとして2020年度食栄入学全クラス希望学生のみ夏期講習をオンラインライブで行った
3. 学部生と卒業生が所属する病院との遠隔カンファレンス	2019年4月～現在	病院栄養士が行う栄養カンファレンスと研究室とをオンラインで繋ぎ、症例検討を行っており、実践授業として現在も実行している
4. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2017年4月～2019年3月	研究題目 高齢透析導入患者の挿入時栄養状態と生命予後の関連
5. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2016年4月～2018年3月	研究課題 心不全患者の入院中アウトカムを予測し得る入院時栄養スクリーニング法の検討
6. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2016年4月～2018年3月	研究題目 高侵襲手術予定頭頸部がん患者の栄養管理に関する研究
7. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2016年4月～2018年3月	研究題目 非アルコール性脂肪肝疾患の栄養状態と食生活の特徴
8. 2015年度後期授業公開	2015年9月2015年12月	FD委員会より2015年後期授業公開の推薦を受けた
9. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2015年4月～2017年3月	研究題目 透析導入時の栄養状態と生命予後の関連性
10. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2015年3月～2017年4月	研究題目 管理栄養士が入院患者の栄養管理を担った場合の効果
11. 卒業論文および修士論文のための統計ゼミ	2013年8月～現在	研究室に所属する院生および学生に対し、毎年7～9月間に3回の統計ゼミを開催し臨床データの解析を学生自身が実行できるための指導を行っている
12. 博士課程論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2013年4月～2015年3月	研究課題 初回治療肺結核患者の入院時栄養評価及び早期排菌陰性化を予測する入院時栄養因子の検討
13. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2013年4月～2015年3月	研究題目 血液透析患者の血清リン濃度を決定する因子と年齢別に見た栄養状態と問題点
14. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2013年3月～2015年4月	研究課題 2型糖尿病患者における血糖コントロールおよび睡眠障害と食行動の関連性
15. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2012年4月～2015年3月	研究課題 栄養食事摂取量評価質問票（Questionnaire Calculating Nutrition Intake Quickly : QCNQ）の開発と妥当性の検討
16. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2012年4月～2014年3月	研究課題 脳血管疾患患者の嚥下機能改善に影響を及ぼす因子の検討
17. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2012年4月～2014年3月	研究課題 胃・大腸癌感謝におけるサルコペニアと術前食事摂取量およびアウトカムの関連性
18. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2011年4月～2013年3月	研究課題 神経筋疾患専門病院における経皮内視鏡的胃瘻造設術

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
19. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2011年4月～2013年3月	(PEG)施行患者のアウトカム評価 研究課題 胃癌術後補助化学療法の栄養管理に関する研究
20. 卒業論文 文献検索、抄読会	2010年4月～現在	教科書以外の文献、卒業論文に必要な文献を検索させ、週1回抄読会を開催している
21. クリニカルカンファレンス論	2010年4月～2021年3月	NCM分野のアップグレード科目クリニカルカンファレンス論で、医療従事者向け接遇演習とディベートを取り入れた
22. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2010年4月～2012年3月	研究題目 経皮内視鏡的胃ろう造設術施行患者の栄養状態と術後合併症に関する研究
23. 卒業論文発表予行および国家試験対策のための丹嶺合宿	2009年12月～2013年12月	丹嶺学苑研修センターにおいて、卒業論文発表の予行を行い、本番に備える。また国家試験勉強の追い込みも同時に行う。のこり僅かとなった研究室メンバー（学部生、院生）との友好を深める。
24. 臨床栄養学実習Ⅰ・臨床栄養学実習Ⅱ	2009年4月～現在	チーム医療の観点から、他職種（医師・看護師・言語聴覚士・訪問看護師）を外部講師にオムニバスで実習を展開している
25. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2009年4月～2011年3月	研究課題 外来化学療法患者における血清亜鉛と有害事象の関係
26. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2009年4月～2011年3月	研究課題 結核患者の栄養アセスメントに関する研究 ～入院時栄養状態の把握及び排菌陰転化に及ぼす因子の検討～
27. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2008年4月～2010年3月	研究課題 C型慢性肝疾患患者の体格および栄養摂取状況の把握
28. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2008年4月～2010年3月	研究課題 慢性閉塞性肺疾患患者の栄養摂取量及びフィシャー比を含む栄養アセスメントに関する研究
29. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2008年4月～2010年3月	研究課題 外来化学療法患者における栄養障害患者の存在と簡易栄養評価法の有用性の検討
30. 国際栄養学演習の基盤 MFWIの食物栄養学科短期留学のシステム構築	2007年8月および2008年8月	アメリカ合衆国ワシントン州スポケーン市内にあるムコガワ・フォートライト分校（MFWI）の食物栄養学科短期留学のシステム構築を目的に、Idaho University, Retirement Center Rehabilitation Hospital, Deaconess Medical Center など視察し、翌年、希望した2年生、4年生のMEWI留学に同行し、各施設研修、Idaho学生とのコラボ授業など実践した。
31. 大学院の論文指導（生活環境学研究科 食物栄養学専攻）	2007年4月～2009年3月	研究課題 2型糖尿病男性患者の内臓脂肪蓄積の臨床的意義に関する検討
2 作成した教科書、教材		
1. 臨地実習ガイドブック	2022年2月1日5訂版	管理栄養士国家試験受験資格に必須である臨地実習に臨む際の参考書
2. 高齢者高血圧の治療と管理	2014年10月20日	高齢者高血圧の減塩指導におけるコツと注意点について高血圧治療ガイドラインの改正に伴うハンドブックの中の一部として掲載
3. Nブックス 臨床栄養管理	2013年2月～現在	発刊から臨床栄養学Ⅰ～Ⅳで使用している（現在は第四訂）
4. 栄養科学イラストレイテッド 演習版 臨床栄養学ノート	2012年5月1日	テキスト基礎編・疾患別編を併用し、国家試験問題に準拠した演習問題を反復学習する。
5. 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 基礎編	2012年2月15日～現在	担当箇所、チーム医療、消火器疾患 厚生労働省による管理栄養士国家試験出題基準をもとに臨床栄養学の内容を網羅した。基礎編では、管理栄養士の臨床現場での活動の流れに沿って項目を構成している。第2章チーム医療は臨床栄養学ⅠおよびⅡで使用している
6. 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編	2012年2月15日～現在	厚生労働省による、管理栄養士国家試験出題基準をもとに臨床栄養学の内容を網羅した。各疾患ごとの栄養

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
7. 健康・栄養系教科書シリーズ 臨床栄養学概論	2011年10月20日2022年3月30日第2版	管理に沿って構成。 第2章消化器疾患は臨床栄養学Ⅲで使用している 位田忍, 市橋きくみ, 伊藤美紀子, 鞍田三貴, 鈴木永一, 本田まり, 松元紀子, 森田純仁, 蓬田健太郎 第3章消化器疾患の病態と栄養管理、第12章術前・術後の栄養管理を担当し、臨床栄養学ⅢおよびⅣで使用している
8. 臨床栄養学概論	2011年10月20日	2, 3年制の栄養士養成施設の学生を対象とした教科書 臨床現場で飛び交う医療略語について解説し、学外実習学年の授業に用いている
9. 医療略語 連載	2010年9月～11回連載	
10. NST症例集	2008年04月	急性期病院における栄養サポートチームにおいて、実際に対応した難渋症例を提示している
11. NSTケースレポート	2007年2月～現在	第2部 症例別栄養管理法を作成。臨床栄養学Ⅳの授業に使用している
12. これからの術後食指導	2006年2月	食事指導部全項作成 P20-36 P53-64 P88-96 P109-115 P128-133 P134-138作成した。臨床栄養学Ⅲで使用している。
13. 臨床栄養学Ⅱ 疾患と栄養偏	2005年03月	栄養欠落 P284-295
14. メディカル管理栄養士のためのステップアップマニュアル	2004年07月	栄養評価はなぜ必要か P50-59
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 第11回武庫川女子大学栄養科学研究所 公開シンポジウム	2023年2月18日	栄養サポートステーションコロナ禍におけるトピックス
2. 第8回栄養科学研究所公開シンポジウム	2022年3月Web開催	コロナ禍における栄養サポートステーションの活動を紹介した
3. 第7回栄養科学研究所公開シンポジウム	2019年3月9日	栄養サポートステーションからみた諸問題として、薬のいる人いない人について講演した
4. 武庫川女子大学看護学部看護学科	2018年4月～現在	看護学科において「チーム医療論」のオムニバス授業を担当している
5. 管理栄養士国家試験模擬試験問題作成（インターメディカル社）	2018年4月～2019年4月	株式会社インターメディカルによる2018年、2019年の国家試験模擬試験問題を作成した
6. 第5回栄養科学研究所公開シンポジウム	2018年2月21日	栄養サポートステーションにおける活動を紹介「血糖管理うまくいく人いかなない人」
7. 管理栄養士国家試験模擬試験問題作成（医歯薬出版）	2017年4月	医歯薬出版社主催2017年度管理栄養士国家試験模擬試験問題を作成した
8. 第4回栄養科学研究所公開シンポジウム	2016年2月27日	超高齢化社会に向けてクリニック部門の取り組みを紹介した
9. 大阪薬科大学市民公開講座	2015年5月30日	大阪薬科大学主催の市民公開講座において、一般の高齢者を対象に「賢い食事で健康寿命をのばそう」について講演した。今年度からの新制度「機能性表示食品」についても述べた。
10. 第1回栄養科学研究所公開シンポジウム	2013年2月9日	研究所研究員によるトピックス紹介において栄養サポートステーションの取り組みを公開した
11. 武庫川女子大学附属図書館教養講座	2012年10月20日	2012年度 文化祭における講演会にて「健やかな高齢期を過ごすための栄養ケア」について地域の高齢者を対象に、何をどれだけ食べればよいか、健やかな高齢期を過ごすためのポイントをわかりやすく解説した。
12. 学校法人大阪行岡医療大学非常勤講師	2012年4月～2016年3月	学校法人行岡医療大学理学療法士養成において栄養学の授業を担当した
13. 武庫川学院創立70周年記念公開シンポジウム	2010年2月6日	地域栄養医療連携の必要性についての公開講演をおこなった
14. ひょうごオープンカレッジ	2007年8月3日	オープンカレッジにおいて①食物（栄養）の旅路～栄養素の体内の旅路とその役割、②正しく甘いもの・正しく脂肪～脳の健康も考えて～計2回講義を担当した
15. 管理栄養士国家試験対策講習会	2006年12月16日	エムサービス株式会社主催の管理栄養士国家試験対策講習会の講師を務めた
16. 大阪市立環境科学研究所附設栄養専門学校第39回夏期技術研修会	2006年8月	栄養専門学校夏期講習においてNSTの働きと今後管理栄養士が力を入れることー今、なぜ栄養サポートが必要なのかーについて講師を務めた

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
17. 大阪市立環境科学研究所附設栄養専門学校 特別講義	2006年1月11日	管理栄養士を目指す学生へ特別講義の講師を務めた「臨床における管理栄養士業務の実際」
18. 広島女子学院大学生生活科学部 特別講義	2005年12月14日	広島女学院大学の管理栄養士をめざす学生へ「臨床における管理栄養士活動の実際」について講演した
19. 大阪市立環境科学研究所附設栄養専門学校 非常勤講師	2003年7月～2006年3月	チーム医療論、国家試験対策の授業を担当
20. 国立大阪病院付属看護学校特別講義	2003年4月	看護師を目指す学生を対象に食事療法について講義した
21. 大阪市立環境科学研究所附設栄養専門学校第35回夏期技術研修会	2002年4月	栄養専門学校の学生を対象とした夏期講習で「病院栄養士の役割」講師を務めた
22. 国立大阪病院付属看護学校看護科非常勤講師	2001年4月～2004年3月	国立大阪病院付属看護学校看護科において栄養学の授業を担当
23. 国立病院機構大阪医療センター栄養管理室	1999年4月～2005年3月	国立病院機構大阪医療センター栄養管理室において管理栄養士・栄養士過程の臨地実習学生指導を担当
24. 国立病院機構胸部疾患センター栄養管理室	1994年4月～1999年3月	国立病院機構大阪医療センター栄養管理室において管理栄養士・栄養士過程の臨地実習学生指導を担当
25. 国立病院機構兵庫中央病院栄養管理室	1991年4月～1994年3月	国立病院機構兵庫中央病院栄養管理室において管理栄養士・栄養士過程の臨地実習学生指導を担当
4 その他		
1. 栄養関連学会の聴講	2021年4月～現在	web形式開催の栄養関連学会における社会人医療従事者の発表を聴講させている
2. 担任業務	2020年4月～現在	食物栄養学部食物栄養学科Bクラス担任
3. 栄養科学研究所クッキングスタジオにおける学生主体の料理教室	2018年4月～現在	栄養科学研究所栄養サポートステーションに来院される糖尿病患者を対象に栄養科学研究所クッキングスタジオにおいて4年生、3年生、大学院生による料理教室を実施してる
4. 栄養サポートステーションの栄養支援（在宅訪問栄養指導）	2016年4月～2019年3月	学生および院生が糖尿病認知症患者の自宅へ訪問し、栄養支援を行った
5. 担任業務	2016年4月～2018年3月	食物栄養学科Bクラス途中担任
6. 担任業務	2013年4月～2016年3月	食物栄養学会Aクラス担任（担任団世話人）
7. 栄養サポートステーションによる患者支援	2011年9月～現在	大学近隣の開業医および大学病院より栄養相談の必要な方を紹介いただき、院生および学生が患者支援にあたる。授業では経験できない生きた実践教育が行えている
8. 大学院進学支援	2009年4月～現在	食物栄養学専攻への進学希望者への推薦書作成
9. 担任業務	2009年4月～2013年3月	食物栄養学科Bクラス担任
10. 就職支援	2007年4月～現在	国公立、市立病院機構への就職希望者に面接指導、履歴書添削を行っている
11. なにわ栄養士ひよこクラブ活動	2006年4月～2011年6月	学生と社会人（管理栄養士）主体の研究会を立ち上げ、テーマごとに外部講師に交渉し、学生と社会人との交流を図った
12. 担任業務	2005年4月～2009年3月	食物栄養学科Cクラス担任
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 日本臨床栄養代謝専門療法士（がん専門療法士）	2022年2月13日～現在	日本臨床栄養代謝学会認定
2. 認定臨床栄養学術師	2004年4月1日～2019年12月31日	臨床栄養学会認定
3. 栄養サポートチーム（NST）専門栄養士	2004年3月～現在	日本臨床栄養代謝学会（旧：日本静脈経腸栄養学会）認定
4. 日本サプリメントアドバイザー	2004年1月～現在	日本臨床栄養協会認定
5. 管理栄養士	1984年7月21日～現在	臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅲ、臨床栄養学Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 第16回心不全教育セミナー（Web）	2022年10月15日2022年10月15日	済生会熊本病院主催、帝人ヘルスケア株式会社共催の心不全教育セミナーにおいて「たかが栄養、されど栄養～心不全の栄養管理～」特別講演の講師を務めた

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
2. 兵庫県栄養士会「生涯教育研修会における講師	2022年10月15日2022年10月15日	兵庫県栄養士会が主催する生涯教育研修会において、栄養評価～介護も医療も栄養管理が必須業務～について講師を務めた（Web開催）
3. 千葉県臨床工学技士会主催大11回人工呼吸セミナー	2022年2月10日～3月10日	看護師、臨床工学士を対象に、管理栄養士の視点から考える呼吸療法中の排便対策、についてセミナー講師をつとめた web開催、オンデマンド有
4. 日本慢性期医療協会主催セミナー 慢性期医療展 2021	2021年8月26日	慢性期医療協会主催の医療展において「回復期リハビリテーション病院の栄養管理」について講師を務めた
5. 株式会社イーライリー主催 秋桜の会	2018年4月5日～2019年6月6日	年2回定期開催である阪神地区の糖尿病療養指導に携わっている看護師を対象に講師を務めた
6. 第10回加賀地区栄養管理セミナー（加賀医療センター）	2017年11月27日	加賀医療センター主催のセミナーにおいて栄養管理の重要性について講演
7. 西宮市薬剤師会主催健康講演会「薬と健康フェア」	2017年10月29日	西宮市薬剤師会が主催する健康講演会において「糖質制限は有効か」講師を務めた
8. 西宮市医師会主催健康フォーラム	2017年9月30日	西宮市医師会主催健康フォーラムにおいて「食を見直してあなたの腎臓を守りましょう」講師を務めた
9. 西宮ロータリークラブ定例会	2017年3月	西宮ロータリークラブ会員を対象に「すこやかに生きるための食事療法」について講演した
10. 一般社団法人新仁会グループ看護部中間管理者研修	2016年10月29日	看護師長対象の研修会において老年看護の特性を踏まえた生活支援について講師を務めた
11. 模擬授業 大阪府立枚方高等学校	2016年10月27日	医療における管理栄養士の役割について模擬授業をおこなった
12. 高槻市主催 高槻稲穂塾定例会	2016年2月19日	高槻市が主催する定例会において高齢者を対象に「賢い食事で健康寿命をのばそう」講演を行った
13. 医療法人社団和風会千里リハビリテーション病院顧問	2016年2月現在	千里リハビリテーション病院臨床栄養部の顧問を務めている
14. 兵庫県理学療法士会但馬ブロック講習会	2016年1月30日	理学療法士を対象に、栄養管理の重要性、栄養とサルコペニアについて講演した
15. 分野別説明会 兵庫県立尼崎北高等学校	2015年9月28日	1年生対象の分野説明会
16. 西宮渡辺心臓脳・血管センター主催健康塾	2015年6月～2019年9月	西宮市内住民に対し年2回開催の健康講座において講師を務めた
17. 出張授業 武庫川学院附属高校3年スーパーサイエンス	2015年1月26日	化学演習Ⅲにおいて、人体にとっての栄養とは、嚥下のメカニズムについて化学演習を行った。
18. 平成26年度厚生労働科学研究（がん政策研究）日本がん対策推進総合研究事業	2014年11月30日	若手医師、管理栄養士、薬剤師を対象に臨床栄養（チーム医療）の基礎についての講義を行った
19. 第18回兵庫生活習慣病懇話会 2型糖尿病患者における睡眠障害と食行動の関連性	2014年11月15日	初回糖尿病教育入院患者26症例を対象に睡眠障害と食行動の関連について睡眠障害は食後血糖、食行動に影響していたことを報告
20. 模擬授業 大阪市立東高等学校	2014年10月6日	高校2年生を対象に食べる意味、臨床栄養について講義した
21. 阪神地区糖尿病重症化予防セミナー	2014年7月19日	武庫川女子大学栄養科学研究所栄養クリニック部門栄養サポートステーションが地域医療連携を提案し、糖尿病を地域で支援するためのセミナーを開催。栄養サポートステーションの活動を紹介した。
22. 社会医療法人渡邊記念会西宮渡辺病院 顧問	2014年3月～現在	社会医療法人渡邊記念会西宮渡辺病院の栄養部門顧問を務めている
23. 模擬授業 兵庫県立三木高等学校	2013年12月16日	高校1年、2年対象 医療における管理栄養士の役割について模擬授業
24. 石川県臨床工学技士会主催 石川呼吸療法セミナー	2013年10月～2018年10月	石川県臨床工学技士会による呼吸管理セミナーにおいて栄養管理法について毎年1回計5回講師を務めた
25. 株式会社ヘルスケアパートナーズ顧問	2013年3月～2016年4月	高齢者福祉施設関連企業において、栄養給食部門の顧問を3年務めた
26. 味の素製菓主催 第3回大阪栄養介護セミナー	2013年1月26日	当該セミナーにおいて、「地域における栄養管理～栄養サポートステーションの紹介～」講師を務めた
27. 宮本クリニック透析勉強会	2012年12月15日～現在	透析患者家族に向けた透析療法中の食事管理について定期セミナーで講師を務めている
28. 第40回TFA訪問看護リハビリテーション研修会	2012年11月10日	訪問看護リハビリテーションで活躍する理学療法士を対象に、「コメディカルが知っておきたい栄養管理」栄養管理のポイントを述べた（神戸市立婦人会館）

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
29. 模擬授業 大阪府立泉佐野高等学校	2012年10月15日	管理栄養士の仕事とは、について模擬授業を行った
30. 日本臨床栄養学会認定臨床栄養医研修会	2012年7月1日～2014年7月27日	日本臨床栄養学会が認定する臨床栄養医の研修会の講師を4年4回務めた
31. 味の素製薬主催 第7回地域医療連携栄養治療ネットワーク	2012年7月1日	管理栄養士養成大学が地域医療に何ができるかについて講演した
32. 味の素製薬主催 第7回地域医療連携栄養ネットワーク	2012年5月26日	管理栄養士養成大学が地域医療に何ができるかについて講師をつとめ武庫川栄養サポートステーションの活動を紹介した
33. 出張講義 武庫川学院附属高校	2012年2月2日	高校2年生を対象に管理栄養士の役割について授業を行った
34. 産経新聞社主催 働く人々のための健康フォーラム	2011年10月	産経新聞社主催健康フォーラム「メタボリックシンドロームに潜む健康リスク」について講演を行った
35. 日本栄養士会災害支援活動	2011年5月3日～2011年5月5日	東日本大震災における災害支援を行った
36. 医療法人社団平成会みやもとクリニック	2011年3月～現在	透析サテライト病院において、非常勤管理栄養士として栄養指導を担当している
37. 兵庫県看護協会NST担当者研修会	2010年12月3日～2014年12月12日	栄養サポートチーム専門看護師認定のためのセミナーにおける講師を4年、4回務めた
38. 大塚製薬株式会社主催のKDC研究会	2010年10月15日～2010年12月10日	医療従事者を対象としたセミナーにおいてNSTについて2か月3回講師を務めた
39. 模擬授業 県立今津高等学校	2010年	食べるという意味について模擬授業を行った
40. 日本静脈経腸栄養学会主催四国地区TNT研修会	2009年11月	日本静脈経腸栄養学会主催四国地区TNT研修会において特別講演の講師を務めた「たかが栄養、されど栄養」
41. 第41回大阪糖尿病協会顧問医師会例会	2009年9月17日	当該定例会において、糖尿病専門医を対象に「たかが栄養、されど栄養」について講演した
42. 西日本臨床工学技士会チーム医療CE研究会西日本主催セミナー	2009年7月～2012年7月	呼吸療法に必要な栄養療法について年1回計7回講師をつとめた
43. 大塚製薬(株)主催 肝臓栄養療法フォーラム	2009年3月6日～2010年7月10日	当フォーラムにおいて医療従事者を対象に、「NSTにおける肝臓病教室の立ち上げ」について1年間4か所にて講演した
44. 分野別説明会 大阪府立山本高等学校	2009年	管理栄養士養成分野として模擬授業をおこなった
45. 模擬授業 大阪市立東高等学校	2009年	食べるという意味について模擬授業をおこなった
46. 奈良県立医科大学附属病院NSTセミナー	2008年12月9日	定例NSTセミナーにおいて、難治症例の栄養サポート、血糖管理を中心に、について講師を務めた
47. 兵庫県栄養士会栄養情報研究研修会	2008年3月14日	兵庫県栄養士会研修会において、症例検討のアドバザーを務めた
48. 神戸市立西市民医療センターNSTセミナー	2008年3月10日	西市民医療センターNSTセミナーにおいて食べられない人をどうするかについて講演した
49. 日本赤十字社和歌山医療センター学術講演会	2008年3月7日	当該講演会において、効果的なNST活動の進め方について講演した
50. 出張講義 県立明石高等学校	2008年	人は何のために食べるかについて講義した
51. 社団法人日本看護協会主催の研修会	2007年11月28日	消化器症状を持つ患者への食事の工夫について、講師を務めた
52. 第16回香川NSTメタボリッククラブ	2007年10月27日	NSTロールプレイング チーム医療についてロールプレイのコーディネイト
53. 厚生労働省HIV感染症医師実地研修	2007年10月19日	HIV感染症医師実研修1か月コースについて、臨床栄養学の講義を担当した。
54. 日本静脈経腸栄養学会2007年春期コ・メディカル教育セミナー	2007年6月2日	NST専門療法師認定セミナーにおける講師「栄養評価」を務めた
55. 国立病院大阪医療センター褥瘡対策委員会主催第7回褥瘡研修会	2007年2月19日	当該研修会において、医療従事者を対象に褥瘡と栄養・栄養管理は意味があるのかについて講師を務めた
56. 大阪府茨木保健所管内 集団給食研究会	2007年2月19日	茨木、高槻保健所合同講演会において保健所職員を対象にNSTについて講演した
57. 大阪市東成区医師会主催生涯教育講演会	2007年1月	東成区医師会主催の教育講演会において医師を対象に「明日から役立つ臨床栄養」について講演した
58. 模擬授業 京都府立洛西高等学校	2007年	人は何のために食べるか、について模擬授業を行った
59. メディカ出版社主催 ナースのための栄養管理セミナー	2006年12月17日～2007年3月17日	ナースを対象としたセミナーにおいて、患者満足度が向上する！術後食指導について講師を1年3回務めた
60. 舞鶴共済病院 記念講演	2006年11月27日	栄養療法およびNSTの重要性・意義・効果などについて講演した

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
61. 国立京都医療センター定期公演会	2006年7月18日	国立京都医療センター内定期講演会においてNSTが必要となった理由 について講演した
62. 第1回さいたま栄養治療を考える会	2006年6月24日	医療+α者を対象にメディカルがつくった栄養管理システムについて、講演した
63. 近畿国立病院薬剤師会主催定例研修会	2006年3月4日	薬剤師を対象研修会において、栄養士のNSTへの関わりと薬剤師との連携について講師を務めた
64. 旭化成(株)主催 臨床栄養セミナー	2006年2月28日	当該セミナーにおいて、NSTの実践と栄養士の役割、栄養士に必要なスキルとはんについて講師をつとめた
65. 北海道東北国立病院栄養士協議会学術部研修会	2006年2月26日	管理栄養士を対象とした研修会においてこれからの栄養管理について講師を務めた
66. 医療法人旭会園田病院主催オープンカンファレンス	2006年2月16日	当該病院主催のオープンカンファレンスにおいて、地域連携の重要性、在宅栄養管理について講演した
67. 全国在宅訪問栄養食事指導研究会(関西ブロック)	2006年2月12日	当該研究会においてNSTを在宅にどのよに導入するかについて講師を務めた
68. 全国老人福祉協議会主催 新介護予防セミナー	2006年2月10日	平成17年度新介護予防セミナーワークショップにおいて介護予防の栄養改善～具体的な進め方～について講師を務めた
69. 第12回岩手の消化器臨床栄養懇話会	2006年2月4日	当該懇話会においける特別講演で、NST活動における早期栄養教育と肝臓病教室、について講演した
70. 在宅ケアネットワーク香川主催のセミナー	2006年1月14日	高齢者の栄養管理についてセミナー講師を務めた
71. 模擬授業 武庫川学院付属高校	2006年	栄養士の仕事について模擬従業を行った
72. 株式会社ニチダン社内研修	2005年11月10日～2006年12月8日	病院給食委託会社ニチダンの社内研修において、1年4回の講師を務めた
73. 味の素ファルマ主催 チーム医療として肝臓病栄養治療を考える会	2005年9月24日	医療従事者を対象に肝疾患とNST活動、栄養士の関わり方について講演した
74. 大阪北ブロック市町地域保健所関係職員研修会	2005年8月8日	保健所職員を対象に介護予防としての栄養改善、低栄養状態の早期発見とその対応について講師を務めた
75. 味の素ファルマ主催 関西肝臓栄養治療フォーラム	2005年1月21日	医療従事者を対象に、NST活動における肝臓病教室の立ち上げ、について講演した
76. 第1回糖尿病療養指導士講習会	2004年12月12日	療養指導で大切なこと、栄養士の視点からという講習会においてNST活動における栄養管理について講師を務めた
77. 味の素ファルマ主催 肝疾患患者指導研究会	2004年11月13日	肝疾患専門家を対象に「NST活動における肝臓病教室の現状と成果」パネルディスカッションのパネラーを務めた
78. 国立病院栄養士協議会 がん患者栄養管理研究会	2004年10月9日	がん患者の栄養管理についてNSTによる取り組みについて講演した
79. 厚生労働省主催 栄養食事指導者研修会	2004年9月	栄養指導者研修会において、NST単科型から全科型へ、実際の取り組みについて講演
80. 第10回大阪病院機能向上研究会&NSTプロジェクト近畿エリア会議	2004年7月	医療従事者を対象としたパネルディスカッション「NSTラウンドの対象と効果」パネラーを務めた
81. 毎日新聞社主催 市民公開講座	2004年2月10日2004年2月22日	高血圧フォーラム たかが血圧、されど血圧、意外と知らない高血圧の知識がテーマのパネラーを2回務めた
82. 奈良県栄養士会主催 高齢者の栄養セミナー	2004年2月	奈良県栄養士会が主催する高齢者むけセミナーで講師を務めた
83. 毎日新聞社主催。定期市民公開講座	2004年2月	毎日新聞社主催の定期市民公開講座「高血圧フォーラム」についてパネラーを務めた
84. ダノン健康・栄養フォーラム	2004年2月	ダノン主催のフォーラムにおいて管理栄養士・栄養士の新しい役割・変わりつつある医療への対応についての講演を行った
85. 味の素ファルマ主催 病態別栄養セミナー	2004年1月	医療従事者を対象に、「栄養士から見た術前術後の栄養管理」について講師を務めた
86. 国立病院九州栄養士協議会若手栄養士研究会	2001年4月～2004年6月	栄養部門における臨床研究の進め方・まとめ方の実際～外科病棟における管理栄養士のかかわり～について3年4回講師を務めた
87. 東北循環器病予防研究会	2000年12月	東北循環器病予防研究会主催による公開講座において健康づくりと循環器病予防活動、21世紀の新たな取り組みについて講演した
88. 神戸新聞社・主婦の友社主催市民健康フォーラム	2000年12月	定期開催の市民健康フォーラム「C型肝炎最新線」について講師を務めた

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
89. 社団法人全国牛乳普及協会主催 ウエルネスフォーラム	1999年1月	全国牛乳普及協会主催の市民フォーラムにおいてパネラーを務めた「賢い食事が生涯健康のきめて」
90. 愛媛新聞社・主婦の友社主催の健康講演会	1997年10月	松山市健康講演会において「あなたの骨を考える」講演
91. 北国新聞社・主婦の友社主催 金沢市健康講演会	1997年6月	金沢市民健康講演会において「骨粗鬆症について考える」講師を務めた
92. 秋田魁新報社・主婦の友社主催健康講演会	1997年6月	秋田市健康講演会において「骨粗鬆症予防対策」について講演
93. 毎日新聞社主催市民公開講座パネラー	1996年11月1996年12月	女性健康講座 骨の健康と栄養のパネラー

4 その他		
1. 入試プロジェクト オープンキャンパス委員	2023年4月～現在	
2. 食物栄養学科・食生活学科運営委員広報プロジェクトチーム	2022年4月～現在	食物栄養学科・食生活学科運営委員広報プロジェクトチーム委員を担当している
3. 臨地実習教育実務委員会	2022年4月～現在	食物栄養科学部3学科共通臨地実習実務委員を務めている
4. 臨地実習教育検討委員会	2022年4月～現在	食物栄養科学部3学科共通の臨地実習検討委員を務めている
5. 学院親睦会	2021年4月2023年3月	学院親睦会委員を担当した
6. 学院 偕和会	2020年4月～2022年3月	偕和会委員を2年務めた
7. 武庫川女子大学鳴教会総会・研究会における健康講座	2017年3月～2019年2月23日	武庫川女子大学鳴教会総会・研究会において健康講座の講師を3年務めた
8. 食物栄養学研究会	2016年4月～2020年3月	食物栄養学研究会を4年担当した
9. 学生委員	2015年4月～2017年3月	学生委員を2年務めた
10. 入試広報 オープンキャンパス	2013年4月～2015年3月	オープンキャンパス委員を2年務めた
11. 国試対策委員	2013年4月2015年3月	国家試験対策委員を2年務めた
12. 紀要編集委員	2011年4月～2014年3月	武庫川女子大学紀要編集委員を4年務めた
13. 食物栄養学研究会	2009年4月～2013年3月	食物栄養学委員会を4年担当した
14. 諸資格対策委員	2008年4月～2010年3月	栄養教諭1種2種および家庭科教員1種2種の資格対策委員を2年務めた
15. 大学院実施研究担当	2007年4月～現在	食物栄養学専攻修士1年前期から2年前期の1年間病院研修のための施設打ち合わせ、研究計画作成、倫理委員会を担当している
16. 入試広報オープンキャンパス委員	2004年4月～2009年3月	オープンキャンパス委員を5年務めた

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 高齢者高血圧の治療と管理	共	2014年10月20日	先端医学社	日本高血圧学会の治療ガイドライン2014年改定にあたり作成された。高齢高血圧の減塩指導の要点について記した。
2. 臨床栄養第2版 基礎編	共	2014年2月	羊土社	本田佳子, 土江節子, 曾根博仁 編 鞍田三貴 他 第2章 チーム医療・在宅医療を担当した
3. 臨床栄養学第2版 疾患別編	共	2014年2月	羊土社	本田佳子, 土江節子, 曾根博仁 編 鞍田三貴 他 第3章 消化器疾患を担当
4. Nブックス 四訂臨床栄養管理	共	2013年2月	建帛社	渡辺早苗 寺本房子 松崎政三 鞍田三貴 他 第II章第3部胆石・胆嚢炎・膵炎 第10章血液疾患 第16章クリティカルケアを担当
5. 健康栄養系教科書シリーズ7 臨床栄養学概論	共	2011年10月20日2022年3月20日改訂	化学同人	位田忍, 市橋きくみ, 伊藤美紀子, 鞍田三貴, 鈴木永一, 本田まり, 松元紀子, 森田純仁, 蓬田健太郎 第3章 消化器疾患の病態と栄養管理、第12章術前・術後の栄養管理を担当
6. 健康栄養系教科書シリーズ7 臨床栄養学概論第1版7刷	共	2011年10月	化学同人出版	編者：秋山栄一 鞍田三貴 他 第2章 栄養評価 第3章 消化器疾患 第12章術前術後の栄養管理を担当した
7. 臨床栄養治療の実践 病態別編	共	2008年5月	金原出版	岡田正, 鞍田三貴
8. 管理栄養士技術ガイド	共	2008年4月	文光堂	中村丁次, 山本茂, 鞍田三貴
9. NSTケースレポート	共	2007年2月	株式会社メディカ出版	辻仲利政, 鞍田三貴 第2部ケースレポート全項を担当した

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
10. 消化器外科看護マニュアル	共	2004年3月24日	株式会社メディカ出版	辻中利政編集 鞍田三貴 今西健二 鳥山明子 他 第7章術前術後の食事指導入門 第8章栄養サポート入門を担当した
11. 高齢者施設用語事典	共	2003年3月31日	中央法規	小室豊允, 鞍田三貴, 他 栄養療法・栄養アセスメント・プランを担当した
12. これからの術後食事指導	共	2002年2月14日	株式会社メディカ出版	辻仲利政, 鞍田三貴 藤谷和正 平尾素宏 池永雅一 中森正二 食事指導全項担当した
13. 栄養科学シリーズ 臨床栄養管理学各論	単	2001年4月19日	講談社サイエンティフィック株式会社	寺本房子 市川寛 鞍田三貴 他 第6章クリティカルケアを担当した
14. 臨床栄養学Ⅱ疾患と栄養論	共	2001年3月29日	第一出版株式会社	南部征喜, 鞍田三貴 第22章 栄養欠落を担当した
15. メディカル管理栄養士のためのステップアップマニュアル	共	2000年7月	厚生労働省健康局 国立病院部政策医療課監修 第一出版	田花利夫, 成川輝明, 鞍田三貴 第2部栄養評価はなぜ必要かを担当した
16. Nブックス 臨床栄養管理	共	1999年1月31日	株式会社 建帛社	渡邊早苗, 松崎政三, 寺本房子 鞍田三貴 第3食 肺炎 第10章血液系の疾患 第16章クリティカルケアを担当
17. メディカル管理栄養士必携	共	1997年6月14日	厚生労働省健康局 国立病院部政策医療課監修 第一出版	田花敏男 猿田克年 成川輝明 鞍田三貴 全項担当 病院栄養士に必要な項目を示した
18. カルシウム交換表	共	1992年3月24日	ライフサイエンス出版株式会社	鞍田三貴 藤田拓男 全項担当 カルシウム100mgを含む食品重量を表にした
2 学位論文				
1. 栄養管理手順における栄養スクリーニング法の検討	単	2021年7月28日	武庫川女子大学大学院 論文博士 (食物栄養)	本論文の目的は、栄養管理の第一手順である栄養スクリーニング法のツールを検討することである。主観的包括的評価 (SGA) に着目し、マラスム型の栄養状態を示す頭頸部がん、浮腫を伴う心不全患者においてSGAが入院中の生存や、合併症発症を予測し得るか検討した。いずれもSGAは入院時栄養スクリーニング方法として有用であった。客観的指標より主観的評価が有用なのかを、SGAの原型を示したDeteky、Queenslan HealthのSGAエビデンス論文を引用し考察した。SGAの重点は栄養状態に関連する疾患の存在にあり、疾患をもつ患者の低栄養を診断しており、結果的に合併症発生や生存、在院日数などのアウトカムを評価し得たと考えられる。管理栄養士によるSGA評価は、栄養管理の第一手順であるスクリーニングツールとして有用であると結論付けた。
3 学術論文				
1. Weight trajectories since birth, current body composition and metabolic traits in young, normal-weight Japanese women with high percentage body fat. (査読付)	共	2022年12月	BMJ Open Diabetes Res Care. 2022 Dec; 10(6):e003045. doi: 10.1136/bmjdr-2022-003045.	Minato-Inokawa S, Hashiguchi A, Honda M, Tsuboi-Kaji A, Takeuchi M, Kitaoka K, Kurata M, Wu B, Kazumi T, Fukuo K.
2. Higher fasting glucose, triglycerides, resting pulse rate and high-sensitivity C reactive protein in adipose insulin	共	2022年12月	BMJ Open Diabetes Res Care. 2022 Dec; 10(6):e003013. doi: 10.1136/bmjdr-2022-003013.	Minato-Inokawa S, Honda M, Tsuboi-Kaji A, Takeuchi M, Kitaoka K, Takenouchi A, Kurata M, Wu B, Kazumi T, Fukuo K. 166人の正常体重の若い日本人女性において体組成、食事摂取量、心血管代謝を測定した。インスリン抵抗性(AT-IR)指数三群にグループ化し、分散分析と多重比分析。正常体重でインスリン抵抗性は若い女性の肥満とは異なるメカニズムを介して、グルコースおよび脂質代謝異常に加えて、軽度の全身性炎症に関連している可能性がある。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
-resistant but normal weight young Japanese women. (査読付) 3. Birth weight was associated positively with gluteofemoral fat mass and inversely with 2h postglucose insulin concentrations, a marker of insulin resistance, in young normal weight Japanese women(査読付)	共	2022年9月16日	Diabetology International 3 :375-380 https://doi.org/10.1007/s13340-021-00543-0	Honda M, Tsuboi A, Minato-Inokawa S, Takeuchi M, Yano M, <u>Kurata M</u> , Wu B, Kazumi T, Fukuo K. 出生時体重がグルテオ大腿脂肪量とインスリン感受性に関連しているかどうかを後方視的に検討した。20歳での体組成、およびインスリン抵抗性のマーカーを316人の日本人女性で測定した。148人が75gの経口ブドウ糖負荷試験を受けた。回帰分析により出生時体重の最も重要な決定要因を特定しました。出生時体重は、グルテオ大腿脂肪量と正の相関があり、インスリン抵抗性のマーカーであるOGTT2時間後のインスリン濃度と逆相関していた。
4. Associations of Infant Feeding with Body Composition and Cardiometabolic Health in Young Female University Students.	共	2022年9月	J Womens Health (Larchmt). 2022 Sep;31(9):1358-1363. doi: 10.1089/jwh.2021.0464. Epub 2022 Feb 17.	Honda M, Tsuboi A, Minato-Inokawa S, Takeuchi M, <u>Kurata M</u> , Takayoshi T, Hirota Y, Wu B, Kazumi T, Fukuo K.
5. Reduced gluteofemoral (subcutaneous) fat mass in young Japanese women with family history of type 2 diabetes: an exploratory analysis. (査読付)	共	2022年7月	Sci Rep. 2022 Jul 22;12(1):12579. doi: 10.1038/s41598-022-16890-0.	Honda M, Tsuboi A, Minato-Inokawa S, Takeuchi M, <u>Kurata M</u> , Wu B, Kazumi T, Fukuo K. 皮下脂肪組織の拡張性の制限は、2型糖尿病の第一度近親者の特徴である可能性があります。2型糖尿病(FHD)の家族歴が末梢脂肪量の減少と関連している可能性があるという仮説を検証した
6. Elevated Blood Pressure (120/80 mmHg) Is Associated with Elevated Serum Plasminogen Activator Inhibitor-1, Low Birth Weight, and Family History of Diabetes in Young Normal Weight Japanese Women. (査読付)	共	2022年3月	Metab Syndr Relat Disord. 2022 Mar;20(2):88-93. doi: 10.1089/met.2021.0071. Epub 2021 Dec 31.	Honda M, Tsuboi A, Minato-Inokawa S, Takeuchi M, <u>Kurata M</u> , Yamamoto A, Hirota Y, Wu B, Kazumi T, Fukuo K.
7. Weight Trajectory Since Birth, Current Body Composition, Dietary Intake, and Glucose Tolerance in Young Underweight Japanese Women. (査読付)	共	2022年2月	Womens Health Rep (New Rochelle). 2022 Feb 14;3(1):215-221. doi: 10.1089/whr.2021.0127. eCollection 2022.	Takeuchi M, Honda M, Tsuboi A, Minato-Inokawa S, <u>Kurata M</u> , Wu B, Kazumi T, Fukuo K. 日本人女子学生の出生時からの体重推移と食事摂取量を調べた。出生時体重、思春期の身長と体重、全身デュアルエネルギーX線吸収法による現在の体組成、食事摂取量、耐糖能、アディポカインを、低体重の若年者間で横断的に比較した若い日本人女性は、やせ欲求のためではなく、成人になるまで低体重になっている。低体重は、総体脂肪と相対的な骨格筋量で調整された殿大腿脂肪の増加と関連していた

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
8. Serum Orosomucoid Is Associated with Serum Adiponectin, Adipose Tissue Insulin Resistance Index, and a Family Histort of Type 2 Diabetes in Young Normal Weight Japanese Women. (査読付)	共	2022年1月22日	J Diabetes Res. 2022 Jan 22;2022 :7153238. doi: 10.1155/2022/7153238. eCollection 2022.	Honda M, Tsuboi A, Minato-Inokawa S, Takeuchi M, <u>Kurata M</u> , Takayoshi T, Hirota Y, Wu B, Kazumi T, Fukuo K. オロソムコイド (ORM: α -1 酸性糖蛋白) はCRPと同様に肝臓で合成される急性期蛋白であり、アディポネクチンと負、脂肪組織インスリン抵抗性と正の相関を示した。またORMは糖尿病家族歴がある女子大生で高値であった
9. Elevated Blood Pressure (120/80 mmHg) Is Associated with Elevated Serum Plasminogen Activator Inhibitor-1, Low Birth Weight, and Family History of Diabetes in Young Normal Weight Japanese Women. (査読付)	共	2021年12月31日	Syndr Relat Disord. : 10.1089/met.2021.0071. Online ahead of print. PMID: 34978864	Honda M, Tsuboi A, Minato-Inokawa S, Takeuchi M, <u>Kurata M</u> , Yamamoto A, Hirota Y, Wu B, Kazumi T, Fukuo K. 高血圧 (120/ 80 mmHg) は、血清プラスミノゲン活性化因子阻害剤-1の上昇、低出生体重、および正常体重の若い日本人女性の糖尿病の家族歴と関連していた
10. Birth weight was associated positively with gluteofemoral fat mass and inversely with 2-h postglucose insulin concertrations, a marker of insulin resistance, in young normal-weight Japanese women. (査読付)	共	2021年9月16日	Diabetology International https://doi.org/10.1007/s13340-021-00543-0	Mari Honda Ayaka Tsuboi Satomi Minato-Inokawa Kaori Kitaoka Mika Takeuchi Megumu Yano <u>Miki Kurata</u> Bin Wu Tsutomu Kazumi Keisuke Fukuo. 出生時体重は、殿大腿脂肪量と正の相関があり、インスリン抵抗性のマーカーであるグルコース後2時間のインスリン濃度と逆相関していた。
11. Association of family history of type2 diabetes with blood pressure and resting rate in young normal weight Japanese women(査読付)	共	2021年7月23日	Diabetology International https://doi.org/10.1007/s13340-021-00525-2	Mari Honda Ayaka Tsuboi Satomi Minato-Inokawa Kaori Kitaoka Mika Takeuchi Megumu Yano <u>Miki Kurata</u> Bin Wu Tsutomu Kazumi Keisuke Fukuo. 2型糖尿病の家族歴と正常体重の若い日本人女性の血圧は関連性を認めた
12. 現代若年女性の四肢骨格筋指数 (SMI) および握力と食事摂取状況 (査読付)	共	2021年6月	日本臨床栄養協会誌New Diet Therapy37 (1) p13-22 2021	武内海歌、小出あつみ、 <u>鞍田三貴</u> 健康な若年女性53人のBMIや握力、食事摂取量は本邦の20代女性の値とほぼ同様であったことから、現代の健康な若年女性の約4割程度に骨格筋量の低値が疑われる。
13. Associations of serum transthyretin with triglyceride in non-obese elderly	共	2021年1月28日	The Japan Diabetes Society 2021 https://doi.org/10.1007/s13340-	Satomi Minato-Inokawa, Ayaka Tsuboi, Mika Takeuchi, Kaori Kitaoka, Megumu Yano, <u>Miki Kurata</u> , Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo. Fasting and nonfasting TG showed positive association with TTR in community-dwelling elderly non-obese women

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Japanese women independently of insulin resistance, HDL cholesterol, and adiponectin(査読付)			021-00496-4	independently of insulin resistance, HDL cholesterol, and adiponectin. These finding may provide a clue as to a physiological function of circulating TTR in human: an influence factor of TG-rich lipoproteins in the circulation.
14. 初診断時における下咽頭がん男性患者のサルコペニア有病率(査読付き)	共	2020年10月	日本臨床栄養学会誌42(1)46-53	武内海歌、吉村知夏、北村亜紀子、北野睦三、 鞍田三貴 .
15. 高侵襲手術予定頭頸部がん患者の術後合併症を予測する術前栄養因子の検討(査読付)	共	2020年6月10日	日本臨床栄養協会誌New Diet Therapy 36(1)p3-12 2020	鞍田三貴 、武内海歌、吉村知夏、竹村亜希子、北村亜紀子、北野睦三。 侵襲施行頭頸部がん患者の術後合併症を予測する因子を見出すために種々の術前栄養指標と術後合併症発生のと関連について検討した。結果、管理栄養士により主観的包括的評価による術前栄養状態の評価が最も術後合併症を予測した。学術賞
16. Association of ABC (HbA1c, blood pressure and LDL-cholesterol) goal achievement with visit-to-visit ABC variability and postprandial dysmetabolism in type 2 diabetic patients. (査読付)	共	2020年6月	Asia Pac J Clin Nutr. 2020;29(3):476-482	Kaori Kitaoka, Akiko Takenouchi, Satomi Minato-Inokawa, Mika Takeuchi, Ayaka Tsuboi, <u>Miki Kurata</u> , Keisuke Fukuo, Tsutomu Kazumi.
17. Determinants and correlates of adipose tissue insulin resistance index in Japanese women without diabetes and obesity(査読付き)	共	2020年6月	BMJ Open Diabetes Res Care. 2020 July	Kitaoka K, Tsuboi A, Minato S-Inokawa, Honda M, Takeuchi M, Yano M, <u>Kurata M</u> , Wu B, Kazumi T. .
18. Decreased arterial distensibility and postmeal hyperinsulinemia in young Japanese women with family history of diabetes. (査読付)	共	2020年5月	BMJ Open Diabetes Res Care. 2020 May doi:10.1136/bmjdr-2020-001244	Mika Takeuchi, Bin Wu, Mari Honda, Ayaka Tsuboi, Kaori Kitaoka, Satomi Minato, <u>Miki Kurata</u> , Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo FHD was associated with decreased arterial distensibility and postprandial hyperinsulinemia despite nearly identical postprandial glycemia and postprandial FFA suppression, suggesting that impaired vascular insulin sensitivity may precede glucose and lipid dysmetabolism in normal weight Japanese women aged 22 years.
19. 心不全患者における主観的包括的評価(SGA)の短期予後予測の妥当性(査読付)	共	2020年4月	心臓リハビリテーション学会誌26(1)136-146 Journal of the Japanese Association of Cardiac Rehabilitation	鞍田三貴 、武内海歌、亀井こずえ、岡村春菜、笹部麻美、木戸里佳、高木洋子、民田浩一 心不全患者253例を対象にSGA、CONUT、GNRI判定と入院中の生存率の関連を検討し、入院中の死亡予測因子を求めた。SGA栄養不良群の入院中生存率は低く、GNRI、CONUTは生存率に差を認めなかった。死亡予測因子として、SGA判定が抽出された。
20. 高齢頭頸部癌患者における治療前サルコペニア評価に関する検討(査読付)	共	2020年3月	頭頸部癌 46(3):284-290(2020)	北野睦三、藤原良平、堀口生茄、西原美沙子、白石功、小林孝光、森川大樹、佐藤満雄、速水康介、北村亜紀子、吉村知夏、武内海歌、 鞍田三貴 、土井勝美 高齢頭頸部癌患者の約30%がサルコペニアであった。嚥下障害を生じる頭頸部癌における二次性サルコペニアの評価を行うことは有意義と考えられる。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
21. Higher circulating orosomucoid and lower early-phase insulin secretion in midlife Japanese with slower glucose disposal during oral glucose tolerance tests (査読付)	共	2020年1月	Diabetol Int (2020)11:27-31	Ayaka Tsuboi, Kaori Kitaoka, Megumu Yano, Mika Takeuchi, Satomi Minato, <u>Miki Kurata</u> , Gen Yoshino, Bin Wu, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Lower early-phase insulin secretion and low-grade inflammation were associated with slower glucose disposal during an oral glucose tolerance test in midlife Japanese. The rate of glucose disposal was not related to adiposity and insulin resistance.
22. 高侵襲手術予定頭頸部がん患者の術前栄養状態 (査読付)	共	2019年12月	日本臨床栄養学会雑誌41(2):164-171 (2019)	鞍田三貴、武内海歌、吉村知夏、竹村亜希子、北村亜紀子、北野睦三 高侵襲手術予定頭頸部がん患者40症例を対象に、術前血液検査値、入院前の食事摂取量、術前SGA、EAT-10による誤嚥リスク、術前サルコペニア診断、術後創部合併症発生率を検討した。術前において体重減少、低BMI、誤嚥ハイリスク割合が多い。頭頸部がん術前の栄養療法を確立し、早期からの栄養管理が必要である。
23. Association of Age and Anemia With Adiponectin Serum (査読付)	共	2019年4月1日	Journal of Clinical Medical Research 11(5):367-374	Mari Hondaa, Ayaka Tsuboi, Satomi Minato, Kaori Kitaoka Mika Takeuchi, Megumu Yano, <u>Miki Kurata</u> , Wu, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo, Adiponectin serum level are affected by sex, ethnicities, adiposltly, age and several pathological conditions such as anemia . In normal-weight Japanese women, the prevalence of hyperadiponectinemia and serum adiponectin were increased and associated with anemia at 65 years of age and older.
24. Higher circulating adiponectin and lower orosomucoid were associated with postload glucose ≤ 70 mg/dL, a possible inverse marker for dysglycemia, in young Japanese women (査読付)	共	2019年2月	BMJ Open Diab Res Care 2019;7:e000596. doi:10.1136/bmjdr-2018-000596	Ayaka Tsuboi Satomi Minato, Megumu Yano, Mika Takeuchi, Kaori Kitaoka, <u>Miki Kurata</u> , Gen Yoshino, Bin Wu, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Higher adiponectin and lower orosomucoid were associated with 70 or lower mg/dL of postload glucose, a possible inverse marker for dysglycemia, in young women independently of DXA-derived fat mass and distribution, insulin secretion and IR.
25. Higher Fasting and Postprandial Free Fatty Acid Levels Are Associated With Higher Muscle Insulin Resistance and Lower Insulin Secretion in Young Non-Obese Women. (査読付)	共	2018年9月	Journal of Clinical Medical Research 2018 ; 10 (11) 822-829	Mika Takeuchi, Satomi Minato, Kaori Kitaoka, Ayaka Tsuboi, <u>Miki Kurata</u> , Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Young women whose PBG returned to FPG more slowly had higher muscle insulin resistance and lower MIR associated with higher fasting and postprandial FFA levels compared with young women whose PBG returned to baseline more quickly.
26. Elevated serum adiponectin and tumor necrosis factor- α and decreased transthyretin in Japanese elderly women with low grip strength and preserved muscle mass and insulin	共	2018年9月	BMJ Open Diab Res Care	Mika Takeuchi, Ayaka Tsuboi, Satomi Minato, Megumu Yano, Kaori Kitaoka, <u>Miki Kurata</u> , Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Hyperadiponectinemia and elevated TNF- α in addition to decreased TTR, a biomarker of age-related catabolic states, were found in community-living Japanese elderly women with low grip strength and preserved muscle mass and insulin sensitivity.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
sensitivity (査読付) 27. Associations of postprandial lipemia with trunk /leg fat ratio in young normal weight women independently of fat mass and insulin resistance. (査読付)	共	2018年2月	Asia Pac J Clin Nutr. 2018;27(2):293-299	Mika Takeuchi, Ayaka Tsuboi, <u>Miki Kurata</u> , Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo 腹部脂肪マーカーである体幹下肢脂肪比は、正常体重でインスリン感受性の若年女性でさえ、食後の高脂血症などが危険因子であった。
28. The Cluster of Abnormalities Related to Metabolic Syndrome Is Associated With Reduced Glomerular Filtration Rate and Raised Albuminuria in Patients With Type 2 Diabetes Mellitus. (査読付)	共	2017年5月25日	J Clin Med Res. 2017 Sep;9(9):759-764. doi: 10.14740/jocmr3097w. Epub 2017 Jul 27.	<u>Kurata Miki</u> , Takenouchi Akiko, Tsuboi Ayaka,3, Minato Satomi, Takeuchi Mika, Kitaoka Kaori, Fukuo Keisuke, Kazumi Tsutomu. In Japanese patients with type 2 diabetes, the cluster of abnormalities related to MS was associated not only with higher prevalence of albuminuria, reduced kidney function and hence the increase in CKD but also with corresponding changes in urinary ACR and eGFR.
29. Post-Prandial Plasma Glucose Less than or Equal to 70 mg/dl Is Not Uncommon in Young Japanese Women (査読付).	共	2017年5月10日	J Clin Med Res, 2017;9(8):680-686	Ayaka Tsuboi, Mika Takeuchi, Kaori Kitaoka, Satomi Minato, <u>Miki Kurata</u> , Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Post-prandial PG ? 70 mg/dL is not uncommon in young normal weight Japanese women and may not be a pathological condition. The underlying mechanisms for this finding need further exploration.
30. Association of Whole Blood Viscosity With Metabolic Syndrome in Type 2 Diabetic Patients: Independent Association With Post-Breakfast Triglyceridemia. (査読付)	共	2017年4月9日	J Clin Med Res. 2017 Apr;9(4):332-338. doi: 10.14740/jocmr2885w. Epub 2017 Feb 21.	Minato Satomi, Takenouchi Akiko, Uchida Junko, Tsuboi Ayaka, <u>Kurata Miki</u> , Fukuo Keisuke, Kazumi Tsutomu. Both the presence of MS and the number of MS components were associated with higher WBV in patients with type 2 diabetes.
31. Increased Adipose and Muscle Insulin Sensitivity Without Changes in Serum Adiponectin in Young Female Collegiate Athletes. (査読付)	共	2017年3月20日	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 15, Number 5, 2017 246-251	Kitaoka K, Takeuchi M, Tsuboi A, Minato S, <u>Kurata M</u> , Tanaka S, Kazumi T, Fukuo K. Endurance training was associated with increased insulin sensitivity in adipose tissue as well as skeletal muscle without changes in circulating adiponectin even in young, normal-weight Japanese women.
32. Postmeal triglyceridemia and variability of HbA1c and postmeal glycemia were predictors of annual decline in	共	2017年1月	Journal of Diabetes & Metabolic Disorders (2017) 16:1	Ayaka Tsuboi, Akiko Takenouchi, <u>Miki Kurata</u> , Keisuke Fukuo, Tsutomu Kazumi, Consistency of glycemic control and management of postprandial glycemia and lipidemia are important to preserve kidney function in type 2 diabetic patients.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
estimated glomerular filtration rate in type 2 diabetic patients with different stages of nephropathy. (査読付)				
33. Carotid intima-media thickness and visit-to-visit HbA1c variability predict progression of chronic kidney disease in type 2 diabetic patients with preserved kidney function. (査読付)	共	2016年12月	Journal of Diabetes Research Vol. 2016, Article ID 3295747, 6pages	Akiko Takenouchi, Ayaka Tsuboi, <u>Miki Kurata</u> , Keisuke Fukuo and Tsutomu Kazumi Subclinical atherosclerosis and long-term glycemic variability predict deterioration of chronic kidney disease (as defined by incident or worsening CKD) in type 2 diabetic patients with preserved kidney function.
34. Association of Metabolic Syndrome with Chronic Kidney Disease in Elderly Japanese Women: Comparison by Estimation of Glomerular Filtration Rate from Creatinine, Cystatin C, and Both (査読付)	共	2015年11月	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 14, Number 1, 2015 40-45	<u>Miki Kurata</u> , Ayaka Tsuboi, Mika Takeuchi, Keisuke Fukuo, and Tsutomu Kazumi, Associations between metabolic syndrome (MS) and chronic kidney disease (CKD) has not been extensively studied in elderly Asians, who in general have lower body mass index (BMI) than European populations. Prevalence of CKD varied substantially depending on the used equation. In nonobese, elderly Japanese women, both the presence of MS and the number of MS components were associated with higher prevalence of CKD and elevated blood pressure may play an important role in these associations. These findings should be confirmed in studies employing more participants with MS diagnosed using standard criteria (waist circumference instead of BMI).
35. Association of Metabolic Syndrome with Serum Adipokines in Community-Living Elderly Japanese Women Independent Association with Plasminogen Activator-Inhibitor-1 (査読付)	共	2015年11月	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 13, Number 9, 2015 415-421	Mika Takeuchi, Ayaka Tsuboi, <u>Miki Kurata</u> , Keisuke Fukuo, Tsutomu Kazumi Associations between metabolic syndrome (MetS) with serum adipokines and basal lipoprotein lipase mass (serum LPL) have not been extensively studied in elderly Asians, who in general have lower body mass index than European populations. Although proinflammatory, prothrombotic, and anti-inflammatory states were associated with MetS, higher PAI-1 was associated with MetS independent of fat mass index and insulin resistance in elderly Japanese women, in whom obesity is rare.
36. The impact of nutritional state on the duration of sputum positivity of Mycobacterium tuberculosis (査読付)	共	2015年11月	INT J TUBERC LUNG DIS 2015 Volume 19 Number 11, 1369-1375 (7)	Hatsuda Kazuyoshi, Takeuchi Mika, Ogata Kanako, Sasaki Yumiko, Kagawa Tomoko, Nakatsuji Haruka, Ibaraki Madoka, Sakaguchi Mitsuhiro, <u>Kurata Miki</u> , Hayashi Seiji The outcome of anti-tuberculosis treatment varies according to patient factors. To retrospectively identify risks related to the extension of time to negative sputum culture (Tn) and to determine their clinical significance. The nutritional state of a TB patient can be used to predict Tn.
37. Direct association of visit-to-visit HbA1c variation with annual	共	2015年10月	Disorders (2015) 14:69 DOI 10.1186/s40200-015-0201-	Akiko Takenouchi, Ayaka Tsuboi, Mayu Terazawa-Watanabe, <u>Miki Kurata</u> , Keisuke Fukuo and Tsutomu This study examined associations of visit-to-visit variability of glycemic control with annual decline in

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
decline in estimated glomerular filtration rate in patients with type 2 diabetes(査読付) 38. Low hemoglobin levels contribute to low grip strength independent of low-grade inflammation in Japanese elderly women (査読付)	共	2015年3月	y Asia Pac J Clin Nutr 2015;24(3): 444-451	estimated glomerular filtration rate (eGFR) in patients with type 2 diabetes attending an outpatient clinic. Annual changes in eGFR were computed using 52 (median) creatinine measurements obtained over a median follow-up of 6.0 years. Consistency of glycemic control is important to preserve kidney function in type 2 diabetic patients, in particular, in those with nephropathy. Eriko Yamada, Mika Takeuchi, i <u>Miki Kurata</u> , Ayaka Tsuboi, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Muscle strength declines with age. However, factors that contribute to such declines are not well documented and have not been extensively studied in elderly populations of Asian origin. Correlations of grip strength with a broad range of factors associated with declines in muscle strength were examined in 202 community-living elderly Japanese women.
39. 急性期脳血管疾患患者の嚥下機能改善に影響を及ぼす因子の検討(査読付)	共	2014年9月	日摂食嚥下リハ会誌18(2): 141-149 (2014)	山田恵理子 西村智子 山中英治 鞍田三貴 患者の意欲が嚥下機能改善に関係するかを検討した。脳血管疾患39例の嚥下機能改善群・不変低下群に分類した。意欲評価は、アパススケールを用いた。2群間の入院時の年齢、主疾患、脳卒中既往の有無、ADL、四肢麻痺の有無、JCS、血液検査値に差はなく、消化管使用までの日数、ST介入までの日数、誤嚥性肺炎の有無、うつスコアにも差は見られなかった。 ロジスティック回帰分析による嚥下機能改善に関係する因子は、入院時BMIとST介入時の意欲であった。
40. 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の予後予測栄養因子の検討	共	2014年3月31日	武庫川女子大紀要(自然科学)第61巻21-26(2013)	鞍田三貴、西真理絵、藤村真理子、里中和廣 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の生存に影響する術前背景および臨床指標を見出し、予後予測術前栄養因子を抽出した。5年間のPEG施行患者で生存調査が可能であった74症例を対象とした。Alb3.5以上、Hgb12以上、消化管栄養の患者が1年時点の生存期間が長期であった。1年生存に最も影響を与える因子は、気切切開の有無(ハザード比0.24、95%信頼区間0.07~0.78)とアルブミン(HR0.25、95%CI0.11~0.57)であった。
41. The impact of nutrition and glucose intolerance on tuberculosis development in Japan (査読付)	共	2014年1月	INT J TUBERC LUNG DIS 18(1): 84-88, 2014	Seiji Hayashi, Mika Takeuchi, Kazuyoshi Hatsuda, Kanako Ogata, <u>Miki Kurata</u> , Tamaki Nakayama, Yukio Ohishi, and Hideji Nakamura TB is decreasing favorably; however, Japan is still categorized as an intermediate-burden country. In this regard, we aimed to identify the metabolic and nutritional state risk factors for the development of TB. In Japan, the development of TB is still associated with iGT and malnutrition.
42. Association of Pulse Pressure with Serum TNF- α and Neutrophil Count in the Elderly (査読付)	共	2014年	Journal of Diabetes Research Vol. 2014, Article ID 972431, 7pages	Eriko Yamada, Mika Takeuchi, i <u>Miki Kurata</u> , Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo 2型糖尿病と炎症マーカーの危険因子として知られる脈拍の断面関係を150人の地域在住高齢女性のうち高血圧を有する人79人(52.7%)で調査した。 地域在住高齢女性の好中球、インスリン抵抗性、高値TNF- α と高い脈拍は独立した関係であることが実証され、インスリン抵抗性と慢性の軽度炎症は、高血圧を有する高齢女性の2型糖尿病と高い脈拍を部分的に関連づけていると示唆される。
43. 初回治療肺結核患者の排菌陰性化遅延を予測する入院時栄養因子の検討(査読付)	共	2013年10月	日本結核病学会誌 Vol. 88 No10:697-702	武内海歌 鞍田三貴 林清二 肺結核(TB)の排菌陰性化遅延を予測する入院時栄養因子を検討した。単変量解析では、男性、入院時BMI18.5kg/m2未満、Alb3.0g/dL以下、CRP0.3mg/dL以上、HbA1c (NGSP) 6.5%以上、RDA%エネルギー87%未満、喀痰塗抹検査が陰性化遅延因子として抽出された。重回帰分析では入院時HbA1c (NGSP)、CRP、BMIが抽出された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
44. 肺結核患者の入院時栄養評価~第1報~(査読付)	共	2013年5月	静脈経腸栄養学会誌Vol.28 No3: 131-136	武内海歌 鞍田三貴 福尾恵介 中山環 大石幸男 初田和由 林清二 結核患者の栄養状態を評価した。 結核菌検査を施行した382名(男268名、女性114名、平均年齢59.6±19.5歳)を対象とし、入院時BMI、血清アルブミン(A1b)、CRP、空腹時血糖(FBS)、TLC、PNIをretrospectiveに検討した。結核菌陰転化に入院時PNI、CRP、GLUが影響していた。血清A1b値は50歳未満の結核患者において陰転化を規定する因子として重要なマーカーであることが明らかとなった。
45. 臨床研修医における研修開始後の食行動変化と体脂肪量の変化(査読付)	共	2011年12月	肥満研究Vol.17 No3 210-215	鞍田三貴, 三浦あゆみ, 松田絵里, 今西健二, 辻仲利政 内臓脂肪に着目した保健指導は、壮年期が対象であり青年期に対しては、将来的な疾病予防対策は行われていない。ライフスタイルの変化や多大なストレス負荷が予想される研修医18名(25.4±2.6歳)を対象に、食行動と体組成の変化を明らかにした。
46. Effect of Preoperative Immunonutrition on Body Composition in Patients Undergoing Abdominal Cancer Surgery(査読付)	共	2007年	Surgery Today 37 :118-121	Toshimasa Tsujinaka, Motohiro Hirao, Kazumasa Fujitani, Hideyuki Mishima, Masakazu Ikenaga, Toshiro Sawamura, and Miki Kurata Preoperative administration of immunonutrients (ImpactR) may induce body structural changes which may modulate stress responses to improve surgical outcomes in patients with abdominal cancer. Feasibility of preoperative 5 days road of Impact and potential body structural changes was examined. Randomized study is planned on gastric cancer patients undergoing total-gastrectomy, to confirm clinical benefits of preoperative Impact intake.
47. Patient-Controlled Dietary Schedule Improves Clinical Outcome after Gastrectomy for Gastric Cancer (査読付)	共	2005年	World J. Surg. 29. 853-857	Motohiro Hirao, Toshimasa Tsujinaka, Atsushi Takeno, Kazumasa Fujitani, Miki Kurata Although early oral feeding after abdominal surgery has been recommended, the optimal dietary schedule has not been established. Enhanced dietary schedule was designed basing on a patient-controlled manner and clinical benefits were evaluated, comparing to conventional dietary schedule. Early dietary schedule was feasible after distal gastrectomy and it improved the clinical outcomes.
48. 臨床栄養管理業務における栄養評価に関する研究	共	2003年	平成14年度財団法人政策医療振興財団助成金研究班報告書	桑原節子、片桐義範、高橋美恵子、平野和保、鞍田三貴、石長孝二郎、橋本龍幸、橋本有史、安武健一郎、吉村弘美、池本美智子、船越美帆
49. 入院患者に占める低栄養患者の役割(査読付)	共	2002年10月	日本静脈経腸栄養学会誌17(4)77-82	鞍田三貴, 今西健二, 辻仲利政 2000年新規入院患者より無作為抽出した219人について栄養状態を prognostic nutritional index (PNI) において40以下の低栄養患者を約27%に、血清アルブミン値3.5g/dl未満の患者を約33%に認めた。低栄養患者(PNI40以下、アルブミン値3.5g/dl未満)の在院日数は有為に延長していた。入院患者に占める低栄養患者の割合は、1970年代に報告された数値と大きな差を認めなかった。
50. The Effect of Low-Density Lipoprotein Apheresis on Plasma Thrombomodulation Factors (査読付)	共	1992年4月	ASAIO Journal Vol. 38 No.2 102-107	Kaoru Hatanaka, Kagehiro Uchida, Hiroshi Sakai, Miki Kurata, Xiangnan Li, Akira Yamamoto
51. LDL除去装置の生体適合性についての検討(査読付)	共	1991年12月	動脈硬化 vol.19 No.12:1143-1150	畑中 薫 鞍田三貴 内田景博 李 祥安 山本 章 家族性高コレステロール血症に対しては薬物および食事療法での治療は不十分でありplasmapheresisが行われている。この治療の実施はLDL除去以外の悪影響を及ぼさないことが重要である。今回、決戦制御系、補体系に及ぼす影響を調べ生体適合性について評価した
52. Relationships	共	1990年	Diabetes	M. Kurata H. Horibe T. Maruyama and S. Nambu

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
between Serum Total Cholesterol and Obesity~A Field Study on Nutritional background of Hypercholesterolemia and its management(査読付)			Research and Clinical Practice (10) : S239~245	本邦における高コレステロール血症の栄養的背景を解明するための疫学調査。
53. 血清トリヨードサイロニンによる糖尿病食事療法の有効性と限界の予測	共	1989年	栄養アセスメント学会誌 Vol.6, No.2 : 70-73	鞍田三貴 脇昌子 成川輝明 南部征喜 充分量の食事摂取下において、II型DMのT3値は、肥満、インスリン分泌量が十分、罹病期間が短いほど高値であり、T3値は2型糖尿病の病像を包括的に反映している。T3値より食事療法の有効性と限界の予測が可能である
54. 高コレステロール血症の発症リスクとしての肥満ー栄養管理1年後の評価ー	共	1989年	肥満学会誌(10) : 160~162	鞍田三貴 堀部 博 岩根光子 本庄みのり 圓山誓信 南部征喜 検診において高コレステロール血症を認めた集団への栄養指導の効果を示した
55. 高コレステロール血症の発症リスクとしての肥満ー住民検診からの検討ー	共	1988年	肥満学会誌9 : 59-60	鞍田三貴 成川輝明 脇 昌子 洪 秀樹 古澤通生 西本香代子 横井信子 南部征喜 検診において高コレステロール血症を認めた集団の現地調査の結果糖質過剰が主原因であることを示した
56. Effect of Low-Energy Diets on Protein Metabolism of Obese Patients Studied with 15N-Glycin (査読付)	共	1987年12月	J. Nutr. Science and Vitaminol 33 (3) : 219-226	Y. OI T. Okuda H. Koishi H. Koh M. Waki M. Kurata and S. Nambu エネルギーレベルがほぼ同じであった場合、パプアニューギニア高地のタンパク質代謝がタンパク質摂取量の減少にもかかわらず維持されたことを示唆した
57. Relationship between Protein Intake and Nitrogen Balance in Obese Patients (査読付)	共	1987年6月	J. Nutr. Science and Vitaminol 33 (3) : 219-226	Y. OI T. Okuda H. Koishi H. Koh M. Waki M. Kurata and S. Nambu 低エネルギー食における肥満患者におけるタンパク質摂取と窒素バランスの関係を示した
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 日本臨床栄養協会 会員限定セミナー 栄養指導のDX	共	2023年6月24日	日本臨床栄養協会 在宅・プライマリケア委員会主催のオンラインセミナー	栄養指導のDXをテーマにオーガナイザー、座長を務めた
2. 脂質異常症の栄養管理はどうあるべきか～情報共有の実際から～パネルディスカッション	単	2023年2月11日	第54回日本臨床栄養協会近畿地方会	パネルディスカッションのファシリテーターを務めた
3. 第30回日本慢性期医療学会	単	2022年11月16日	第30回日本慢性期医療学会	一般演題 (栄養管理) 座長 一般演題 (医療ソーシャルワーク) 評価者
4. 第14回日本臨床栄養代謝学会近畿支部学術集会	単	2022年7月30日	日本臨床栄養代謝学会近畿支部学術集会Web開催	一般演題 症例 座長
5. 第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会	単	2022年6月1日	第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会	一般演題 がん周術期管理 座長
6. 第36回日本臨床栄養代謝学会	単	2021年7月21日	第36回日本臨床栄養代謝学会	一般演題 地域連携 在宅栄養 座長
7. 第41回日本臨床栄養学会/第40回日本臨床栄養協会、第19回大	共	2019年10月27日	第41回日本臨床栄養学会/第40回日本臨床栄養協会、第	鞍田三貴、前田恵子 終末期 (End of Life Care) における栄養 座長

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
連合大会シンポジウム6			19回大連合大会	
8. 第51回日本動脈硬化学会総会・学術集会	共	2019年7月12日	第51回日本動脈硬化学会総会・学術集会	鞍田三貴、藤岡由夫 ポスター2-5 食事療法・機能的食品・運動療法(2) 座長
9. 2019年度NR・サプリメントアドバイザーレベルアップセミナー	単	2019年6月2日	2019年度NR・サプリメントアドバイザーレベルアップセミナー	演題「これからの健康サポート～薬を超えて～」 「小児における食事と栄養」 座長
10. 第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会	共	2019年2月15日	第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会	鞍田三貴、七種伸行 一般演題(口演) 49 周術期2 座長
11. 第50回日本臨床栄養協会近畿地方会	共	2019年2月9日	第50回日本臨床栄養協会近畿地方会	臨床栄養 病院から在宅への課題～管理栄養士の立場から～ パネルディスカッション 座長
12. 第40回日本臨床栄養学会/第39回日本臨床栄養協会、第16回連合大会	単	2018年10月7日	第40回日本臨床栄養学会/第39回日本臨床栄養協会、第16回連合大会	教育講演7 臨床栄養における身体計測の役割～身体組成異常の把握との関連 座長
13. 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会	単	2018年2月23日	第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会	一般演題「ポスター」 64経腸栄養4 座長
14. 第48回日本臨床栄養協会近畿地方会	単	2018年2月10日	日本臨床栄養協会近畿地方会	これでよいのか栄養管理「あらためて考えよう腸栄養」でグループワークコメントター
15. 第47回日本臨床栄養学協会近畿地方会	単	2017年9月2日	第47回日本臨床栄養学協会近畿地方会	これでよいのか栄養管理「食べる・排泄を考えよう」教育講演 他職種で取り組む排便コントロール 座長
16. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	単	2017年2月23日	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	要望演題(サルコペニア1 食道癌等) 座長
17. 第38回日本臨床栄養学会 第37回日本臨床栄養協会 第14回連合大会	単	2016年10月9日	第38回日本臨床栄養学会 第37回日本臨床栄養協会 第14回連合大会	日本臨床栄養学会 ケースカンファレンス 座長
18. 第4回日本在宅栄養管理学会	単	2016年6月26日	第4回日本在宅栄養管理学会	一般演題(胃瘦経腸栄養) 座長
19. 第44回日本臨床栄養学協会近畿地方会	単	2015年10月31日	第44回日本臨床栄養学協会近畿地方会	栄養管理のスキルアップ(在宅医療第二弾) 座長兼コーディネーター
20. 第37回日本臨床栄養学会 第36回日本臨床栄養協会 第13回連合大会	共	2015年10月3日	第37回日本臨床栄養学会 第36回日本臨床栄養協会 第13回連合大会	一般演題 その他 座長
21. 第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	共	2014年10月4日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	一般演題 腎疾患 座長
22. 第29回日本静脈経腸栄養学会	単	2014年2月28日	第29回日本静脈経腸栄養学会	一般演題(ポスター) 座長
23. 高齢者の栄養ケア 今そこにある危機にチーム医療で立ち向かう 管理栄養士の立場から	単	2013年11月3日	第55回日本病院学会	超高齢化社会を迎えて、健康寿命を伸ばすための食事についての講演
24. 第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	共	2013年10月5日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	シンポジウム 在宅栄養管理の現状と今後の展開 座長

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
大会			養協会	
25. 第11回日本栄養改善学会近畿支部学術集会	単	2012年12月2日	第11回連合大会 第11回日本栄養改善学会近畿支部学術集会	パネルディスカッション 「実践栄養学10年の変遷と未来」 座長
26. 第11回日本栄養改善学会近畿支部学術集会	単	2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術集会	一般演題 臨床栄養（NST、栄養管理など） 座長
27. 第39回日本臨床栄養協会近畿地方会	単	2012年9月1日	第39回日本臨床栄養協会近畿地方会	教育講演 腎症をふまえた糖尿病診断 縁者脇昌子 座長
28. 第27回日本静脈経腸栄養学会	単	2012年2月23日	第27回日本静脈経腸栄養学会	一般演題 半固形化 座長
29. 第27回日本静脈経腸栄養学会	共	2012年2月	第27回日本静脈経腸栄養学会	ワークショップ 武内海歌 鞍田三貴 アウトカム予測因子としての栄養アセスメント 初回治療結核患者の排菌陰転化遅延に關与する入院時栄養因子 ランチョンセミナー 食のゼロ機能の科学と臨床～口腔機能と食品～ 野原幹司 座長
30. 第9回日本機能性食品医学学会	単	2011年12月10日	第9回日本機能性食品医学学会	一般演題 臨床栄養エビデンス 座長
31. 第33回日本臨床栄養学会 第32回日本臨床栄養協会 第9回連合大会	単	2011年10月28日	第33回日本臨床栄養学会 第32回日本臨床栄養協会 第9回連合大会	
32. 日本病態栄養学会		2011年1月	日本病態栄養学会	肝臓治療における栄養治療 現場からの熱いメッセージを込めて 講師 嚥下障害とリハビリテーション シンポジウム座長
33. 第32回日本臨床栄養学会 第31回日本臨床栄養協会 第8回連合大会	共	2010年8月28日	第32回日本臨床栄養学会 第31回日本臨床栄養協会 第8回連合大会	
34. 第33回栄養アセスメント研究会	単	2010年5月14日	栄養アセスメント研究会における教育講演	「栄養サポート加算導入後管理栄養士の果たす役割は何か」について講演
35. 第44回糖尿病学の進歩	共	2010年3月6日	第44回糖尿病学の進歩 日本糖尿病学会	療養指導士に必要な技能（4）NSTから見た糖尿病の適正カロリー レクチャー座長
36. 第13回日本病態栄養学会	単	2010年1月9日	第13回日本病態栄養学会	一般演題 NSTまたはチーム医療 座長
37. 日本静脈経腸栄養学会 四国地区TNT研修会	単	2009年11月8日	日本静脈経腸栄養学会 四国地区TNT研修会特別講演	当該研修会において医師を対象に「たかが栄養・されど栄養」について講演した
38. 日本静脈経腸栄養学会四国地区TNT研修会	単	2009年11月	日本静脈経腸栄養学会四国地区TNT研修会	たかが栄養、されど栄養 特別講演縁者
39. 第31回日本臨床栄養学会 第30回日本臨床栄養協会 第7回連合大会	共	2009年9月20日	第31回日本臨床栄養学会 第30回日本臨床栄養協会 第7回連合大会	PEGとチーム医療ー現状の問題点からー 座長
40. 第31回日本臨床栄養学会第30回日本臨床栄養協会第7回連合大会	単	2009年9月19日	ワークショップ 日本臨床栄養学会	NSTの新しい取組ワークショップ 座長
41. 第12回 日本病態栄養学会	単	2009年1月	第12回 日本病態栄養学会	一般演題 NST（座長）
42. 第31回日本臨床栄養学協会近畿地方会	単	2008年11月15日	第31回日本臨床栄養学協会近畿地方会	NST質の向上を求めて 老健施設における栄養士の取組み 介護老人保健施設エスペランサ 高橋賢子 特別講演座長
43. 第30回日本臨床栄養	単	2008年10月	第30回日本臨床	一般演題 栄養評価・NST 座長

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
学会 第29回日本臨床栄養協会 第6回大連合大会			養学会 第29回日本臨床栄養協会 第6回大連合大会	
44. 第31回 日本臨床栄養学協会近畿地方会		2008年5月	第31回 日本臨床栄養学協会近畿地方会	NST質の向上を求めてパネルディスカッション 座長
45. 第30回日本臨床栄養協会近畿地方会	単	2008年3月15日	日本臨床栄養協会近畿地方会NSTが目指すもの	NSTが目指もの、に対するロールプレイ指導
46. 第29回日本臨床栄養学会総会第V回大連合大会		2007年11月	第29回日本臨床栄養学会総会第V回大連合大会	栄養管理計画 ～問題点と課題～ 講演
47. 第135回医療情報システム研究会	単	2007年2月24日	第135回医療情報システム研究会	NSTシステムの紹介 講演
48. 第10回日本病態栄養学会年次学術集会	単	2007年1月	第10回日本病態栄養学会年次学術集会座長	一般演題座長 骨代謝 座長
49. 第60回国立病院総合医学会	単	2006年9月23日	第60回国立病院総合医学会	N S T の確立と多職種協働による効果について 教育講演
50. 第27・28日本臨床栄養学会大連合大会		2006年9月	第27・28日本臨床栄養学会大連合大会	一般演題 臨床栄養基礎研究 座長
51. 第28回日本臨床栄養協会近畿地方会	単	2006年2月25日	第28回日本臨床栄養協会近畿地方会	NSTによる症例カンファレンス シンポジスト
52. 日本健康・医療システム学会第4回九州地方会	単	2005年11月23日	日本健康・医療システム学会第4回九州地方会	施設における栄養管理の理想と現実 パネリスト
53. 第27回日本臨床栄養学会総会	単	2005年11月11日	第27回日本臨床栄養学会総会ワークショップ	N S T の運営と実践 「大規模病院におけるN S T の運営～問題点と課題」ワークショップ講師
54. 第42回日本糖尿病学会近畿地方会	単	2005年11月5日	第42回日本糖尿病学会近畿地方会シンポジウム	耐糖能異常を有するN S T 依頼患者の背景 シンポジスト
55. 第27回日本臨床栄養協会近畿地方会	単	2005年10月29日	第27回日本臨床栄養協会近畿地方会	医師と栄養士が手を結べば何ができるか パネリスト
56. 第15回近畿輸液栄養研究会		2005年10月	第15回近畿輸液栄養研究会	大阪医療センターN S T の現状と栄養士から見た問題点 パネリスト
57. 第7回医療マネジメント学会		2005年6月24日	第7回医療マネジメント学会	パネルディスカッション 新しいチーム医療 N S T に期待される役割と実践 パネリスト
58. 第20回日本静脈経腸栄養学会総会シンポジウム	単	2005年2月17日	第20回日本静脈経腸栄養学会総会合同シンポジウム	NSTの問題点について シンポジスト
59. 第8回日本病態栄養学会年次学術集会	単	2005年1月18日	第8回日本病態栄養学会年次学術集会ランチョンセミナー2	肝疾患の栄養管理～NST活動における栄養士の関わり方～ ランチョンセミナー講師
60. 第26回日本臨床栄養学会	単	2004年10月3日	第26回日本臨床栄養学会 分科会	ケースカンファレンス 消化器外科疾患 パネリスト
61. 第65回日本臨床外科学会総会		2003年11月	第65回日本臨床外科学会総会	術後免疫増強栄養剤投与が身体組成に与える影響～標準品とフレーバー添加品との無作為比較試験～ シンポジスト
62. 日本臨床栄養協会近畿地方会	単	2003年11月	日本臨床栄養協会近畿地方会	栄養士と臨床カンファレンス「必要とされる栄養士～症例から考える～」パネリスト
63. 第25回日本臨床栄養学会 第24回日本臨床栄養学会 大連合大会	単	2003年10月	第25回日本臨床栄養学会 第24回日本臨床栄養学会 大連合大会	一般演題 N S T 座長
64. 第13回近畿輸液・栄養研究会	単	2003年10月	第13回近畿輸液・栄養研究会パネルディスカッション	国立病院における入院患者の栄養状態とNST設立の意義・問題点 パネリスト

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
65. 日本外科学会総会	単	2003年6月	日本外科学会総会シンポジウム	外科臨床におけるクリニカル・パスの役割：ヴァリエーション評価の変遷と術後早期経口スケジュールの検証 シンポジスト
66. 平成15年度国立病院療養所栄養士協議会近畿支部総会	単	2003年4月	平成15年度国立病院療養所栄養士協議会近畿支部総会	癌患者の栄養管理～チーム医療における経口栄養療法へのアプローチ～ 教育講演
67. 栄養士協議会九州支部若手栄養士研究会	単	2003年2月	栄養士協議会九州支部若手栄養士研究会	国立病院における臨床栄養管理業務の未来像とは 教育講演
68. 第75回日本胃癌学会総会	単	2003年2月	第75回日本胃癌学会総会	パネルディスカッション 術後早期経口摂取パスの可能性と利点 パネリスト
69. 国立病院九州栄養士協議会若手栄養士研究会	単	2003年2月	国立病院九州栄養士協議会若手栄養士研究会	国立病院における臨床栄養管理業務の未来像とは 教育講演
70. 第24回日本臨床栄養学会総会シンポジウム	単	2002年11月	第24回日本臨床栄養学会総会	癌患者の栄養管理～チーム医療における経口栄養療法へのアプローチ～シンポジスト
71. 第57回国立病院療養所総合医学会	単	2002年10月	第57回国立病院療養所総合医学会シンポジウム	IT化に伴う病院栄養業務への変革～栄養食事指導とIT化～ シンポジスト
72. 第23回日本臨床栄養協会	単	2002年8月3日	第23回日本臨床栄養協会 分科会	チーム医療についてパネルディスカッション座長
2. 学会発表				
1. 脳卒中患者における回復期リハビリ入院前大幅体重減少者の割合とその特徴	共	2022年12月3日	第39回兵庫県栄養改善研究会	林田夕奈、岡田真奈、 <u>鞍田三貴</u> 急性期病院から回復期リハビリテーション病院へ入院した脳卒中患者の入院前に大幅な体重減少を認める患者は65%であり、大幅な体重減少者は、リハビリの効果、体重の改善は得られにくい
2. SGLT2阻害薬服用患者の栄養評価	共	2022年12月3日	第39回兵庫県栄養改善研究会	橋口朝美、松本莉花、 <u>鞍田三貴</u> 武庫川栄養サポートステーション利用患者のうちSGLT2阻害薬投与糖尿病病者と非糖尿病病者の長期にわたる栄養評価結果を報告した
3. 脳血管疾患患者における回復期リハビリ入院前大幅体重減少者の割合	共	2022年11月16日	第30回日本慢性期医療学会	中村早緒里 亀井こずえ 岩崎真利恵 桜井史明 <u>鞍田三貴</u> 橋本康子 急性期より回復期リハビリ入院する患者の入院時体重減少を来している患者の割合と特徴を報告した
4. HOMA-IR \geq 2.5で正常体重の若い女性はレプチン抵抗性でTG-rich lipoprotein代謝障害が認められる	共	2022年5月12日~14日	第65回日本糖尿病学会年次学術集会(現地+web開催)	林田夕奈、猪川(湊)聡美、本田まり、梶(坪井)彩加、武内海歌、北岡かおり、 <u>鞍田三貴</u> 、鹿住敏、福尾恵介 インスリン抵抗性であるが正常体重の特徴を検討した。HOMA-IR1.6以下と比較すると、 \geq 2.5の巨大児の頻度、HOMA- β 、空腹時の血糖、インスリン、TG、FFA、RLPコレステロール、レプチンは高かったが、体脂肪率、体幹/下肢脂肪比、アディポネクチン、1日摂取エネルギーに差はなかった。多変量ロジスティック解析ではレプチン(OR:1.68, p=0.02)がHOMA-IR高値と相関した。
5. 若い女性の正常体重肥満(体脂肪率 \geq 35%)はサルコペニア腹部肥満で、学童期までの体重増加、アポB、高感度CRPと相関する	共	2022年5月12日~14日	第65回日本糖尿病学会年次学術集会(現地+web開催)	橋口朝美、猪川(湊)聡美、本田まり、梶(坪井)彩加、武内海歌、北岡かおり、 <u>鞍田三貴</u> 、鹿住敏、福尾恵介 正常体重肥満の特徴を調べた。正常体重肥満のBMI、腹囲、体幹/下肢脂肪比、血清レプチン、LDLコレステロール、アポB、高感度CRPは高く、アポA1は低かったがアディポネクチン、HOMA-IR、TG、HDLコレステロールに差は無かった。更に、体重補正後の徐脂肪量、四肢骨格筋量は低く、出生から12歳までの体重増加は大きかった。多変量ロジスティック解析では12歳までの体重増加、四肢骨格筋量、アポB、高感度CRPが独立して正常体重肥満と相関した。
6. 糖尿病を有する回復期リハビリテーション入院患者の適正エネルギー量の検討	共	2022年1月16日	日本リハビリテーション栄養学会 Web	亀井こずえ、 <u>鞍田三貴</u> 、武内海歌、岩崎真利恵、櫻井史明、岩崎祐、橋本康子 リハビリテーション中の糖尿病患者への適正エネルギーは設定されていない。本研究はリハビリ指数は平均53.5の回復期リハビリにおいて、糖尿病を有する患者の適正エネルギー量を求めた
7. リハビリテーション総合実施計画書における栄養評価法の検討	共	2021年10月14日	第29回回復期医療学会	岩崎真利恵 武内海歌 <u>鞍田三貴</u> 亀井こずえ、櫻井史明、岩崎祐 橋本康子 SGAは回復期リハビリテーションの患者においても、栄養クリーニングとしてFIM利得に関連するかをMUST、MNA、GNRIと比較した。SGAに

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
8. リハビリテーション病院における入院時栄養状態の経時変化	共	2021年2月4日WEB開催(3/10まで)	第8回慢性期リハビリテーション学会	よる不良判定が最もFIM利得が低値であった 桜井史明、鞍田三貴、武内海歌、岩崎真利恵、亀井こずえ、岩崎祐、橋本康子 2016年から3年の間で、高齢化に伴い高齢低体重女性患者が増加した。これらの退院時体重減少患者の退院時FIMは低値であり、摂取エネルギー量の増加も見られなかった。高齢低体重女性患者の摂取エネルギー増加による体重減少改善に向けた栄養管理法の確立が急務である。
9. 回復期リハビリテーション病院における入院時栄養スクリーニング法の検討	共	2021年2月4日WEB開催(3/10まで)	第8回慢性期リハビリテーション学会	岩崎祐、武内海歌、亀井こずえ、岩崎真利恵、櫻井史明、鞍田三貴、橋本康子 SGAは回復期リハビリテーションの患者においても、栄養クリーニングとして有用である可能性が示唆された。またSGAだけでなく患者の意欲(アパシー)においてもFIM効率に影響すると推察される。
10. 糖尿病を有する回復期リハビリテーション病院入院患者の適正栄養量の検討	共	2021年2月4日WEB開催(3/10まで)	第8回慢性期リハビリテーション学会	亀井こずえ、鞍田三貴、武内海歌、岩崎真利恵、櫻井史明、岩崎祐、橋本康子 当院DMリハ患者の81%がDM学会推奨栄養量よりも高エネルギー、高たんぱく質投与であったが、血糖及び腎機能、FIM利得に影響は見られず、推奨量以上であるほどeGFRは高値を示した。糖尿病リハ患者の適正栄養量はDM学会推奨栄養量とは異なり、リハによるストレス係数を考慮することが必要である。
11. 地域密着型急性期病院における嚥下訓練食品提供依頼患者の栄養管理の実態	共	2019年10月27日	第41回日本臨床栄養学会/第40回日本臨床栄養協会、第19回大連合大会	長島有花、斉藤百香、新留亜実、高島伊世、橋本三穂、鞍田三貴 嚥下訓練目的の20名を対象とし、栄養管理法、入院時栄養状態を後ろ向きに検討した。嚥下訓練食品提供時の他からの栄養補給法はPPN17名、経腸栄養2名、TPN1名であり、十分な栄養補給がなされていない実態が明らかとなった。
12. 男性下咽頭がん患者のプレサルコペニアの頻度と身体的特徴-男性健常者との比較-	共	2019年10月26日	第41回日本臨床栄養学会/第40回日本臨床栄養協会、第19回大連合大会	武内海歌、北村睦三、北村亜希子、鞍田三貴 下咽頭がん患者37例、健常男性13例を対象とした。下咽頭がん患者の約8割がSMI低値であり、低栄養であった。治療開始時の筋力低下は治療中断や完遂などのアウトカム指標に影響する可能性があることが示唆された。
13. 頭頸部がんの術後合併症を予測する術前栄養因子	共	2019年10月26日	第41回日本臨床栄養学会/第40回日本臨床栄養協会、第18回大連合大会	鞍田三貴、武内海歌、吉村知夏、竹村亜希子、北村亜紀子、北野睦三 頭頸部がん患者40症例を対象とした。術後合併症発生率は35%であった。入院時SGA判定は合併症有群で71%が不良と判定され、合併症発症関連入院時因子としてSGAが抽出された。よって、SGAは頭頸部がんの栄養状態を評価し得ることが示唆された。
14. 心不全におけるサルコペニア発症症例の特徴	共	2019年10月26日	第41回日本臨床栄養学会/第40回日本臨床栄養協会、第19回大連合大会	笹部麻美、岡村春菜、秋山麻衣、木戸里佳、高木洋子、民田浩一、鞍田三貴 心不全入院患者179名を対象に、年齢を3分位法でわけ、さらに各群をサルコペニアの有無で群分けし、入院時栄養状態を後ろ向きに調査した。年齢に関わらず食事量をいかに増加させるかが、入院中のサルコペニア予防の鍵であった。
15. 心不全入院患者のサルコペニア有病率	共	2019年7月14日	第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	木戸里佳、笹部麻美、岡村春菜、秋山麻衣、高木洋子、前田美歌、民田浩一、鞍田三貴 心不全入院患者179名を対象とした。サルコペニアと判定された患者は115名で、有病率は64.2%だった。心不全患者は心機能、左室駆出率に関わらず、サルコペニア患者は高率に存在していた。
16. 若年と中年女性における骨格筋量減少(プレサルコペニア、PS)の頻度と糖・脂質代謝の特徴;DXAとOGTTを用いた検討	共	2019年5月23日	第62回日本糖尿病学会年次学術集会	武内海歌、鞍田三貴、坪井彩加、湊聡美、北岡かおり、本田まり、鹿住敏、福尾恵介 女子大学生307名とその母144名でDXAと75gOGTTを施行し、乳幼児栄養と母子健康手帳で成長を調査した。SMI(skeletal若い女性の18%、中年女性の14%に見られたPSでは糖脂質代謝は保たれていた。
17. 頭頸部がん患者における治療開始時の血清亜鉛値	共	2019年2月15日	第34回日本静脈経腸栄養学会	武内海歌、北野睦三、北村亜紀子、鞍田三貴 頭頸部がん患者144例を対象に治療開始時の血清Znを測定し65μg/dL未満症例の割合を調べた。65未満症例は32%存在し、血清Alb、Hb、サルコペニア(AWGS)であったが、生死は無関係であった。
18. 喉頭癌患者の治療別の栄養状態について	共	2018年10月7日	第40回日本臨床栄養学会/第39回日本	北野睦三、武内海歌、北村亜紀子、吉村知夏、鞍田三貴、土井勝美

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
の検討			臨床栄養協会、第16回大連合大会	化学放射線治療後の体重や筋肉量は戻りにくいが、喉頭摘出後の体重や筋肉量は戻りやすい。またサルコペニア症例は放射線休止や中止、肺炎が多い傾向があったことから喉頭がんに治療においてもサルコペニアは重要な因子の可能性がある。
19. 外来初診時における下咽頭がん患者のサルコペニア有病率の把握	共	2018年10月7日	第40回日本臨床栄養学会/第39回日本臨床栄養協会、第16回大連合大会	武内海歌、北野睦三、北村亜紀子、吉村知夏、 <u>鞍田三貴</u> 下咽頭がん患者のサルコペニア有病率は消化器がん患者よりも高率であった。S群は治療開始時に有意な体重減少が見られ、治療後の合併症発症や再発との関連をさらに検討する必要がある。
20. 心不全患者の入院時スクリーニング法としてのSGAの妥当性	共	2018年10月6日	第40回日本臨床栄養学会/第39回日本臨床栄養協会、第16回大連合大会	岡村春菜、笹部麻美、長嶋有花、木戸里佳、高木洋子、民田浩一、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> SGA判定による低栄養症例は、入院中の生命予後が不良であった。主観的評価であるSGAは心不全の生命予後予測に有用であり、入院時栄養スクリーニングとしての妥当性が確認された。
21. 高齢血液透析患者の透析導入時血清カリウム値と短期生命予後の関連	共	2018年10月6日	第40回日本臨床栄養学会/第39回日本臨床栄養協会、第16回大連合大会	伴真澄、本荘裕美、谷木優子、岩崎寮子、馬見塚武子、重松武史、西庵良彦、宮本孝、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> 65歳以上のHD導入患者において、導入時のカリウムが低い症例は低栄養状態であり、死亡率が高かった。高齢HD患者には、制限指導ではなくむしろ低栄養状態を予防する指導が重要である。
22. 大学の栄養サポートによりMC I 合併独居高齢2型糖尿病患者の介護認定に至った1例（第2報）	共	2018年6月10日	第6回日本在宅栄養管理学会	<u>鞍田三貴</u> 、武内海歌、倭英司 認知度を維持した4年半の継続はNSSの成果であるが限界もあった。介護申請から認定に至るまでの複雑な手続きは、認知症独居高齢者にはハードルが高いことが明白である。長期に培った信頼が介護認定へ導いた要因であり、新たなNSSの役割を見出せた貴重な症例である。
23. 武庫川女子大学栄養科学研究所栄養サポートステーション取組紹介	共	2018年4月29日	日本在学医学会第20回記念大会	武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> 本学会にて本学研究所の栄養サポートステーションの取り組みをポスター掲示にて発表した。
24. 管理栄養士養成大学による在宅栄養サポート活動報告－軽度認知障害合併の独居高齢2型糖尿病患者の1症例－	共	2018年2月25日	第34回兵庫県栄養改善研究発表会（会長賞受賞）	武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> 4年にわたりサポートし認知度が顕著に低下せず、独居高齢者を行政手続きへ導くことができたことは成果である。しかし、管理栄養士養成大学による在宅サポート活動には限界があることも明白である。
25. 頭頸部がん患者の術前栄養状態評価法の検討	共	2018年2月23日	第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会	吉村知夏、北野睦三、竹村亜希子、北村亜紀子、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> SGA は短時間評価が可能である。頭頸部がん患者においては術前のSGA評価が術後合併症発生を予測できる可能性が示唆された。
26. 重症妊娠悪阻妊婦に対する個別対応食について	共	2017年10月14日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会	山下千春、西本裕紀子、麻原明美、加嶋倫子、伊藤真緒、藤本素子、古川千紗子、岩崎真利恵、山本周美、 <u>鞍田三貴</u> 、倭英司、恵谷ゆり、光田信明、位田忍 悪阻改善に至っていない対応開始直後の食事によるE%が有意に増加したことから、個別対応食によってSHGの個人の嗜好に適した食事提供ができ、食事摂取量増加の一助になったと考える。
27. 非アルコール性脂肪性肝疾患の栄養状態と食生活の特徴	共	2017年10月14日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会	田村彩乃、武内海歌、福尾恵介、榎本平之、西口修平、 <u>鞍田三貴</u> NAFLDはメタボリックシンドロームの肝病変であると捉えられ、血清尿酸値が高値であり、インスリン抵抗性、低亜鉛であった。亜鉛には抗酸化作用があり、肝線維化予防に重要な役割をもつため、血清亜鉛濃度低値に至る食事をさらに分析するとともに、亜鉛補充を中心とした食事療法の確立を目指したい。
28. 地域在住高齢女性で身体的フレイルの重要な要素である筋力低下はアディポネクチン（ADP）高値と関連する	共	2017年10月13日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会（シンポジウムS3-3）	<u>鞍田三貴</u> 、武内海歌、坪井彩加、竹ノ内明子、湊聡美、北岡かおり、鹿住敏、福尾恵介 ADP高値の地域在住高齢女性ではメタボ関連指標は良好であったがADP高値は握力低下のリスクであった。骨格筋量減少の超低頻度の原因として、筋力減少の先行あるいは不適切な基準値設定が想定される。
29. 心不全患者の入院時スクリーニング法としてのSGAとODAの乖	共	2017年10月13日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協	岡村春菜、笹部麻美、長嶋有花、木戸里佳、民田浩一、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> SGAとODAの乖離症例はわずかであった。乖離を認めた症例を在院日

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
離症例について			会総会 第15回大連合大会	数で検討すると、SGAが栄養評価に有用であることが示唆された。
30. 朝食60分後血糖が空腹時血糖より低い若い女性のインスリン分泌とアポ蛋白A1は高く、NEFAは低い	共	2017年10月13日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会	武内海歌、坪井彩加、竹ノ内明子、湊聡美、北岡かおり、 鞍田三貴 、鹿住敏、福尾恵介 若い正常体重の日本人女性の食後血糖動態には、早期インスリン分泌が深く関与し、インスリン抵抗性（NEFA低値）の関与も示唆された。
31. 薬剤・食物アレルギーを有する下咽頭喉頭頸部食道全摘出術（TPLE）後患者において成分栄養剤の半固形化を試みた1症例	共	2017年7月7日	第54回日本外科代謝栄養学会	吉村知夏、北野睦三、竹村亜希子、北村亜紀子、武内海歌、 鞍田三貴 アレルギー除去粉ミルク、REF-P1（R）を添加することで成分栄養剤の半固形化が可能であり、下痢や逆流、長時間投与による精神的負担の軽減、アバンド併用により栄養状態維持に有用であった。
32. 循環器・血管専門急性期病院の管理栄養士による訪問栄養食事指導の現状と課題	共	2017年7月2日	第5回日本在宅栄養管理学会	木戸里佳、長島有花、笹部麻美、岡村春菜、 鞍田三貴 管理栄養士からケアマネージャーに訪問栄養食事指導の必要性を依頼し、管理栄養士の在宅医療における役割を確立することが課題である。
33. メタボリックシンドローム（MS）の構成因子数が増加すると糖尿模湯におけるCKD（糖尿病腎臓病、DKD）は悪化する	共	2017年5月27日	兵庫生活習慣病懇話会2017	竹之内明子、坪井彩加、湊聡美、北岡かおり、武内海歌、 鞍田三貴 、福尾恵介、鹿住敏
34. 2型糖尿病においてHbA1cと収縮期血圧（SBP）の年間の変動はメタボリックシンドローム（MS）構成因子数と関連する	共	2017年5月20日	第60回日本糖尿病学会	北岡かおり、竹之内明子、坪井彩加、湊聡美、武内海歌、 鞍田三貴 、福尾恵介、鹿住敏 SBPとHbA1cの長期変動とMSの関連を検討した結果、2型糖尿病におけるMSと心血管疾患の関連の一部をHbA1cとSBPの変動が担っている可能性が示唆された。
35. メタボリック症候群（MS）合併2型糖尿病の朝食後血糖（PPG）、TG（PTG）とnon-HDL-C（NHDLC）は高い	共	2017年5月20日	第60回日本糖尿病学会	湊聡美、竹之内明子、坪井彩加、北岡かおり、武内海歌、 鞍田三貴 、福尾恵介、鹿住敏 PPG、PTG、NHDLCとMSとの関連を検討した結果、MS合併2型糖尿病では1年間のPPG、PTG、NHDLCが高い。
36. 高齢女性でアディポネクチン（ADP）高値は、炎症、インスリン抵抗性とは独立して、握力低下（＜18kg）と関連した	共	2017年5月19日	第60回日本糖尿病学会	武内海歌、坪井彩加、竹之内明子、湊聡美、北岡かおり、 鞍田三貴 、鹿住敏、福尾恵介 高齢女性でADPと糖・脂質代謝、握力との関連を検討した結果、ADP高値の高齢女性の代謝状態は良好であったが低握力であった。
37. 75gOGTT 負荷後血糖 ≤70 mg/dL の若い女性ではアディポネクチン（ADP）が高くオロソムコイド（ORM）が低い	共	2017年5月18日	第60回日本糖尿病学会	坪井彩加、竹之内明子、湊聡美、北岡かおり、武内海歌、 鞍田三貴 、芳野原、鹿住敏、福尾恵介 75gOGTT負荷後血糖 ≤70 mg/dLの特徴を検討した結果、OGTT負荷後血糖 ≤70 mg/dLではADPが高く、ORMが低かった。
38. メタボリックシンドローム（MS）の構成因子数が増加すると糖尿病におけるCKD（糖尿病腎臓病、DKD）は悪化する	共	2017年5月18日	第60回日本糖尿病学会	竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、湊聡美、北岡かおり、 鞍田三貴 、福尾恵介、鹿住敏 DKDの悪化とMSの関連を前向きに検討した結果、2型糖尿病においてMSの構成因子数の増加に伴ってDKDの6年間の悪化率も増加した。
39. 若い女性でオロソムコイド（ORM、別名α1酸性糖蛋白）は75gOGTTの30分後血糖と血糖曲線下面積	共	2017年5月18日	第60回日本糖尿病学会	鹿住敏、坪井彩加、竹ノ内明子、湊聡美、北岡かおり、武内海歌、 鞍田三貴 、芳野原、福尾恵介 20歳の女性168人において体組成はDXAで測定し、OGTTを施行した結果、ORMは30分後血糖、血糖曲線下面積と強く相関した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
に強く関連する 40. 若年女性のやせ警告媒体視聴後の意識変化について	共	2017年2月26日	第33回兵庫県栄養改善研究発表会	武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> やせ警告媒体DVD視聴後も「やせたい」と回答した者は約6割存在し、標準的な体格である者ほど、食行動の異常性（代理摂食、満腹感覚、体質に関する認識）がみられた。現代の若年女性は、やせ警告だけでは体格に対する意識の変化は困難であり、他のアプローチが必要である。
41. 心不全患者に対する栄養スクリーニング法の検討	共	2017年2月25日	第2回日本心臓リハビリテーション学会 近畿地方会	岡村春菜、笹部麻美、長島有花、木戸里佳、民田浩一、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> SGAは客観的指標を用いず主観による評価であるが、低血清Alb患者を見出せる上、全ての患者を評価できる。
42. リハビリテーション患者における高齢者栄養リスク指標（GNRI）と筋肉量および歩行自立度の検討	共	2017年2月24日	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	脇田あやの、田和侑奈、桜井史明、川村祐、箱田真知子、久米真由、吉尾雅春、橋本康子、 <u>鞍田三貴</u> 、合田 文則 GNRIとFMIに高い相関を認め、歩行自立患者で有意にGNRIは高かった。GNRIは回復期リハの高齢患者において有用な栄養指標と考えられた。
43. 栄養学的因子がリハビリテーション効果に与える影響—MNA-SFとFIMの関連から—	共	2017年2月23日	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会(ポスター発表)	田和侑奈、桜井史明、脇田あやの、川村祐、箱田真知子、久米真由、吉尾雅春、橋本康子、 <u>鞍田三貴</u> 、合田 文則 回復期リハ病院では入院時から低栄養、低体重が多く、入院中に体重改善に至らない症例も多かった。MNA-SFの関連では入院時の栄養状態とFIM関連性は低く、退院時の栄養状態が良好であればFIMが向上した。回復期リハ病院においては、リハによるエネルギー消費量も加味した栄養介入を行うことにより、患者の機能的自立向上に寄与することが示唆された。
44. 高齢血液透析患者の短期生命予後を決定するGNRIカットオフ値の検討	共	2017年2月23日	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会(ポスター発表)	尾上明穂、本庄裕美、谷木優子、岩崎寮子、馬見塚武子、重松武史、西庵良彦、宮本孝、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> HD患者のGNRIカットオフ値は92であるが、65歳以上の高齢HD患者の短期生命予後を予測する導入時のGNRIカットオフ値は83.1であり、92を用いると短期予後に影響する栄養障害を見落とす可能性がある。
45. 管理栄養士による在宅訪問が血糖管理に有効であった軽度認知障害合併2型糖尿病の一例	共	2016年11月12日	第53回日本糖尿病学会近畿地方会/第52回日本糖尿病協会近畿地方会	尾上明穂、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> 、倭英司、鈴木淳一、鹿住敏、福尾恵介（代理発表：武内海歌） 軽度認知障害合併・2型糖尿病の血糖管理に、かかりつけ医と連携した管理栄養士による在宅訪問が有効である可能性が示唆された。
46. 非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）患者の発がん予防に向けた栄養管理	共	2016年10月9日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	<u>鞍田三貴</u> 、田村彩乃、武内海歌、福尾恵介、榎本平之、西口修平 2016年1月から現在までに兵庫医科大学病院外来通院患者で同意を得て調査を実施し23（男11/女12）症例についての食生活の特徴を報告する。
47. 栄養量および食形態低下患者への早期栄養介入効果	共	2016年10月9日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	加地真梨、山本亜衣子、南有紀子、尾上明穂、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> 負の食事箋発行患者の約半数は入院時診療計画で栄養管理は不要と判断されており、負の食事箋発行時点で、管理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより入院中の褥瘡発生率および在院日数、転帰に影響を及ぼす可能性が示唆される。
48. 運動訓練はアディポネクチンとは独立して若い女性の脂肪組織のインスリン感受性を亢進させる	共	2016年10月9日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	岡村春菜、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> 、鹿住 敏、福尾恵介 脂肪量と脂肪分布、脂肪組織のインスリン抵抗性、血清アディポカインを若い女性アスリート（A、運動クラブの学生）と非アスリート（NA、栄養学科学学生）と比較した。腹部脂肪蓄積の少ない若い女性アスリートにおいて、アディポネクチンとは独立した脂肪組織のインスリン感受性の亢進が見られた。
49. 高齢透析患者の導入時の栄養状態と生命予後の関連性	共	2016年10月9日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	尾上明穂、本庄裕美、谷木優子、岩崎寮子、馬見塚武子、重松武史、西庵良彦、宮本孝、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> 導入時のGNRIが生命予後に影響を与える因子であったことより、栄養状態が透析患者の短期間の生命予後に影響することが明らかとなった。
50. 回復期リハビリテーション病院における	共	2016年10月8日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本	川村祐、脇田あやの、田和侑奈、桜井史明、箱田真知子、久米真由、合田文則、橋本康子、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
短期ADLの改善と栄養摂取量との関係			臨床栄養協会第14回連合大会	入院時A1bやFIMの値に関わらず、ADLの改善には積極的な栄養介入が必要であり、短期ADLの改善に、たんぱく質が関与することが明らかとなった。
51. ICU入院の心臓血管疾患患者に対する栄養スクリーニング法の検討	共	2016年10月8日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	笹部麻美、長島有花、木戸里佳、民田浩一、岡村春菜、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> 心臓血管疾患患者のICU在室日数に関連する入院時栄養スクリーニング法を検討する。SGAによる栄養評価はICU在室日数と関連していた。心血管疾患患者のICU入院時のスクリーニング法になり得る。
52. 在宅訪問で血糖コントロールの改善と認知機能の進行抑制が可能であった独居高齢2型糖尿病患者の1症例	共	2016年10月8日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	武内海歌、鈴木淳一、 <u>鞍田三貴</u> 、倭英司、鹿住敏 管理栄養士を雇用する開業医は少なく、本学栄養科学研究所において栄養支援を実施しているが、独居高齢患者が多く、在宅へ訪問することが必然的となった。NSSによる継続的な栄養支援は、長期的な血糖コントロールと認知症の進行抑制が可能である。
53. レボテーションシステムによる栄養摂取量評価法を用いたリハビリテーション患者の栄養指導	共	2016年10月7日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	久米真由、箱田真知子、川村祐、脇田あやの、田和侑奈、桜井史明、池田吉成、吉尾雅春、合田文則、橋本康子、 <u>鞍田三貴</u> 回復期リハビリ病棟の給食システム（レストラン、患者が選ぶ食事）の紹介
54. 在宅訪問により糖尿病と認知症進行予防が可能であった独居高齢患者1症例～開業医と大学の連携～	共	2016年6月26日	第4回日本在宅栄養管理学会	<u>鞍田三貴</u> 武内海歌 倭英司 鹿住敏 2011年より栄養サポートステーション（NSS）を開設し栄養支援を開始した。在宅訪問により糖尿病と認知症進行予防が可能であった独居高齢患者1症を提示し例主治医とNSSの連携による栄養支援は、長期的血糖コントロールと認知症進行予防が可能である
55. 若い女性の約半数で朝食後に無自覚低血糖（70mg/dl以下）	共	2016年5月14日	第21回兵庫生活習慣病懇話会	坪井彩加、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> 、福尾恵介、鹿住敏
56. アバンドTM投与により褥瘡改善を認めた広範難治高齢褥瘡患者一症例報告	共	2016年2月26日	第31回日本静脈経腸栄養学会	山本亜衣子、加地真梨、精松千尋、南有紀子、 <u>鞍田三貴</u> 広範な難治高齢褥瘡患者に対し、入院時より同カロリー投与下において、アバンドTMを1か月投与したが、Cr、BUNは低下し褥瘡の改善を認めた。高齢難治褥瘡患者に対してアバンドTMの投与は有効である。
57. 栄養量および食形態低下患者への早期栄養介入効果	共	2016年2月26日	第31回日本静脈経腸栄養学会	加地真梨、山本亜衣子、南有紀子、小野正代、尾上明穂、武内海歌、 <u>鞍田三貴</u> 入院中の食事に対して必要量を満たせない食事箋が出された時点で管理栄養士が介入した場合の効果について検討した。負の食事箋を発行された時点で管理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより、在院日数及び転帰に影響を及ぼす可能性が示唆された。
58. オリジナル栄養摂取量調査法（QCNQ）の妥当性の検討 24時間蓄尿とFFQとの比較	共	2016年2月25日	第31回日本静脈経腸栄養学会	武内海歌、木戸里佳、 <u>鞍田三貴</u> 限られた栄養指導中に食事摂取量を瞬時に把握できるオリジナル栄養摂取量評価表（QCNQ）を開発、その妥当性を検討した。QCNQによるたんぱく質と食塩摂取量の評価は、24時間蓄尿から求めた客観的数値に近似値であり予測精度も高かった。栄養指導中に摂取量を評価するツールとして活用できる可能性が示唆された。
59. 若年女性において食後TG代謝動態は腹部脂肪蓄積と相関する	共	2016年1月10日	第19回日本病態栄養学会	武内海歌、坪井彩加、 <u>鞍田三貴</u> 、福尾恵介、鹿住敏 平均年齢22歳の女子大学生35名を対象に、テストミールA摂取後の食後TG代謝動態（TG-AUC）が体脂肪量、血清アディポカインに関連するかを検討した。腹部肥満の指標である体幹下肢脂肪比がTG-AUCと強く相関した。経年による腹囲増加は最小限に努める必要がある。
60. 若年女性において食後TG代謝動態は腹部脂肪蓄積と相関する	共	2015年10月31日	第20回兵庫生活習慣病懇話会	武内海歌、坪井彩加、 <u>鞍田三貴</u> 、福尾恵介、鹿住敏 体脂肪量と血清アディポカインが食後TG代謝動態に関連するかを検討した。女子大学生35名にテストミールAを15分以内に摂取し食前、食後30、60、120分後にTGを測定し、その曲線下面積（AUC）を食後TG代謝動態の指標とした。TGは食前55から79 mg/dlと漸増した。TG-AUCは体脂肪量等とは相関しなかったが体幹/下肢脂肪比（ $r=0.54$, $p<0.001$ ）、アポB（ $r=0.65$, $p<0.001$ ）等と相関した。重回帰分析では体幹/下肢脂肪比、アポBがTG-AUCの予知因子であった（ $R^2=0.73$ ）。腹囲が74cmの若年女性においても、腹部肥満の指標である体幹/下肢脂肪比が食後TG代謝動態と強く相関した。経年による腹囲の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
61. 若年女性の食後代謝動態に対する運動の影響：テストミールAによる食事負荷試験を用いて	共	2015年10月4日	第37回日本臨床栄養学会/第36回日本臨床栄養協会 第13回連合大会	増加は最小限に止める努力が必要である。 武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 食後代謝動態に対する運動の影響を若年女性において検討した。女子大生35名（運動群17名と非運動群18名）が12時間絶食後に、朝食としてテストミールA「糖質58g、脂質17g（エネルギー比33%）、蛋白質17g、450kcal」を15分以内に摂取した。運動選手のインスリン感受性は非常に良好であったが、テストミールAに対する血糖とTGの反応は健康な若年女性では比較的小さく、日ごろの激しい運動の影響も限局的であった。
62. 栄養量および食形態低下の食事指示を受けた患者への管理栄養士介入効果の検討	共	2015年10月3日	第37回日本臨床栄養学会/第36回日本臨床栄養協会 第13回連合大会	加地真梨 山本亜衣子 南有紀子 武内海歌 鞍田三貴 入院中に栄養量が明らかに減少する食事箋が出された時点で管理栄養士が介入した場合の効果を検討。介入群、従来群はランダム割り付け群分けした。負の食事箋発行患者の約半数は入院時診療計画で栄養管理は不要と判断されており、負の食事箋発行時点で、管理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより栄養改善に寄与する可能性が考えられた。
63. オリジナル栄養摂取量調査法（QCNQ）の妥当性の検討	共	2015年10月3日	第37回日本臨床栄養学会/第36回日本臨床栄養協会 第13回連合大会	木戸里佳 武内海歌 鞍田三貴 オリジナル栄養摂取量調査法（Questionnaire Calculating Nutrition Intake Quickly:QCNQ）を開発とその妥当性を検討。24時間蓄尿を確実に実施できた13名、28歳（21-68歳）である。管理栄養士の問診によるQCNQとFFQgを用いた栄養摂取量評価を行った。蓄尿より推定たんぱく質摂取量、推定食塩摂取量を算出し、QCNQとFFQgから算出したたんぱく質、食塩量と比較。 QCNQと24時間蓄尿との相関係数はたんぱく質量 $r=0.61$ ($p<0.05$)、食塩量 $r=0.70$ ($p<0.01$)、ともに有意な正相関を認めた。FFQgとの相関は示されなかった。QCNQでのたんぱく質、食塩摂取量は蓄尿より求めた客観的数値に近く、栄養指導中に摂取量を評価するツールとして活用できる可能性が示唆された。
64. 2型糖尿病では空腹時血糖（FPG）の変動と食後TG（PTG）が腎症悪化の予知因子である	共	2015年5月22日	第58回日本糖尿病学会年次学術集会	北岡かおり、竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 2型糖尿病患者161名で、6.3年間（中央値）における腎症悪化（腎症病期の進展あるいは尿アルブミン/クレアチニン比（ACR）の倍増以上、20名）の予知因子を多重ロジスティック回帰分析で検討した。年齢、性、BMI、腹囲、喫煙、糖尿病罹病期間、糖尿病治療、降圧薬服用、脂質異常症薬服用、収縮期血圧、HbA1c、食後血糖、空腹時TGの平均と標準偏差（SD）、FPG、LDLとHDLコレステロール、SD-PTG、log ACRとは独立して、PTG値（オッズ比：1.013, $p=0.001$ ）とSD-FPG（オッズ比：1.036, $p=0.04$ ）が腎症悪化の予知因子であった。PTGの低下とFPGの変動の抑制が腎症悪化防止に有用である可能性が示された。
65. 2型糖尿病におけるアテローム硬化、濾過機能低下とアルブミン尿の関連	共	2015年5月22日	第58回日本糖尿病学会年次学術集会	武内海歌、竹之内明子、坪井彩加、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 2型糖尿病患者168名で、頸動脈IMTと6.3年間（中央値）のeGFRの変化をACR値別に検討した。eGFRの変化は線回帰分析で算出した。ACR ≥ 30 mg/gと比較して10 mg/g未満の最大IMTは小さく（0.98 vs. 1.13 mm）、年次eGFR変化（0.08 vs. -1.72 ml/min/1.73m ² ）は高かった。さらに、5mg/g未満の最大IMTも小さく（0.95 mm）、年次eGFR変化（-0.03 ml/min/1.73m ² ）も高かった（すべて $p<0.05$ ）。できる限り低いACRの達成が濾過機能低下とアテローム硬化の進展予防に有用である可能性が示唆された。
66. 2型糖尿病において12か月のHbA1cの変動係数（CV）は推算糸球体濾過量（eGFR）の推移と関連した	共	2015年5月21日	第58回日本糖尿病学会年次学術集会	竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 2型糖尿病患者168名の12か月間のHbA1cの平均値、CVと6.3年間（中央値）のeGFRの推移を重回帰分析で検討した。登録時のeGFR、年齢、性、BMI、腹囲、喫煙、糖尿病罹病期間、糖尿病治療、降圧薬服用、脂質異常症薬服用、12か月間の収縮期血圧、空腹時と食後の血糖とTG、LDL-C、HDL-Cの平均値とそのCV、12か月間の平均のHbA1cとは独立して、log（尿アルブミン/クレアチニン比）（標準化 β 、-0.193）とCV HbA1c（標準化 β 、-0.186）がeGFRの低下と相関した。アルブミン尿の改善とHbA1cの変動の抑制が濾過機能低下の防止に有用である可能性が示唆された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
67. 2型糖尿病において12か月のHbA1cの変動係数 (CV) は推算糸球体濾過量 (eGFR) の低下と直接関連した	共	2015年4月18日	第19回兵庫生活習慣病懇話会	竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、 鞍田三貴 、福尾恵介、鹿住敏 外来2型糖尿病患者168名のHbA1cのCV (年間変動) とACR (Alb/Cre比) がeGFRの低下に相関した。
68. 結核排菌遅延に関与する栄養学的危険因子の抽出とその有用性の検討	共	2015年2月12日	第30回日本静脈経腸栄養学会	中辻晴香、初田和由、武内海歌、茨木まどか、佐々木由美子、香川智子、坂口充弘、 鞍田三貴 、林清二 入院時検査値から排菌遅延因子に関わる危険因子を抽出し、その有用性を検証する。男性は女性より有意に排菌が遅延した。栄養状態と排菌遅延の関連が示唆され、男性では低BMI、GIが、女性では低BMI、WBC増多が排菌遅延を予測できる危険因子であることが判明した。
69. 高齢透析患者の栄養状態	共	2015年2月12日	第30回日本静脈経腸栄養学会	織原茉祐花 武内海歌 宮本孝 鞍田三貴 高齢透析患者の栄養状態および身体計測を行い、問題点を明らかにする。栄養指導依頼患者の50%が70歳以上であった。摂取量不足群は年齢に関わらず低栄養であった。食事を意識的に制限している症例が高頻度であった。
70. 2型糖尿病患者における睡眠障害と食行動の関連性	共	2014年11月15日	第18回兵庫生活習慣病懇話会	亀井こずえ、前山遥、笹野馨代、田中明紀子、川村雅夫、古川安志、古田浩人、赤水尚史、西理宏 鞍田三貴 2型糖尿病初回教育入院患者を対象に睡眠障害と食行動の関連について検討した。睡眠障害は53%にみられ睡眠障害有群は夕食後血糖が高値であった。睡眠障害は食行動の「満腹感」と関連性を認めた。
71. 2型糖尿病患者における睡眠障害と食行動の関連		2014年10月25日	第51回日本糖尿病学会近畿地方会	亀井こずえ 前山遥 笹野馨代 田中明紀子 川村雅夫 古川安志 2 古田浩人 赤水尚史 西理宏 鞍田三貴 初回糖尿病教育入院患者26症例を対象に睡眠障害と食行動の関連について検討した。睡眠障害有群は50%であり、睡眠障害無群と比較し、食後血糖は高値の傾向があり、夕食後血糖は有意に高値であった。睡眠障害有群は、「空腹感・食動機」、「満腹感」、「食べ方」、「食事内容」、「リズム異常」に有意差を認めた。睡眠障害は食後血糖、食行動に影響していた。
72. 大学における地域栄養サポートステーション (NSS) の糖尿病栄養食事指導効果	共	2014年10月25日	第51回日本糖尿病学会近畿地方会	織原茉祐花 亀井こずえ 鞍田三貴 倭英司 鹿住敏 福尾恵介 難波光義 011年より栄養サポートステーション (NSS) を開設し栄養支援を開始している。全対象の1年3ヶ月HbA1c値は7.8±1.1%と減少した。主治医と大学栄養サポートステーションの連携による栄養支援は、継続指導による長期的血糖コントロールが可能である
73. 若年成人女性における食生活パターンと体脂肪の関係	共	2014年10月25日	第35回日本肥満学会	鞍田三貴 谷川千尋 谷崎典子 武内海歌 福尾恵介 高田健治 若年成人女性の食生活パターンを客観的に分類し、各パターンに対応する個体群の体脂肪を明らかにした。 若年成人女性90名の体脂肪を測定し、食事調査と食行動質問票調査59変数について主成分分析、得点を特徴変量とするベクトルを各個体から抽出した。 特徴変量として9主成分が抽出された。食生活の内容が体脂肪率に影響を及ぼすことが明らかとなった。
74. 2型糖尿病患者における睡眠障害と食生活および栄養摂取量の関連	共	2014年10月5日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	亀井こずえ 前山遥 笹野馨代 田中明紀子 川村雅夫 古川安志 西理宏 鞍田三貴 2型糖尿病患者を睡眠障害の有無により2群に分け、入院時栄養指標、Inbody720測定による体組成、食事摂取量、食行動を比較した。睡眠障害有群は無群に比べ、糖尿病罹患歴が有意に長く、食行動調査では、満腹感、食べ方、食事内容に差が見られた。
75. 精神科救急入院科病棟の入院時栄養状態の特徴	共	2014年10月4日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	木戸里佳 長尾浩史 宇野久一 鞍田三貴 精神科救急入院科病棟の入院時栄養状態を、BMI18.5 未満を低体重群、18.5~25 未満を正常群、25 以上を肥満群の3群に分類し調査した。低体重群32%、正常群68%、肥満群31%でありAlb値は3群に差はなかった。低体重群 (32%) と肥満群 (31%) が二極化して存在しており、低体重群は、マラスム型栄養状態であることが判明し

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
76. 高齢透析患者の栄養状態と問題点	共	2014年10月4日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	た。 武内海歌 亀井こずえ 織原茉佑花 本荘裕美 松本みゆき 岩崎亮子 西庵良彦 宮本孝 鞍田三貴 透析専門クリニックの栄養指導依頼患者87例を対象に年齢の中央値(70歳)で2群に分類し高齢透析患者の栄養状態および問題点を明らかにした。50%が70歳以上であった。0歳以上で意識的食事を制限している症例は85%に見られた。
77. 2型糖尿病患者における睡眠リズムと食生活および栄養摂取量との関連	共	2014年9月4日	第71回和歌山内分泌代謝研究会	亀井こずえ 前山遥 笹野馨代 田中明紀子 川村雅夫 古川安志 西理宏 鞍田三貴 睡眠障害と食行動の関連について初回糖尿病教育入院患者26症例を対象に睡眠調査は、Pittsburgh睡眠質問票 (PSQI)、活動調査は、日本語版朝型-夜型質問紙 (MEQ) を用いPSQIスコア5.5をカットオフに睡眠障害有無の2群に分け、体組成、食行動を比較した。 睡眠障害有群は50%であり、食後血糖は高値の傾向があり、夕食後血糖は有意に高値であった。睡眠障害群は、「食動機」、「満腹感覚」、「食べ方」、「食事内容」、「リズム異常」に有意差を認めた。
78. 消化器癌患者における術前サルコペニア有病率と術前食事摂取状況の検討		2013年10月6日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	内田絢子、鞍田三貴、鳥山明子、中山環、風間敬一、山本和義、辻仲利政 消化器癌患者における術前のサルコペニア有病率を明らかにし、栄養状態や術前食事摂取状況との関係を検討。消化器癌患者のサルコペニア発生率は24.5% (26/116例)であった。体重1kg当たりのたんぱく質摂取量はサルコペニア群で低い傾向が見られ術前からのたんぱく質摂取量の確保は、サルコペニアの予防に効果的である可能性が示唆された。
79. 地域医療栄養治療システム栄養サポートステーション (NSS) における糖尿病栄養食事	共	2013年10月5日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	鞍田三貴 織原茉佑花 亀井こずえ 内田絢子 山田恵理子 鹿住敏 福尾恵介 難波光義 2011年より栄養サポートステーション (NSS) を開設し栄養支援を開始している。全対象の1年3ヶ月HbA1c値は7.8±1.1%と減少した。主治医と大学栄養サポートステーションの連携による栄養支援は、継続指導による長期的血糖コントロールが可能である
80. 高齢女性において糸球体濾過量、血清鉄、血清アルブミンが握力の独立した規定因子である	共	2013年10月5日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	山田恵理子、坪井 彩加、鞍田三貴、谷野永和、鹿住 敏、福尾恵介 高齢者において握力の低下は身体機能の低下や寝たきりのみならず認知能力の低下とも相関する。今回高齢女性 (n=202、年齢76歳) において、心血管疾患のリスクと握力との関連を調査した。年齢とは独立して、アルブミン、鉄とeGFRが握力の規定因子であった (累積R ² =0.355)。この関係は年齢、炎症や貧血とは独立して見られた。
81. 上腕脈圧は若年と中年ではインスリン抵抗性と、高齢ではlow-grade inflammationと相関する	共	2013年5月16日	第56回日本糖尿病学会	山田恵理子、坪井 彩加、鞍田三貴、鹿住 敏、福尾恵介 上腕脈圧と2型糖尿病の危険因子との関連を女性で検討した。女性611名で、BMI、腹囲、体組成、血糖、インスリン、脂質、炎症指標、アディポカインを測定し、一部ではOGTTも施行した。脈重回帰分析では脈圧の独立した規定因子は若年ではHOMA-IRとアディポネクチン、中年ではHOMA-IR、高齢ではhsCRPとTNF-αであった。【結論】上腕脈圧は若年と中年ではインスリン抵抗性、高齢ではlow-grade inflammationと相関した。
82. 結核発病、治療反応性と耐糖能異常、栄養の関連性の検討		2013年3月28日	第88回日本結核病学会	林 清二 武内海歌 佐々木由美子 香川智子 鞍田三貴 効果的な栄養介入のために、結核発病、排菌陰転化遅延に関連する危険因子を抽出した。結核患者522名と同期間のドック受診者から年齢をマッチさせた対象を1:1で抽出し臨床指標を比較した。男性はIGT、低栄養と結核発病と排菌遅延の間に関連を認めた。
83. 肺結核発症と排菌陰転遅延に関連する栄養指標の抽出	共	2013年2月21日	第28回日本静脈経腸栄養学会	初田和由 武内海歌 茨城まどか 大石幸男 金田和奈 濱出清美 宮崎美佳 佐々木由美子 香川智子 川口知哉 中山環 鞍田三貴 林 清二
84. 神経筋疾患専門病院における経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) 施行患者の生存に関する術前栄養因子		2013年1月12日	第16回日本病態栄養学会	西真理絵、武内海歌 鞍田三貴 藤村真理子 和田哲成 里中和廣 1年生存群、死亡群におけるPEG施行前の栄養指標を比較し、3カ月、6カ月、1年の生存率を検討する。 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の1年予後に関連している

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
85. 経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）施行患者の1年生存に関する術前栄養因子		2013年1月12日	第16回日本病態栄養学会	<p>術前因子は、血清Alb値、Hb、栄養補給法、気切の有無であった。 鞍田三貴 西真理絵、武内海歌 藤村真理子 和田哲成 里中和廣 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の1年生存に影響する因子を抽出する。</p> <p>経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）を施行し、予後調査74例の性別、術前気切の有無、術前栄養補給法を2群分類、年齢、PEG施行前の臨床諸指標は中央値で2群分類し、Kaplan-Meier法で生存解析を行い、logrank-testを使用した。予後予測因子の抽出として、COX比例ハザードモデルを使用した。</p> <p>術前Alb値、気切の有無が予測因子として有意に関わっていた。 鞍田三貴 内田絢子 山田恵理子 福尾恵介 松本みゆき 本荘裕美 北風美保子 久保賀子 宮本孝</p>
86. 血液透析導入1年未満の透析患者における食事制限意識と栄養指標の関係		2013年1月12日	第16回日本病態栄養学会	<p>透析患者の食事に対する意識と栄養指標との関係を検討する。 透析導入1年未満の患者27名（男18/女9、年齢中央値69才）を対象とし食事制限群、非制限群の透析前の栄養指標、透析前後の体重増加率、食事摂取状況を比較した。</p> <p>制限群の食事摂取量は目標値より不足しており、GNRIやDW/標準体重は低値を示した。また透析間体重増加率も制限群は高値であった。 以上より、意識的食事制限は低栄養のリスクと考えられる 山田恵理子 内田絢子 鞍田三貴 松本みゆき 本荘裕美 北風美保子 久保賀子 宮本孝</p>
87. 血液透析患者における食事制限意識と栄養指標の関係		2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術総会	<p>透析患者の食事に対する意識と栄養指標との関係を検討する。 透析導入1年未満の患者27名（男18/女9、年齢中央値69才）を対象し食事制限群、非制限群の栄養指標、透析前後の体重増加率、食事摂取状況を比較した。</p> <p>透析前後（中2日）の体重増加率（中央値）は、制限群5.1%、非制限群2.4%と制限群が有意に高値を示した。GNRIは制限群90.9±9.3、非制限群96.8±7と制限群は有意に低値を示した。意識的食事制限は低栄養のリスクと考えられた。 山田恵理子 内田絢子 鞍田三貴 松本みゆき 本荘裕美 北風美保子 久保賀子 宮本孝</p>
88. 胃癌術後患者における化学療法継続に影響を及ぼす栄養因子の検討		2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部総会	<p>長島有花、大池教子、鳥山明子、風間敬一、辻仲利政、鞍田三貴、福尾恵介 胃癌術後の化学療法継続に影響を及ぼす因子の検討を行った。 TS-1完遂率は、77.5%（31例）であった。化学療法開始時及び開始後1ヶ月の体重減少率は、完遂群-7.8%、-8.0%に比べ、中止群は-11.3%、-11.8%と有意に高値を示した。</p> <p>化学療法開始後1ヶ月の食事マイナス因子を訴える患者は、完遂群19%に比べ、中止群67%であり、有意に高値を示した。 胃癌術後化学療法中止には、開始後1ヶ月の体重減少が関係しており、同時期に食欲低下を示す症例が多かったことから、化学療法早期の食物摂取による体重維持が栄養管理上必要であることが示唆された。</p>
89. 疾患別に見た経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）施行患者の生存に関する術前栄養因子	共	2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術総会	<p>西真理絵 武内海歌 鞍田三貴 福尾恵介 藤村真理子 廿日岩美宏 和田哲成 里中和廣 神経筋疾患におけるPEG施行患者の生存に影響する術前栄養因子を抽出する。</p> <p>予後調査（転院先に調査票を郵送）で生存日数の確認が可能であった神経筋疾患群37例では、76歳未満（$p=0.02$）、気管切開有（$p=0.03$）、食道裂孔ヘルニア無（$p<0.01$）、術前栄養補給法が消化管使用群（$p=0.05$）で1年生存率が高いことが示された。</p> <p>多変量解析による生存分析では、神経筋疾患群で気管切開の有無が予測因子として有意に関連していた。</p>
90. 認知症を有する高齢者の必要エネルギーの決定法		2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部総会	<p>内田絢子 今井聡子 竹田愛美 森垣知美 鞍田三貴 藤井芳夫 高齢者の1日の活動量を測定し、最も適切なTEE（Total energy expenditure）算定法について模索した。</p> <p>方法 食事摂取が良好の認知症高齢者16例を対象とした。3軸センサー活動量計（スズケン）を用いて測定した1日の運動量、微小運動量、</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
91. 血液透析間の体重増加率と栄養指標および食事摂取状況		2012年10月7日	第34回日本臨床栄養学会・第33回日本臨床栄養協会第10回大連合大会	<p>特異的動作量に基礎代謝量を合計した値を計測TEEとした。計測TEEと実際の摂取エネルギーは計測TEEを大幅に上回り、体重も増加していた。計測TEEは実測体重×25kcalと強い相関を示し高齢者のTEE算定に利用できる可能性が示された。</p> <p>鞍田三貴 内田絢子 山田絵里子 武内海歌 福尾恵介 水原陽子 本庄裕美 北風美保子 宮本孝</p> <p>透析導入後初回栄養指導患者30名を対象に、中1日の体重増加率3%以上群と3%未満群に分類し、栄養アセスメントおよび患者の食事状況を評価した。透析間体重増加症例の食事摂取量は過少申告であった。透析導入に至るまでの栄養指導経験症例が多いことから、制限の意識から離脱できず不適切な食事内容を助長させている可能性が示唆される。</p>
92. 地域連携・栄養治療システムの開発~武庫川栄養サポートステーション(NSS)の設立~	共	2012年2月24日	第27回日本静脈経腸栄養学会	<p>鞍田三貴, 西真理恵, 武内海歌, 長嶋有花, 正木志歩, 谷崎典子, 鈴木一永, 鹿住敏, 福尾恵介, 難波光義</p> <p>武庫川女子大学栄養サポートステーション(NSS)を平成23年1月学内に設置した。栄養指導依頼患者は糖尿病5名、脂質異常症2名で述べ22回栄養指導を行った。全患者が骨格筋の減少を認めず体脂肪が減少した。患者満足度調査では全症例が満足と回答した。NSSは、従来の栄養指導と異なる形式であり、患者の満足度も高い。高齢化が進むなかで増加し続ける慢性疾患に拍車をかけ、地域医療に貢献できるものであり、医療人の育成にも有効である。</p>
93. 認知症有無別にみたPEG施行前後の栄養状態と術後トラブルについて	共	2012年2月24日	第27回 日本静脈経腸栄養学会	<p>鞍田三貴, 森垣知美, 武内海歌, 福尾恵介, 藤村真理子, 内海繁敏, 和田哲成, 里中和廣</p> <p>認知症の有無別にPEG後のトラブル発生、短期予後について検討した。</p> <p>認知症群45例(83.3±8.2歳)と非認知症群30例(脳血管障害、肺疾患81.1歳±8歳)を対象に栄養状態、術後トラブル、短期予後を後ろ向きに調査した。</p> <p>術後トラブル発生、発熱発生頻度は認知症PEG症例が多い傾向にあった。しかし、術後早期死亡率に差は認めなかった。</p>
94. PEG施行患者の術前血清アルブミン値と術後トラブルの関係	共	2012年2月23日	第27回日本静脈経腸栄養学会	<p>藤村真理子, 内海繁敏, 和田哲成, 里中和廣, 森垣知美, 武内海歌, 福尾恵介, 鞍田三貴</p> <p>PEG依頼があった175例の栄養状態を把握し、術後トラブル発生との関連について検討した。</p> <p>神経筋疾患専門病院におけるPEG施行理由は嚥下困難が最も多く、術前の年齢や体格、疾患および術式とトラブル発生に関連は認めず、栄養指標が低値を示す症例はトラブル発生が高率であることが明らかとなり、施行前のNST関与の重要性が示唆された。</p>
95. ワークショップアウトカム予測因子としての栄養アセスメント 初回治療結核患者の排菌陰転化遅延に關与する入院時栄養因子	共	2012年2月	第27回日本静脈経腸栄養学会	<p>武内海歌, 鞍田三貴, 福尾恵介, 中野可奈子, 中山環, 大石幸男, 和田和由, 林清二</p>
96. 初回治療結核患者の入院時栄養状態	共	2012年1月15日	第15回日本病態栄養学会	<p>武内海歌, 鞍田三貴, 中野可奈子, 中山環, 大石幸男, 和田和由, 林清二</p> <p>結核菌培養検査陽性であった初回治療結核患者554名(男性385名、女性169名、年齢中央値63歳、レンジ81歳)を対象に陰転化遅延に關与する栄養因子を検討し、log-rank testにより陰転化遅延に關与する栄養因子を求めた。</p> <p>陰転化遅延に關与する栄養指標は入院時BMI、A1b、PNI、CRPであり、50歳以上では性別も影響していた。</p>
97. PEG施行患者の術前血清アルブミン値と術後トラブルの関係	共	2012年1月15日	第15回日本病態栄養学会	<p>森垣知美, 武内海歌, 藤村真理子, 内海繁敏, 和田哲成, 里中和廣, 福尾恵介, 鞍田三貴</p> <p>PEG依頼があった175例の栄養状態を把握し、術後トラブル発生との関連について検討した。</p> <p>神経筋疾患専門病院におけるPEG施行理由は嚥下困難が最も多く、術前の年齢や体格、疾患および術式とトラブル発生に関連は認めず、</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
98. 武庫川女子大学栄養サポートシステムの開発~武庫川栄養サポートステーション(NSS)の設立~	共	2011年11月5日	第22回日本老年医学会近畿地方会	<p>栄養指標が低値を示す症例はトラブル発生が高率であることが明らかとなり、施行前のNST関与の重要性が示唆された。</p> <p>鞍田三貴, 西真理恵, 武内海歌, 正木志歩, 谷崎典子, 鈴木一永, 鹿住敏, 福尾恵介, 難波光義</p> <p>武庫川女子大学栄養サポートステーション(NSS)を平成23年1月学内に設置した。栄養指導依頼患者は糖尿病5名、脂質異常症2名で述べ22回栄養指導を行った。全患者が骨格筋の減少を認めず体脂肪が減少した。患者満足度調査では全症例が満足と回答した。</p> <p>NSSは、従来の栄養指導と異なる形式であり、患者の満足度も高い。高齢化が進むなかで増加し続ける慢性疾患に拍車をかけ、地域医療に貢献できるものであり、医療人の育成にも有効である。</p>
99. 認知症有無別にみたPEG患者栄養状態と術後トラブルについて	共	2011年11月5日	第22回日本老年医学会近畿地方会	<p>森垣知美, 武内海歌, 鞍田三貴, 福尾恵介, 藤村真理子, 内海繁敏, 和田哲成, 里中和廣</p> <p>認知症の有無別にPEG後のトラブル発生、短期予後について検討した。</p> <p>認知症群45例(83.3±8.2歳)と非認知症群30例(脳血管障害、肺炎患81.1歳±8歳)を対象に栄養状態、術後トラブル、短期予後を後ろ向きに調査した。</p> <p>術後トラブル発生、発熱発生頻度は認知症PEG症例が多い傾向にあった。しかし、術後早期死亡率に差は認めなかった。</p>
100. 高齢者のADLと体組成および食事摂取量の関係~NST活動による試み~	共	2011年11月5日	第22回日本老年医学会近畿地方会	<p>長島有花, 鞍田三貴, 武内海歌, 片寄由香, 澤陽子, 藤井芳夫</p> <p>介護付有料老人ホームに入所している高齢者24例のADL(日常生活動作)と体組成及び食事摂取量の関連を検討した。</p> <p>ADLを維持していた者は、42%だった。1年半後の体重増加率及びAMA増加率はADL維持群が有意に増加していた。ADL維持群は30kcal/kg以上のエネルギー摂取、1.2g/kg以上のたんぱく質摂取量であった。</p> <p>食事摂取量減少はADL低下要因の一つであり、体重、筋肉量増加および十分なたんぱく質摂取は、ADL維持につながる事が示唆された。</p>
101. 高齢者施設におけるADL低下と体組成および食事摂取量の関係~NST活動による試み~	共	2011年10月28日	第33回日本臨床栄養学会	<p>鞍田三貴, 長島有花, 武内海歌, 片寄由香, 澤陽子, 藤井芳夫</p> <p>老人ホーム新設にあたりNST活動を実施し、栄養状態の把握と評価を行った。入所時BMI20.6±3.1kg/m²、%TSF96.7±50.2、%AMA86.2±23.1、Hb10.6±1.8g/dl、Ht33.1±5.1%、BEE982.9±98.2kcalであった。6ヶ月後BMIは20.5±3.3kg/m²と変化はなく%AMA増加は9例(64.3%)であり、そのうち6例は%TSFが減少した。入所時、6ヶ月の栄養摂取充足率は、%AMA増加群ではエネルギー116±32%から115±26%、蛋白質は113±23%から112±16%とほぼ必要栄養量であった。今回設定した高齢者の必要栄養量はエネルギー、蛋白質ともに適正であることが推測された。また、高齢者施設においてもNST活動がPEM予防に不可欠であることが示された。</p>
102. 外来化学療法中の消化器癌患者における血清亜鉛と有害事象の関係	共	2011年7月2日	第6回大阪NST研究会	<p>谷崎典子 今西健二 梶原絹代 森岡亜希 島田志美 三島秀行 鞍田三貴 福尾恵介 辻仲利政</p> <p>患者の49%が低Zn症例であり、低Zn群の栄養指標は低下しており、栄養介入が必要な患者群と考えられた。血清Zn値と有害事象との関係は示されず、有害事象対策のみでは栄養指標の改善は困難であることが推測された。</p>
103. 結核と非結核性抗酸菌の栄養諸指標の差異の検討	共	2011年6月2日	第86回日本結核病学会	<p>初田和由 武内海歌 鞍田三貴 佐々木由美子 鈴木克洋 林清二 霧口一成 大石幸男</p>
104. 感受性結核初回治療患者の排菌陰転化に関連する栄養指標の検討	共	2011年6月2日	第86回日本結核病学会	<p>武内海歌 鞍田三貴 初田和由 林清二 霧口一成 大石幸男</p> <p>治療効果を反映し入院期間を規定する陰転化日数は治療開始時のCRP、BMI、Albなどの炎症や栄養諸指標と関連したが、性差、ADL、加齢の影響は受けなかった。継続する炎症の結果、結核治療開始時にすでに低栄養状態にある患者が相当数存在することと、低栄養と排菌遷延の関連を明らかにした。今回の結果は栄養管理が結核治療成績を向上させる可能性と、栄養サポートチーム加算対象範囲拡大等の医療環境整備の必要性を示唆する。</p>
105. 結核患者の入院時栄	共	2011年2月	第26回日本静脈経	<p>中野可奈子 茨木まどか 中山 環 大石幸男 武内海歌 林清二</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
養状態と摂取量の関係		18日	腸栄養学会	鞍田三貴 近年の結核患者の栄養状態を明らかにした。結核患者の低アルブミン症例は37%に見られ、栄養摂取量は極めて低かった。結核患者の入院早期の栄養介入の必要性が明らかとなった。
106. 年齢別にみた入院時栄養状態と結核菌陰転化との関係	共	2011年2月18日	第26回日本静脈経腸栄養学会	武内海歌 鞍田三貴 中野可奈子 中山 環 大石幸男 林清二 結核患者の入院時栄養状態を評価し、結核菌陰転化日数を規定する栄養指標を検討した。結核菌陰転化には入院時PNI、CRPが影響していた。49歳以下の患者においてはアルブミンが重要な規定因子であった。
107. 外来化学療法中の消化器癌患者における血清亜鉛と有害事象の関係	共	2011年2月17日	第26回日本静脈経腸栄養学会	谷崎典子 今西健二 梶原絹代 森岡亜希子 島田志美 三島秀行 鞍田三貴 福尾恵介 辻仲利政 外来化学療法施行患者の約49%が低亜鉛症例であり、養指指標は低下していた。血清亜鉛と有害事象の関係は示されず、有害事象対策のみでは栄養改善は困難である
108. 外来化学療法中の消化器癌患者における血清亜鉛と有害事象との関係	共	2011年1月16日	第14回日本病態栄養学会	谷崎典子 今西健二 梶原絹代 森岡亜希子 島田志美 三島秀行 鞍田三貴 福尾恵介 辻仲利政 外来化学療法室における通院患者の血清亜鉛を測定し、癌治療に伴う有害事象との発生の関係を検討した。外来化学療法患者の血清亜鉛は極めて低く、アルブミンをはじめとした栄養指標も低値であった。有害事象と亜鉛との関係は見られなかった
109. 年齢別にみた結核菌陰転化と入院時栄養状態の関係	共	2011年1月16日	第14回日本病態栄養学会	武内海歌 鞍田三貴 中野可奈子 中山 環 大石幸男 林 清二 20年前の結核患者の栄養状態を示した例はあるが、近年の結核患者は不明である。近年の結核患者228名の栄養状態を評価した。50歳を境に排菌陰転化に影響する因子が異なっていた。
110. 肺疾患の栄養摂取量を含めた入院時アセスメントについて	共	2010年2月25日	第25回日本静脈経腸栄養学会	後神絵里奈 鞍田三貴 林 清二 中山 環 川岸万希子 森岡靖 笹山久美代 肺疾患（COPD, IP, 肺がん）患者の入院時栄養評価を行った結果、COPD 他の肺疾患と比べて明らかに低体重、REEが亢進しておりマラスムスであることが明らかである
111. 肺疾患の栄養摂取量を含めた入院時アセスメントについて	共	2010年1月10日	第13回日本病態栄養学会	後神絵里奈 鞍田三貴 林 清二 中山 環 川岸万希子 中野可奈子 武内海歌 森岡 靖 笹山久美代 肺疾患（COPD, IP, 肺がん）患者の入院時栄養評価を行った結果、COPD 他の肺疾患と比べて明らかに低体重、REEが亢進しておりマラスムスであることが明らかである
112. ウィルス性肝疾患の体格および栄養摂取状況について	共	2010年1月10日	第13回日本病態栄養学会	鞍田三貴 柴田久美子 片山和宏 伊藤敏文 内藤雅文 外来慢性C型肝炎患者の栄養摂取状況は、日本人の平均的な栄養摂取量と比較して有意な特徴は見られなかった。明らかにインスリン抵抗性と体脂肪の蓄積が病態に影響を及ぼしていた
113. ウィルス性肝疾患の栄養摂取状況について	共	2009年9月19日	第7回日本臨床栄養学会協会連合大会	柴田久美子 鞍田三貴 片山和宏 伊藤敏文 内藤雅文 本田美和子 塩田恵里都 外来慢性C型肝炎患者の栄養摂取状況は、日本人の平均的な栄養摂取量と比較して有意な特徴は見られなかった。殊に鉄、亜鉛摂取量にも有意差は見られなかった
114. 小腸ストーマ造設症例に対する栄養管理	共	2009年1月28日	第24回日本静脈経腸栄養学会	森田有美 松田理恵 箱田真知子 白湯初美 竹内由紀 鳥山明子 松尾彩 今西健二 内海繁敏 鞍田三貴 辻仲利政 ストーマ排泄量を低下させながら経口摂取量を増加させるため、食事工夫、水電解質投与の工夫、補助栄養剤の使用等を行った。しかし、有効小腸長が短く初期ストーマ量の多いケースではPNの併用が必要となる。
115. 地域高齢者の栄養状態と新しい「地域栄養サポート（地域NST）」システムの開発	共	2009年1月11日	第12回日本病態栄養学会	鞍田三貴 難波光義 宮川潤一郎 福尾恵介 在院日数の短縮化、医療費の削減が叫ばれ、地域には急性期病院で栄養管理を完結せず退院する患者が増加している。大学が地域医療に貢献できるかどうかシステム策定を行った
116. 急性期病院における摂食・嚥下機能改善を依頼された患者の背景とNST嚥下チーム	共	2009年1月11日	第12回日本病態栄養学会	松尾 彩 白湯初美 今西健二 内海繁敏 井下久美子 西野万寿美 松本洋美 青野幸余 玄 富 東野正明 鞍田三貴 三田英治 辻仲利政 東堂龍平 嚥下障害患者の栄養管理を標準化することによりチーム医療の成果

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
の活動について 117. 外来糖尿病患者の体組成の特徴	共	2008年5月24日	第51回日本糖尿病学会	が見られた 鞍田三貴 寒谷亜衣子 森田有美 鳥山明子 今西健二 内海繁敏 東堂龍平 片寄由香 竹内由紀 外来糖尿病指導は適正体重に重点をおきエネルギー制限を行ういBMIを指標とするが、体重BMIより、体組成が重要な指標である。
118. 大阪医療センターNSTにおける嚥下造影検査への取組み	共	2008年3月1日	第2回関西西癌チーム医療研究会	今西健二, 松尾 彩, 竹内由紀, 寒谷亜衣子, 森田有美, 鳥山明子, 東野正明, 内海繁敏, 二村吉継, 鞍田三貴, 三田英治, 東堂龍平, 辻仲利政 NSTへの耳鼻科医の参加による嚥下造影検査を開始しその意義について発表した
119. 消化器癌患者における術前体組成測定の意義	共	2008年3月1日	第2回関西西癌チーム医療研究会	鳥山明子, 森田有美, 今西健二, 内海繁敏, 藤谷和正, 辻仲利政, 納谷仁美, 並田美郷, 鞍田三貴 消化器癌患者の術前体組成の意義特徴を見出すことを目的に消化器癌の手術的入院した男性28名を対象とし、術前の対組成をInBody720により測定した。 BMIでは肥満とはいえないが57%が内臓脂肪断面積100cm ² 以上であった。これらのCRP、出血量は高値、術後在院日数も長期であった。術前BMI上に明らかな肥満が認められなくても、高頻度に内臓肥満が認められた。また、内臓脂肪の蓄積が手術および術後経過(CRP上昇、出血量増加、在院日数増加)の予後に影響を及ぼす可能性が示唆された。
120. 大阪医療センターNSTにおけるがん疾患の背景	共	2008年2月21日	第23回日本静脈経腸栄養学会	寒谷亜衣子, 森田有美, 鳥山明子, 今西健二, 内海繁敏, 藤谷和正, 鞍田三貴, 三田英治, 東堂龍平, 辻仲利政 NST活動1年間のNST依頼患者768症例を癌疾患と癌以外とに分類しNST依頼患者の癌疾患の特徴と、対応について考察する。癌疾患516症例(67%)、癌以外252症例(33%)であった。入院時Alb値は癌疾患3.3±0.8、依頼時3.0±0.8、退院時は2.9±0.7g/dlと有意に入院時より低下した。癌以外入院時3.2±0.8、依頼時2.8±0.7、退院時3.1±0.7g/dlと有意に依頼時より増加した。NST依頼患者は病院全体の在院日数に比較して長期である。依頼の67%が癌疾患であり個別対応を実施しているが、退院時Albの改善は見られず治療におけるNST対応の難しさが明らかとなった。
121. 単科型外科栄養カンファレンスにおける経静脈栄養患者の現状調査	共	2008年2月21日	第23回日本静脈経腸栄養学会	上野裕之, 小野亜矢子, 服部雄司, 斎藤 誠, 栗原 健, 今西健二, 鞍田三貴, 三田英治, 藤谷和正, 東堂龍平, 前川孝史, 辻仲利政
122. 胃全摘術施行患者に対するImmunonutrientの術前経口投与の効果と食事摂取量の関係	共	2008年2月21日	第23回日本静脈経腸栄養学会	鞍田三貴, 寒谷亜衣子, 森田有美, 今西健二, 内海繁敏, 藤谷和正, 平尾素宏, 辻仲利政 胃全摘術予定患者を対象にインパクト術前経口投与の効果と食事摂取量の関係を検討した。 経口投与に同意を得られた22症例に術前5日間インパクトを経口投与し術前の日常的な食事が27kcal/day未満(Light群9例)と以上(rich群13症例)に分類した。 外来時から入院時の体重は+1.8±0.9kg増加した。術後合併症発症率はrich群38%(5/13)、Light群11%(1/9)、術後在院日数はrich群26.4±19.8日、Light群17.2±4.6日であった。 高カロリー食症例へのインパクト投与は術後合併症や在院日数に影響が見られた。Immunonutritionは、摂取量を評価し至適量を決定することが侵襲後の栄養管理として効果的である。
123. SGAを用いたスクリーニングによる栄養管理計画の妥当性について	共	2008年1月13日	第11回日本病態栄養学会	鞍田三貴, 寒谷亜衣子, 今西健二, 内海繁敏, 竹之内須賀子, 中田めぐみ, 三田英治, 辻仲利政, 東堂龍平 SGAを受けて栄養管理計画を電子カルテにおいて実行することで栄養管理計画実施加算を算定していることを昨年の本学会で報告した。今回、当院でのシステムが適切に運営されているかどうか検証した。 栄養管理計画が不十分な症例のNST依頼率は低いことから、栄養管理計画作成にあたる管理栄養士の技術向上が、NST依頼割合の向上および妥当な栄養管理実施の鍵となることが推定された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
124. 適切なPEGからの食事補給法の検討	共	2007年11月17日	第61回国立病院総合医学会	森田有美, 鳥山明子, 今西健二, 内海繁敏, 堀内正行, 平石 章, 小林祥晃, 竹立精司, 上野裕之, 鞍田三貴, 東堂龍平, 辻仲利政 粥を用いて粘度を調整し、必要栄養量を充足し得るPEG食を検討した。 胃瘻造設患者13例(平均年齢70±19才)の平均必要エネルギー1317±138kcalを目標エネルギー量とした。今回は、増粘剤を用いず全粥を濾過し主菜と混合することによって粘度を調整した。次に塩酸・リン酸水素ナトリウムを用いた人工胃液200ml(PH2)中へ50mlシリンジで総計200ml注入した。 通常の食材をミキサーで攪拌し、増粘剤を使用せず全粥を用いて均一の粘度調整が可能であった。
125. SGAを用いたスクリーニングによる栄養管理計画の妥当性について	共	2007年11月	第29回日本臨床栄養学会第V回大連合大会	寒谷亜衣子, 今西健二, 内海繁敏, 竹之内須賀子, 中田めぐみ, 鞍田三貴, 三田英治, 東堂龍平, 辻仲利政
126. 慢性肝疾患患者のInBody720による体組成及び栄養状態の検証	共	2007年11月	第29回日本臨床栄養学会第V回大連合大会	竹内由紀, 鞍田三貴, 藤田朋子, 鳥山明子, 森田有美, 内海繁敏, 早川直樹, 藤井育子, 竹立精司, 三田英治, 葛下典由, 加藤道夫, 東堂龍平, 辻仲利政
127. SGAを用いたスクリーニングによる栄養管理計画の妥当性について	共	2007年9月15日	第17回近畿輸液・栄養研究会	菊川真由, 土手香名子, 寒谷亜衣子, 今西健二, 内海繁敏, 竹之内須賀子, 中田めぐみ, 鞍田三貴, 三田英治, 東堂龍平, 辻仲利政
128. NST活動4年目の終末期患者への対応～P C (Palliative care) 食の意義～	共	2007年9月9日	第1回関西がんチーム医療研究会	本名一紗, 三浦裕美, 寒谷亜衣子, 竹内由紀, 森田有美, 鳥山明子, 松尾彩, 今西健二, 内海繁敏, 鞍田三貴, 竹之内須賀子, 中田めぐみ, 藤谷和正, 三田英治, 東堂龍平, 辻仲利政 終末期患者の依頼に対し、P C (Palliative care) 食(完全個人対応)を提供した結果、輸液離脱症例が増加、禁食患者が55%から27%と減少し食べる喜びとQOLを高めることをNST活動1年目に報告している。活動4年目においてPC食の効果を再評価した。NST関与前の栄養補給方法で食事が提供されていた頻度は1年目85%、4年目88%、P C食を提供した結果、死亡1週間前まで栄養補給は経口摂取であった症例は1年目58%、4年目94%と増加した(p<0.02)。 NST活動4年にわたりPC食は、終末期患者のQOL向上に寄与する食事として定着したと考えられる。
129. 大阪医療センターNSTにおけるがん疾患の背景	共	2007年9月8日	第1回関西がんチーム医療研究会	鞍田三貴, 寒谷亜衣子, 今西健二, 内海繁敏, 藤谷和正, 三田英治, 東堂龍平, 辻仲利政 NST活動4年目となる平成18年8月から19年7月までのNST依頼癌疾患の特徴と、対応について考察する。 NST依頼患者は病院全体の在院日数に比較して長期である。依頼の67%が癌疾患であり個別対応を実施しているが、退院時Albの改善は見られず癌以外に比べ正の終了率が低い。癌治療におけるNST対応の難しさが明らかとなった。
130. SGAを用いたスクリーニングによる栄養管理計画の妥当性について	共	2007年7月7日	第1回近畿輸液NST研究会	鞍田三貴, 菊川真由, 土手香名子, 寒谷亜衣子, 今西健二, 内海繁敏, 竹之内須賀子, 中田めぐみ, 三田英治, 東堂龍平, 辻仲利政 SGAを受けて栄養管理計画を電子カルテにおいて実行することで栄養管理計画実施加算を算定していることを昨年の本学会で報告した。今回、当院でのシステムが適切に運営されているかどうか検証した。 栄養管理計画が不十分な症例のNST依頼率は低いことから、栄養管理計画作成にあたる管理栄養士の技術向上が、NST依頼割合の向上および妥当な栄養管理実施の鍵となることが推定された。
131. 栄養サポートチームにおける脂肪乳剤の有効活用のための検証と方策について	共	2007年2月9日	第22回日本静脈経腸栄養学会	上野裕之, 服部雄司, 栗原健, 今西健二, 鞍田三貴, 三嶋秀行, 沢村敏郎, 東堂龍平, 前川孝史, 辻仲利政 NST対象患者中、静脈栄養患者の割合と脂肪乳剤の使用率を調査し問題点を見出した
132. 大阪医療センターオリジナルSGAの検討～	共	2007年2月9日	第22回日本静脈経腸栄養学会	鳥山明子, 藤田朋子, 今西健二, 内海繁敏, 藤井育子, 竹之内須賀子, 鈴木厚子, 鞍田三貴, 加藤道夫, 三嶋秀行, 沢村敏郎, 東堂龍

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
肝硬変、肝細胞癌患者の入院時SGA評価と客観的評価のずれについて～				平, 辻仲利政 肝疾患患者の栄養評価におけるオリジナルSGAの意義を検討した。肝硬変、肝細胞癌患者の入院時SGA判定と、血清Alb値には解離が存在していた。主観的に筋肉量が維持され腹水や浮腫が見られない場合、低Alb血症であっても在院日数や短期予後が良好であることが判明し、オリジナルSGAは肝疾患の予後的栄養評価において有用である。
133. HIV拠点病院におけるHIV感染患者に対するNST対応～NST依頼HIV患者の背景について～	共	2007年2月8日	第22回日本静脈経腸栄養学会	鞍田三貴, 藤田朋子, 鳥山明子, 今西健二, 内海繁敏, 三嶋秀行, 沢村敏郎, 東堂龍平, 辻仲利政, 上平朝子, 白坂琢磨 NST依頼患者のうちHIV患者36症例を対象とし、摂取エネルギーが必要量(BEE×ストレス係数)を充足した17例を充足群、できなかった19例を未充足群とし入院、依頼、退院時の背景を検討した。充足群のAlb値は入院時2.9±0.7、依頼時3.1±0.8、退院時3.8±0.4g/dlと退院時において有意に増加し(P<0.05)、未充足群は入院時2.7±0.7、依頼時2.6±0.7、退院時2.8±0.6g/dlであった。充足群のCD4は入院時162±194、依頼時170±205、退院時210±185、未充足群は入院時115±182、依頼時112±210、退院時114±96/μLと充足群のCD4は高値を示した。HIVのNST依頼患者に対し、必要栄養量を充足することでAlbの改善が見られ、NST対応の意義は大きい
134. NST電子カルテシステムがNST活動に及ぼす効果	共	2007年1月13日	第10回日本病態栄養学会	鞍田三貴, 今西健二, 鳥山明子, 内海繁敏, 上野裕之, 竹之内須賀子, 鈴木厚子, 大西光雄, 三嶋秀行, 辻仲利政, 東堂龍平 電子化前と直後のSGA提出率、NST依頼件数の比較によりNST電子カルテシステムを検証した。栄養管理計画導入によりSGA提出率は増加、電子カルテ後はSGA提出率、主観的評価チェック率、NST依頼件数ともに増加した。栄養管理実施加算を含めたNSTシステムの電子カルテ化はシステム運用上有効である。
135. 大阪医療センターオリジナルSGAの検討～肝硬変、肝細胞癌患者のSGA評価と客観的評価のずれについて～	共	2006年9月23日	第60回国立病院総合医学会	鳥山明子, 山本桂, 森田有美, 寒谷亜衣子, 井上聡子, 藤田朋子, 的場美智子, 今西健二, 内海繁敏, 藤井育子, 鞍田三貴, 三嶋秀行, 東堂龍平, 辻仲利政 肝疾患患者の栄養評価におけるオリジナルSGAの意義を検討した。肝硬変、肝細胞癌患者の入院時SGA判定と、血清Alb値には解離が存在していた。主観的に筋肉量が維持され腹水や浮腫が見られない場合、低Alb血症であっても在院日数や短期予後が良好であることが判明し、オリジナルSGAは肝疾患の予後的栄養評価において有用である。
136. 婦人科癌疾患における下部消化管広範囲切除に対する栄養管理とチーム介入	共	2006年9月23日	第60回国立病院総合医学会	今西健二, 井上聡子, 森田有美, 鳥山明子, 藤田朋子, 内海繁敏, 四方文子, 樋口久子, 鞍田三貴, 三嶋秀行, 沢村敏郎, 東堂龍平, 辻仲利政
137. 脂肪乳剤における栄養サポートチームのアプローチについて～当センターにおける使用調査から～	共	2006年9月9日	第16回近畿輸液・栄養研究会	上野裕之, 服部雄司, 栗原健, 今西健二, 鞍田三貴, 三嶋秀行, 沢村敏郎, 東堂龍平, 前川孝史, 辻仲利政 NSTにおいて、当センター脂肪乳剤の使用状況を調査し、これら製剤の適性かつ有効な使用を推進するための検討を行った。当製剤は術後のTPNからPPNへの移行期の熱量補填に短期間で使用されることが多いことがわかった。末梢輸液のみでは十分な熱量を得難いとの認識から、高熱量の当製剤を積極的に取り入れるための情報提供をNSTで行い、末梢輸液栄養療法のプロローグを確立したいと思う。
138. 大阪医療センターオリジナルSGAの検討～肝疾患におけるSGA評価と客観的評価のずれについて～	共	2006年7月8日	第1回近畿輸液NST研究会	鳥山明子, 森田有美, 山本桂, 井上聡子, 藤田朋子, 今西健二, 内海繁敏, 藤井育子, 鞍田三貴, 三嶋秀行, 沢村敏郎, 東堂龍平, 辻仲利政 入院時スクリーニングの方法として看護師によるSGA記入を試みた。約1年間NST会議にて協議し、チェックしやすいオリジナルSGAを作成し現在に至っている。しかし、浮腫や腹水を伴う肝疾患における極度栄養不良患者の抽出が困難であることが判明し、その原因を検討した。 腹水や浮腫を伴う肝疾患において客観的指標のみの栄養スクリーニングには限界があり、主観的包括的評価が有効であることが示さ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
139. 対糖能異常を有するNST依頼患者の背景	共	2006年5月27日	第49回日本糖尿病学会	れた。 今西健二, 藤田朋子, 真鍋悟, 内海繁敏, 鞍田三貴, 鈴木智子, 滝秀樹, 沢村敏郎, 辻仲利政, 東堂龍平
140. 耐糖能異常を有するNST依頼患者の背景	共	2006年1月27日	第21回日本静脈経腸栄養学会	鞍田三貴, 森田有美, 藤田朋子, 今西健二, 内海繁敏, 鈴木智子, 沢村敏郎, 東堂龍平, 辻仲利政
141. 当院における糖尿病患者に対するNST介入が有効であった1症例	共	2005年11月4日	第42回日本糖尿病学会近畿地方会	NSTに依頼される患者の耐糖能異常を有する患者の特徴を発表した 難波奈々, 藤田朋子, 鈴木智子, 高原充佳, 滝秀樹, 今西健二, 鞍田三貴, 沢村敏郎, 東堂龍平
142. NST活動における終末期患者への対応～PC (Palliative care) 食の意義～	共	2005年10月15日	第2回栄養士協議会栄養研究会学会	表順子, 藤田朋子, 森田有美, 内藤浩史, 的場美智子, 真鍋悟, 今西健二, 内海繁敏, 鞍田三貴, 松本昌子, 沢村敏郎 終末期患者に対するNST対応として個別対応食の意義を述べた
143. 大阪医療センターNST今後の課題	共	2005年10月15日	第59回国立病院総合医学会	真鍋悟, 今西健二, 鞍田三貴, 内海繁敏, 松本昌子, 上野裕之, 東堂龍平, 沢村敏郎, 辻仲利政 NST活動3年の成果と課題について述べた
144. NST活動における終末期患者への対応～PC (Palliative care) 食の意義～	共	2005年10月9日	第2回栄養士協議会栄養研究会学会	藤田朋子, 森田有美, 表順子, 内藤浩史, 真鍋悟, 今西健二, 鞍田三貴, 内海繁敏, 沢村敏郎 終末期の患者に対するNST対応として個別対応食の成果を発表した
145. EFFECT OF PREOPERATIVE IMMUNONUTRITION ON BODY STRUCTURAL CHANGES IN PATIENTS UNDERGOING ABDOMINAL CANCER SURGERY	共	2005年10月3日	The 11th PENSA	Toshimasa Tsujinka, Motohiro Hirao, Kazumasa Fujitani, Hideyuki Mishima, Masakazu Ikenaga, Miki Kurata Preoperative administration of immunonutrients (ImpactR) may induce body structural changes which may modulate stress responses to improve surgical outcomes in patients with abdominal cancer. Feasibility of preoperative 5 days road of Impact and potential body structural changes was examined. Preoperative immuno-nutrition was well tolerated in cancer patients and induced body structural changes, which may modulate surgical stress responses. Randomized study is planned on gastric cancer patients undergoing total-gastrectomy, to confirm clinical benefits of preoperative Impact intake.
146. ENHANCED DIETARY SCHEDULE IMPROVES CLINICAL OUTCOME AFTER GASTRECTOMY FOR GASTRIC CANCER	共	2005年10月3日	The 11th PENSA	Toshimasa Tsujinka, Motohiro Hirao, Kazumasa Fujitani, Miki Kurata Although early oral feeding after abdominal surgery has been recommended, the optimal dietary schedule has not been established. Enhanced dietary schedule was designed basing on a patient-controlled manner and clinical benefits were evaluated, comparing to conventional dietary schedule. Early dietary schedule was feasible after distal gastrectomy and it improved the clinical outcomes.
147. NST活動における終末期患者への対応～PC (Palliative care) 食の意義～	共	2005年6月30日	第10回日本緩和医療学会	森田有美, 内藤浩史, 的場美智子, 藤田朋子, 真鍋悟, 鞍田三貴, 笹山久美代, 里見絵里子, 沢村敏郎
148. 終末期患者へPC (Palliative care) 食の提供～調理師のNST参加による影響	共	2005年6月30日	第10回日本緩和医療学会	内藤浩史, 森田有美, 的場美智子, 藤田朋子, 真鍋悟, 鞍田三貴, 笹山久美代, 沢村敏郎
149. Palliative care	共	2005年2月	第20回日本静脈経	森田有美, 井上聡子, 野崎恭子, 的場美智子, 藤田朋子, 真鍋悟,

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
(PC)食の意義 150. 大阪医療センター NST依頼における終末期患者の背景	共	17日 2005年2月 17日	腸栄養学会総会 第20回日本静脈経腸栄養学会総会	内藤浩史, 鞍田三貴, 笹山久美代, 沢村敏郎, 辻仲利政 井上聡子, 森田有美, 野崎恭子, 的場美智子, 鞍田三貴, 沢村敏郎, 辻仲利政
151. 腎不全、糖尿病、高血圧症を合併した肝癌患者に対するPC食 (Palliative Care)	共	2004年10月 3日	第26回日本臨床栄養学会総会	森田有美, 野崎恭子, 的場美智子, 鞍田三貴, 仁木仁, 分島一, 山本桂司 多くの疾患を合併する肝臓がん患者への個別対応食の効果について症例を報告した
152. 大腸小腸切除後に MCTを用いて栄養管理をおこなった1症例 (残存小腸1m以下)	共	2004年10月 3日	第26回日本臨床栄養学会総会	野崎恭子, 森田有美, 的場美智子, 藤田朋子, 真鍋悟, 鞍田三貴, 笹山久美代, 田中雄悟, 池永雅一, 辻仲利政 短腸症候群へのMCTを用いた栄養管理法は静脈栄養法を必要とせず自立できることを報告した
153. 入院患者の栄養状態スクリーニング法 (SGA: subject global assessment) の検討	共	2004年10月 2日	第26回日本臨床栄養学会総会	的場美智子, 森田有美, 野崎恭子, 藤田朋子, 真鍋悟, 鞍田三貴, 角谷勲, 笹山久美代, 福井久美子, 東堂龍平, 沢村敏郎, 辻仲利政 SGAによる低栄養スクリーニングの妥当性について検討した
154. 国立病院大阪医療センターにおける全科 NST活動開始10ヶ月目の報告	共	2004年9月 25日	第14回近畿輸液・栄養研究会	沢村敏郎, 鞍田三貴, 笹山久美代, 東堂龍平, 辻仲利政 急性期病院全科型NST立ち上げ10カ月の成果について発表した
155. Immunonutritionの経口投与による体構成成分の変化	共	2004年1月	第19回日本静脈経腸栄養学会	鞍田三貴, 大池教子, 真鍋悟, 的場美智子, 角谷勲, 竹野淳, 藤谷和正, 平尾素宏, 辻仲利政 消化器癌手術予定患者に対し、インパクト1日1L、5日間を目標とした経口摂取は95%において可能であり、投与後、白血球膜脂肪酸分画n3/n6比が有意に増加し、この変化はimmunomodulationが生じる可能性を示唆する。
156. 国立病院における全科型NSTの看護師の役割～入院時SGAの使用経験～	共	2004年1月	第19回日本静脈経腸栄養学会	長尾加奈子, 鞍田三貴, 大池教子, 的場美智子, 藤本亜紀, 喜井美佐代, 西田ひとみ, 成田英子, 山口裕子, 深井照美, 北村良雄, 上野裕之, 分島一, 東堂龍平, 辻仲利政 看護師がSGAを用いた栄養スクリーニングは可能かを検証した
157. 国立病院における全科型NST設立に際しての栄養士の役割と問題点	共	2004年1月	第19回日本静脈経腸栄養学会	大池教子, 鞍田三貴, 角谷勲, 長尾加奈子, 藤本亜紀, 喜井美佐代, 西田ひとみ, 成田英子, 山口裕子, 深井照美, 北村良雄, 上野裕之, 沢村敏郎, 分島一, 東堂龍平, 辻仲利政
158. 開腹胃切除術後早期経口摂取CPの安全性と有効性の評価	共	2003年11月	第58回国立病院療養所総合医学会	鞍田三貴, 大池教子, 真鍋悟, 角谷勲, 辻仲利政 胃切除患者および胃全摘患者に対する早期経口術後食スケジュールは従来の術後スケジュールに比べ合併症発症に差はなく在院期間を短縮させ安全であることを発表した
159. 開腹胃切除術後患者の在院日数調査～政策医療がん疾患使節(近畿)の調査～	共	2003年11月	第58回国立病院療養所総合医学会	真鍋悟, 鞍田三貴, 平野和保, 逸見砂子, 中井雄子, 望月龍馬, 西田博樹, 毛利美智子 胃切除患者に対する早期経口術後食スケジュールは従来の術後スケジュールに比べ合併症発症に差はなく在院期間を短縮させ安全であることを発表した
160. Immunonutritionの経口投与による体構成成分の変化	共	2003年10月	第13回近畿輸液・栄養研究会	鞍田三貴, 柳崎麻里, 藤村真理子, 真鍋悟, 竹野淳, 沢村敏郎, 辻仲利政 消化器がん患者への術前Immunonutrition投与は可能であり、投与群の血清n-3脂肪酸は明らかに増加した。
161. 開腹胃切除術後早期経口摂取の安全性と有効性の評価	共	2003年2月	第18回日本静脈経腸栄養学会	鞍田三貴, 真鍋悟, 竹野淳, 平尾素宏, 藤谷和正, 辻仲利政 胃切除患者に対する早期経口術後食スケジュールは従来の術後スケジュールに比べ合併症発症に差はなく在院期間を短縮させ安全であることを発表した
162. 開腹胃切除術後早期経口摂取クリニカルパスに伴うバリエーション評価	共	2002年11月	第3回クリティカルパス学会	竹野淳, 平尾素宏, 藤谷和正, 鞍田三貴, 辻仲利政 胃切除患者に対する早期経口術後食スケジュールをクリニカルパスに反映させた結果は従来の術後スケジュールに比べ合併症発症に差はなく在院期間を短縮させることを発表した
163. 糖尿病患者におけるエネルギー・蛋白制	共	2002年10月	第57回国立病院療養所総合医学会	平野和保, 川村美和子, 鞍田三貴, 田所真紀子, 落合由美, 馬場真佐美, 宮坂政彦, 桑原節子

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
限による微量元素摂取に及ぼす影響				
164. 食欲低下および経口摂取不良患者に対するライト食導入後の効果	共	2002年10月	第57回国立病院療養所総合医学会	鞍田三貴, 柳崎麻里, 真鍋悟, 今西健二, 藤田清治, 三嶋喜久子, 辻仲利政 化学療法中の食欲低下患者に対する食事を考案し、その成果を発表した
165. 食欲低下および経口摂取不良患者に対するライト食の検討	共	2002年10月	第57回国立病院療養所総合医学会	真鍋悟, 中山環, 今西健二, 鞍田三貴, 藤田清治, 三嶋喜久子, 辻仲利政 化学療法中の食欲低下患者に対する食事の検討について発表した
166. Is Early Dietary Intake Feasible after Resection of Gastric Malignancy?	共	2002年7月	18thUICC	HIRAO M, KURATA M, YOSHIOKA S, FUJITANI K, TSUJINAKA T 胃切除患者に対する早期経口術後食スケジュールは従来の術後スケジュールに比べ合併症発症に差はなく在院期間を短縮させた
167. 低栄養患者に対するチーム医療によるアプローチ	共	2002年6月28日06月28日~29日	第4回医療マネジメント学会	今西健二, 鞍田三貴, 三嶋喜久子, 太田恭史, 福田利明, 笹山久美子, 奥野明美, 辻仲利政 低栄養患者を見出し早期の介入方法とその成果について発表した
168. チームによる外科病棟における栄養管理	共	2002年2月1日	第17回日本静脈経腸学会	本田富得 福田利明 北村良雄 赤野威彦 今西健二 鞍田三貴 笹山久美子 奥野明美 辻仲利政 消化器外科病棟NST薬剤師が長期TPN、PPN患者を抽出することで早期に栄養介入が可能となった
169. 開腹胃切除術後の早期経口摂取の可能性および有効性について	共	2002年2月1日	第17回日本静脈経腸学会	鞍田三貴 中山環 今西健二 真鍋悟 三嶋喜久子 平尾素宏 藤谷和正 辻仲利政 開腹胃切除術後の早期経口摂取法と従来の段階分割食法と比較し、術後合併症発症率、栄養状態を比較した結果、早期経口摂取法は可能であり有効性も高い。
170. 国立大阪病院における過去1年間の全入院患者の栄養評価(第1報)	共	2001年11月9日	第56回国立病院療養所総合医学会	今西健二 中山環 真鍋悟, 鞍田三貴 三嶋喜久子 辻仲利政 井上通敏 急性期病院の入院患者の入院時栄養状態を評価した結果、約33%が低栄養状態であることが判明した
171. 開腹胃切除術後の経口スケジュールに関する検討	共	2001年10月10日	第63回日本臨床外科学会総会	平尾素宏 藤谷和正 辻仲利政 鞍田三貴 三嶋喜久子 胃切除患者に対する早期経口術後食スケジュールは従来の術後スケジュールに比べ合併症発症に差はなく在院期間を短縮させ安全であることを発表した
172. 開腹胃切除術後の経口摂取時期についての検討	共	2001年9月1日	第11回近畿輸液・栄養研究会	鞍田三貴 中山環 今西健二 真鍋悟 三嶋喜久子 平尾素宏 藤谷和正 辻仲利政 胃切除後の早期経口摂取開始が可能かを検討した。従来法では術後5~7日後より開始するが術後2日目の開始が可能であり、早期開始群の合併症発症率はこれまでと変わらず、在院期間が短縮した
173. 外来糖尿病患者の有効的な栄養食事指導に関する考察	共	2001年8月4日~5日	第22回日本臨床栄養協会総会	鞍田三貴 中山環 今西健二 真鍋悟 三嶋喜久子 瀧 秀樹 池田雅彦 東堂龍平 外来通院中の糖尿病患者の栄養指導を指導回数ごとに血糖コントロール状況を比較した。回数が多いほどコントロールは良好であった
174. 開腹胃切除術後の経口摂取はいつから可能か	共	2001年3月1日~2日	第73回日本胃癌学会	平尾素宏 鞍田三貴 藤谷和正 辻仲利政 蓮池康徳 西庄 勇 沢村敏郎 三嶋秀行 辛 栄成 武田 裕 三嶋喜久子 胃切除後の早期経口摂取開始が可能かを検討した。従来法では術後5~7日後より開始するが術後2日目の開始が可能であり、早期開始群の合併症発症率はこれまでと変わらず、在院期間が短縮した
175. 胃ガン患者における胃切除術後食(段階・分割食)の検討(学術優秀賞)	共	2000年11月11日	第55回国立病院療養所総合医学会	鞍田三貴 榎筒環 浦田正司 真鍋悟 三嶋喜久子 藤谷和正 平尾素宏 辻仲利政 胃切除後の食事スケジュールとして従来からの段階的スケジュールの妥当性を検討した
176. 大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく重要管理事項及び業務工程を考慮した「衛生管理簿」の作成について	共	1998年10月	第53回国立病院療養所総合医学会	松本 靖 鞍田三貴 松井欣也 藤尾信仁 網川俊伸 小見正義 大量調理に新たに取り入れられた衛生管理マニュアルの元に調理作業工程を精査し、作成した衛生管理簿を紹介した

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
177. 糖尿病における結核・非結核患者の病態および食生活の検討～大阪地区7施設共同研究栄養管理室共同研究～（学術優秀賞）	共	1998年10月	第53回国立病院療養所総合医学会	鞍田三貴 浦田正司 藤川かなえ 中井雄子 右野久司 島村かおり 峰松正敏 坂谷光則
178. 糖尿病における結核・非結核患者の病態および食生活の検討（大阪地区7施設共同研究栄養管理室共同研究）	共	1997年6月	厚生省栄養士協議会近畿支部総会	鞍田三貴 糖尿病を有する結核患者と非結核患者の過去の食生活を国立病院7結核病院共同研究を行った（学術優秀賞）
179. 骨粗鬆症のスクリーニングと問診表	共	1995年11月	第14回日本骨粗鬆症研究会	扇谷茂樹 鞍田三貴 藤井芳夫 藤田拓男 骨粗鬆症のリスクを見出すスクリーニング法として、骨密度に加え食生活問診表を取り入れた
180. 高塩食が原因と考えられた腎結石～高カルシウム尿症の1例～	共	1993年9月	第48回国立病院療養所総合医学会	鞍田三貴 別府成人 谷本増美 浦川裕行 大槻道弘 藤井芳夫 藤田拓男 腎結石の原因に高塩分食によるカルシウムの尿中排泄量増加が考えられた症例報告
181. 骨粗鬆症における栄養因子：カルシウムの重要性	共	1993年8月	第11回日本骨代謝学会	藤井芳夫 宮内章光 鞍田三貴 後藤文礼 高橋桂一 藤田拓男 骨密度と栄養素との関連を検討した結果、閉経前後でカルシウムの相関性は異なることを明らかにした
182. Effect of Calcium intake on Lumbar BMD among Premenopausal and Postmenopausal Japanese Women	共	1993年3月	4th International Symposium on Osteoporosis and Consensus Development Conference	Fujii Y, Miyauchi A, Kurata M, Goto B, Takahashi K, Fujita T. カルシウム摂取量は閉経前の女性には有効
183. 閉経前後骨粗鬆症の食生活における特徴と有効的な食事指導について	共	1992年11月	第47回国立病院療養所総合医学会	鞍田三貴 別府成人 谷本増美 浦川裕行 笠井慶三 藤井芳夫 藤田拓男 カルシウム摂取量と骨粗鬆症の関連は、閉経前では相関を示すが閉経後は関連しない
184. 骨粗鬆症における栄養因子	共	1992年10月	第1回日本骨粗鬆症研究会	藤井芳夫 鞍田三貴 宮内章光 後藤文礼 高橋桂一 藤田拓男 本邦の骨粗鬆症のカルシウム摂取が栄養因子とはいえないことが判明した
185. 血漿中での血液凝固抑制因子プロテインSの総量の定量法の検討	共	1991年4月	第53回血液学会総会	李 祥安 鞍田三貴 畑中 薫 河口明人 山本 章
186. LDL除去装置の生態適合性についての検討～血液凝固系および補体系に対する作用～	共	1990年12月	日本動脈硬化学会冬季大会	畑中 薫 鞍田三貴 李 祥安 内田景博 斯波（原田）真理子 野村秀一 小嶋 一 山本 章
187. 高コレステロール血症の栄養学的背景～栄養管理1年後の評価～	共	1990年8月	第11回日本臨床栄養協会総会	鞍田三貴 堀部 博 圓山誓信 南部征喜 大阪北部に位置する農村部における住民健診において高コレステロール血症群の特徴と栄養介入1年後の結果を示した
188. 高コレステロール血症の栄養学的背景～栄養管理1年後の評価～	共	1990年5月	第44回日本栄養・食糧学会	鞍田三貴 堀部 博 圓山誓信 南部征喜
189. 高コレステロール血症の発症リスクとしての肥満～栄養管理年後の評価～	共	1989年11月	第10回日本肥満学会	鞍田三貴 堀部 博 岩根光子 本庄みのり 圓山誓信 南部征喜 住民健診において高コレステロール血症者へ栄養指導を行う1年後の結果を報告した
190. 高コレステロール血症の栄養学的背景	共	1989年5月	第43回日本栄養・食糧学会	鞍田三貴 成川輝明 脇 昌子 古澤通生 岩根光子 西本香代子 横井信子 南部征喜

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
191. 血清トリヨードサイロニンによる糖尿病食事療法の有効性と限界の予測	共	1989年4月	第12回栄養アセスメント研究会	本邦の高コレステロール血症の背景は脂質摂取より糖質摂取量過剰であった 鞍田三貴 脇 昌子 成川輝明 南部征喜 充分量の食事摂取下において、II型DMのT3値は、肥満、インスリン分泌量が十分、罹病期間が短いほど高値であり、T3値は2型糖尿病の病像を包括的に反映している。T3値より食事療法の有効性と限界の予測が可能である
192. 能勢町における高コレステロール血症の栄養学的背景	共	1989年4月	第3回日本臨床栄養協会近畿地方会	岩根光子 鞍田三貴 横井信子 大阪府北部に位置する能勢町における高コレステロール血症の食生活の原因を検討し報告した
193. 高コレステロール血症の発症リスクとしての肥満～住民検診からの検討～	共	1988年12月	第9回日本肥満学会	鞍田三貴 成川輝明 脇 昌子 洪 秀樹 古澤通生 西本香代子 横井信子 南部征喜 大阪北部に位置する農村部の住民健診の結果、高コレステロール血症者は肥満ではないがBMIは高値傾向を示した
194. Effects of Total Energy on Serum Cholesterol level in Dietarey Modification	共	1988年11月	8th International Symposium on Nutritional Atherosclerosis	S. Nambu H. Koh M. Waki T. Narikawa M. Kurata M. Matsuba K. Nagata M. Matsushita I. Masuda A. Kawaguchi K. Kasamatsu
195. 高コレステロール血症者の外来栄養指導法に関する研究	共	1988年10月	第10回日本臨床栄養学会	松葉光史 鞍田三貴 洪 秀樹 脇 昌子 成川輝明 藤尾信仁 藤井政夫 南部征喜 馬場茂明 外来高コレステロール血症患者に脂質制限、糖質制限群の無作為分類しその結果を発表した
196. 血清3, 5, 3' - Triiodothyronine (T3)値による糖尿病食事療法の有効性と限界の予測	共	1988年10月	第10回日本臨床栄養学会	鞍田三貴 脇 昌子 洪 秀樹 南部征喜 糖尿病の栄養指導において糖質制限の限界は血清T3レベルにより診断できることを示した
197. 糖尿病の栄養診断の確率～血清T3値による糖質摂取量の評価～	共	1988年5月	第42回日本栄養・食糧学会	鞍田三貴 洪 秀樹 脇 昌子 成川輝明 古澤通生 藤井政夫 南部征喜
198. Effects of Total Energy on Plasma Cholesterol Level under low P/S ratioin Hypertensive patients	共	1987年10月	Fifth Asian Congress of Nutrition	S. Nambu H. Koh M. Waki M. Kurata T. Narikawa M. Tsushima T. Nakano
199. Relationship between Hypotensive effect and serum IRI, T3 levels after dietary education in Hypertensive patients	共	1987年10月	Fifth Asian Congress of Nutrition	M Waki H. Koh M. Kurata T. Narikawa M. Furusawa T. Nakano S, Nambu
200. Energy, 特に糖質の過剰摂取と高脂血症について	共	1987年5月	第5回肥満治療研究会	成川輝明 古澤通生 中野忠男 鞍田三貴 脇 昌子 南部征喜 高脂血症の成因となる食生活は糖質摂取過剰であることを示した
201. 肥満患者におけるエネルギー制限食の蛋白レベルの違いによる蛋白代謝への影響	共	1986年10月	第8回日本臨床栄養学会	尾井百合子 奥田豊子 小石秀夫 南部征喜 都島基夫 西大條靖子 洪 秀樹 脇 昌子 鞍田三貴 肥満患者にエネルギーを制限した場合のたんぱく代謝の影響をアイソトープを用いた結果を示した。
202. 本邦のII型高リポ蛋白血症の背景因子に関する研究	共	1986年5月	第40回日本栄養・食糧学会	成川輝明 古澤通生 中野忠男 鞍田三貴 洪 秀樹 藤井繁樹 西大條靖子 都島基夫 南部征喜 本邦のII型リポ蛋白血症の食生活の背景を示した。
203. 高血圧症の食事療法：重点指導した場合	共	1986年5月	第40回日本栄養・食糧学会	成川輝明 古澤通生 中野忠男 鞍田三貴 洪 秀樹 藤井繁樹 西大條靖子 都島基夫 南部征喜

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
のComplianceおよび降圧効果の検討				高血圧に対する栄養指導法として重点的な指導とバランス指導と比較し高血圧効果を検討した。
3. 総説				
1. 脂質異常症の栄養管理はどうあるべきか～情報共有の実際から～	単	2023年6月1日	New Diet Therapy Vol. 39 (1) 81-89. 2023	鞍田三貴 R5年2月11日に開催された臨床栄養協会近畿地方会で脂質異常症栄養管理の在り方についてパネルディスカッションファシリテーターとして発表内容をまとめた
2. 再手術を必要とした高齢イレウス患者	単	2018年12月1日	New Diet Therapy Vol. 34 No3:71-76	鞍田三貴 NST対象難治症例(癒着性イレウスのため腸管の使用が不可能であり静脈栄養法適応)についてNSTの役割を解説した
3. 重症妊娠悪阻妊婦(sHG)の食嗜好	共	2018年12月	New Diet Therapy Vol. 34 No3:3-12	久我菜月、西本裕紀子、山下千春、武内海歌、麻原明美、加嶋倫子、伊藤真緒、位田忍、鞍田三貴 sHG妊婦の食事を標準化することを目的に、最も食事が摂取できない状況時にsHG妊婦が選ぶ食事内容を検討した。
4. 排便コントロールから考える栄養管理～多くの食物・薬物アレルギーを有する頭頸部がん患者の術後栄養管理～	共	2018年6月1日	New Diet Therapy Vol. 34 No1:83-86	吉村知夏、北野睦三、南文香、梶原克美、鞍田三貴 食物・薬物アレルギーを認めるTPLE(下咽頭頸部食道全摘術)後の患者に成分栄養剤をアレルゲン除去粉ミルク、粘度調整食品を用いて半固形化することで下痢・逆流の改善、投与時間の短縮、栄養状態の維持が見られた1症例を報告する。
5. 私の栄養管理術～実践編～	単	2016年6月1日	New Diet Therapy Vol. 32. No1:54-55	鞍田三貴 不安定狭心症、慢性腎不全の透析患者を提示し栄養管理の実際を紹介
6. 大学における地域栄養サポートステーション(NSS)の糖尿病栄養食事指導効果	単	2015年7月	兵庫栄養 公益社団法人 兵庫県栄養学会誌 No232	鞍田三貴 2011年に開設した武庫川栄養サポートステーションにおいて糖尿病患者の栄養指導効果、在宅訪問指導について解説した
7. 在宅医療～とりあえず一歩踏み出してみました～	単	2015年	New Diet Therapy 31(3)105-110	鞍田三貴 地域の糖尿病患者は高齢者が多い。施設に留まっている栄養食事指導をとりあえず一歩在宅指導へと足を向けてみると、管理栄養士でなければできない支援が見えてきた。地域での在宅医療、介護連携推進体制の構築に管理栄養士は貢献できる。
8. 開業医との連携と継続した栄養指導	単	2013年2月10日	Nutrition Care No1.6.No2:p16-22	鞍田三貴 栄養科学館栄養科学研究所で活動を開始した栄養サポートステーションの1年間の結果の考察
9. 患者とともに歩む栄養指導(連載)	単	2011年8月 2012年1月まで6回連載	メディカ出版 ヘルスケアレストラン 日本医療企画	先人の偉業を振り返り、今、栄養指導ですべきことを考える。疾患を用いて解説、6回連載
10. 医療略語(連載)	単	2010年9月～ 2011年7月まで11回連載	ヘルスケアレストラン 日本医療企画	新人栄養士に向けた医療用語・略語についての解説。11回連載。
11. NST活動における肝臓病教室の立ち上げ	単	2010年1月	Frontiers in Gastroenterology vol. 15(1) メディカルレビュー社	鞍田三貴 NST活動における肝臓病教室の立ち上げのポイントと成果について、肝臓フォーラム特別講演内容を記述した
12. 資格取得のススメサプリメントアドバイザー	単	2009年7月10日	ニュートリションケア vol.2 (4) 90-91 メディカ出版	鞍田三貴 サプリメントアドバイザーの資格と必要性について説明した
13. 新人管理栄養士へ贈る言葉、迎える側への嘆願、教学相長	単	2009年4月	臨床栄養 vol. 114 (4): 354-358	鞍田三貴 病院に就職する管理栄養士への心構え、新人を迎える病院管理栄養士への教育のポイントを考察した。
14. 栄養管理(NST)の現状と課題	単	2008年11月	地域リハビリテーション vol.3(11) 1024-1028	鞍田三貴 急性期からの受け入れ施設となるリハビリテーション病院における栄養管理の必要性を述べた
15. 身体測定(身長、体重、BMIほか)	単	2008年9月10日	ニュートリションケア vol.1(5):	鞍田三貴 栄養アセスメントにおいてもっとも簡易で基本的な身体測定について

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
16. 臨床現場で活躍できる管理栄養士をどう育成していくべきか	単	2007年5月	14-21 メディカ出版 臨床栄養vol.110 (6):624-630 臨時増刊号 医歯薬出版(株)	て説明した <u>鞍田三貴</u> 管理栄養士の育成に対し、教育現場の現状と臨床現場の現状双方から育成に欠かせぬ課題について考察した
17. NST活動における終末期患者への対応	共	2007年2月10日	医療の広場(国立病院機構発行) Vol.47, No2. p25-29	表順子、藤田朋子、森田有美、内藤浩史、真鍋悟、今西健二、内海繁敏、 <u>鞍田三貴</u> 松本昌子、沢村敏郎、藤堂龍平、辻中利政 終末期患者に対し、必要量の補給を目的とせず、日々の嗜好変化に応じた食事をpalliative care(PC)食と命名し対応した結果、輸液離脱症例が増え一時的に自宅に戻えた症例が増加した。
18. NPC/N比の臨床的意義ーそこからみえてくるもの・みえないもの	共	2007年	臨床栄養 Vol.111 No.6 762-767 医歯薬出版(株)	雨海照祥 <u>鞍田三貴</u>
19. 術前・術後の栄養管理 管理栄養士はこう考える	単	2006年10月	ヘルスケア	<u>鞍田三貴</u>
20. 肝炎・肝硬変・肝がん 病気と上手につきあう	共	2006年02月	NHK今日の健康	加藤道夫、 <u>鞍田三貴</u> 、福井久美子
21. 大規模病院におけるNSTの確立とその効果	共	2006年1月	Medical forum CHUGAI Vol.10, No1:19-25	辻中利政、 <u>鞍田三貴</u> 、沢村敏郎 大規模病院におけるNST確立のためのポイントとを述べた
22. 倦怠感のあるがん患者の栄養管理とサポート:palliative care 食の意義	単	2005年6月	看護技術 Vol.51 (7) 39-43	<u>鞍田三貴</u> 終末期患者に対し、必要量の補給を目的とせず、日々の嗜好変化に応じた食事をpalliative care(PC)食と命名し対応した結果、輸液離脱症例が増え一時的に自宅に戻えた症例が増加した。
23. 臨地実習の実際 国立病院機構大阪医療センター	単	2005年2月	臨床栄養 vol.106(2):186-191	<u>鞍田三貴</u> 学生実習受け入れから実習の現状と問題点、課題について述べた。医療の基本は、医療を支えるコメディカルの教育、人材育成である。養成施設の教員および学生受け入れ施設の栄養士双方が、教育は長期的に期待される成果であり前向きに取り組むべきである
24. 肝臓病教室の立ち上げ	単	2005年2月	栄養評価と治療 vol.22, No1 p87-93	<u>鞍田三貴</u> 2004年11月13日肝疾患患者指導研究会の要旨記事
25. パス最前線 NSTとパス 胃切除後の自由食パス	単	2004年10月	パス実践の情報誌 パス最前線 Vol14 p7-9 第一製薬(株)発行 エンセピアジャパン編集	<u>鞍田三貴</u>
26. 栄養士のための業務改善Q&A	単	2004年9月20日	ヘルスケアレスト ランVol.12, No10 : p74-75 日本医療企画	<u>鞍田三貴</u> 読者からの相談へのアドバイス記事 どうすれば栄養士も経静脈栄養にかかわれるか?へのアンサー
27. 変わりつつある医療への対応	単	2004年09月	ダノンニュートリ ションニュース	<u>鞍田三貴</u>
28. 大阪医療センター NSTの活動	単	2004年09月	Osaka National Hospital News	<u>鞍田三貴</u>
29. 「私たちは、このようにして臨床栄養管理に参加した」	共	2004年6月	栄養評価と治療 vol.21(3) :9-15 メディカルレ ビュー社	<u>鞍田三貴</u> 、的場美智子、真鍋悟、角谷勲、沢村敏郎、辻中利政 NSTは設立が重要ではなく、根拠に基づいた標準的な栄養サポートを展開し継続的に機能させることを具体的に記述した
30. パス使用による胃切除術後患者の栄養管理	共	2003年6月	臨床栄養臨時増刊号 vol.102(7) : 919-924	<u>鞍田三貴</u> 、辻中利政 胃切除後の患者の術後食について、早期経口摂取スケジュールをクリニカルパスに取り入れた結果、患者の予後が改善された
31. 糖尿病性腎症の進展	共	2003年3月	医療の広場 Vol.	桑原節子、平野和保、川村美和子、 <u>鞍田三貴</u> 、田所真紀子、落合由

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
と食事調査から得た摂取栄養成分の検討		10日	43 No3:11-23	美、馬場真佐美、宮坂政彦 (財) 政策医療振興財団研究助成金に基づく研究レポート 糖尿病性腎症の進展と食事調査から得た摂取栄養成分の検討
32. チーム医療における経口栄養法へのアプローチ	共	2003年	日本臨床栄養学会雑誌 Vol.24(4): 233-239	鞍田三貴、柳崎麻里、今西健二、真鍋悟、藤田清治、辻仲利政 消化器外科病棟で開始したチーム医療の様々な成果を紹介し、管理栄養士は食事の提供のみに終始せず、積極的に病棟業務に携わり、患者個々に適切な栄養管理を行うこと、そしてその教育が重要であると述べた
33. 栄養部門に係る経営改善の取組みについてNST (Nutrition Support Team) の導入による入院患者の栄養状態の改善と経営改善効果について	共	2003年	国立病院 飛翔	鞍田三貴、角谷勲、辻仲利政、東堂龍平 民間病院や公的病院ではNST (栄養サポートチーム) が導入され一定の効果をあげているが、国立病院では残念ながらNSTを立ち上げた施設は皆無である。平成11年より「単科型 (外科) NST」活動を展開し、在院日数短縮など成果を上げてきた。入院患者の栄養状態を調査した結果、「全科型NST」の必要性が示唆された。国立病院における「全科型NST」の設立の意義と問題点について報告した。
34. こんにちは最前線「患者を考え、見直し、生み出されつづける新たな活動」	単	2003年	臨床栄養Vol.107, No7: 819-821 医歯薬出版 (株)	鞍田三貴 病院管理栄養士の役割について総説
35. 外来糖尿病患者の有効的な指導に関する考察	共	2002年4月	New diet Therapy	鞍田三貴、中山環、今西健二、真鍋悟、三嶋喜久子、滝秀樹、池田雅彦、東堂龍平 外来糖尿病患者の有効的な指導に関する考察
36. 糖尿病における結核・非結核患者の病態および食生活の検討～大阪地区7施設共同研究栄養管理室共同研究～	単	2001年3月10日	医療の広場Vol.41 No3:32-40 受賞論文	鞍田三貴 糖尿病を有する結核患者と非結核患者において食生活を調査し、比較的若年代に喫煙量が多く、アルコール、高塩食、脂肪過剰摂取による肥満が存在すれば将来、糖尿病をベースに結核が発する可能性が高まる
37. 2型糖尿病の食事療法	共	2000年1月22日	日本醫事新 第3952号	南部征喜 鞍田三貴 糖尿病の外来診療における継続的改善率は極めて低い。患者のコンプライアンスを向上させるための方策について述べた
38. 化学療法中の癌感謝における栄養管理	単	1997年	New Diet Therapy Vol113 p19-39	鞍田三貴 抗癌治療中の食欲低下患者にはTPNやENなどの強制栄養より、患者の嗜好を調査し栄養状態を的確に把握した上で、様々な調理上の工夫を凝らし提供すること。生理学的にも栄養学的にもこれに勝ものはない。
39. 効果的な食事療法ガイド 骨粗鬆症	単	1996年4月15日	JIM vol6(4):347-349 医学書院	鞍田三貴 骨粗鬆症の実践的な食事療法について工夫とポイントを述べた。Ca摂取が若年時から十分であると閉経後のエストロゲン欠乏時においても骨量は減少しにくい。
40. 化学療法中のがん患者における栄養管理	共	1995年12月	臨床栄養 vol.87 (7) 857-861 医歯薬出版 (株)	鞍田三貴 藤尾信仁 小見正義 児玉長久 森 隆 肺がん患者を対象に、化学療法中の食事として低食欲時食を考案し、患者満足度、食事摂取量を評価した
41. 本態性高血圧症に対する塩分制限と体重減少の効果	共	1985年12月	動脈硬化 Vol.13 No.5 1107-1117	南部世紀 都島基夫 西大條靖子 洪 秀樹 藤井繁樹 山田信一郎 中野忠男 古澤通夫 成川輝明 鞍田三貴 臨床栄養外来開設5カ月間に登録された本態性高血圧患者を対象に高圧効果を期待するための栄養診断法、栄養指導対策について述べた
4. 芸術 (建築模型等含む) ・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 透析患者啓発雑誌	共	2022年7月	ふれあい 夏号 宮本クリニック	鞍田三貴 透析患者さんの食事療法について
2. 学術賞を受賞して	単	2021年4月	New Diet Therapy vol.36(4) 3-7	鞍田三貴 日本臨床栄養協会の学術賞受賞にあたり、これまでの研究内容を紹介し謝辞を述べた。
3. 神戸新聞	単	2016年9月17日	神戸新聞 兵庫の医療 シリーズ3	2型糖尿病と闘う ③高齢者の血糖管理

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
4. 鉄人バランス弁当コンテスト	単	2015年10月	日本血液事業学会 主催	鉄人バランス弁当コンテスト特別賞
5. 週刊医学会新聞 医学書院 評者	単	2015年9月28日	週刊医学会新聞	鞍田三貴 糖尿病に強くなる！療養指導のエキスパートを目指して 著書の評者
6. 新春座談会 日本臨床栄養協会	共	2014年1月	New Diet Therapy 日本臨床栄養協会 30 (1) : pp3-14 (2014)	橋詰直孝 小沼富男 多田紀夫 鞍田三貴 将来に向けて、食・栄養をどう捉え、日本臨床栄養協会はどうか 日本臨床栄養協会の将来像に繋げるための新春座談会
7. バイエル・レシピコンテスト	共	2013年3月	バイエル株式会社 主催バイエルレシピコンテスト	バイエル株式会社主催バイエルレシピコンテストにおいて透析患者の食事部門で準グランプリ
8. 神戸新聞	単	2012年9月8日	神戸新聞 兵庫の医療	武庫川女子大学の取り組み 主治医と連携、栄養指導効果について
9. 産経新聞	単	2011年10月23日	産経新聞 働く人々のための健康 フォーラム	健康長寿社会を目指した食生活のすすめについて、メタリックシンドロームに潜む健康リスク～糖尿病の実態と予防を目指して～
10. 第2回チーム医療推進全国会議 アワード受賞	共	2010年11月13日	第2回チーム医療推進全国会議 一般社団法人チーム医療フォーラム	関西で管理栄養士を集めた勉強会、セミナー活動を行う団体の紹介 パターンリズムを打ち破れ「なにわ栄養士のプロジェクトX」
11. 巻頭言	単	2009年	静脈経腸栄養vol. 24.No2 p4	鞍田三貴 NST管理栄養士・真の役割は何か、特集号のコーディネートと巻頭言を担当した
12. 座談会 チーム医療と微生物検査	共	2006年11月	BioScan New Decade N06.11. 2006	一山 智 遠藤和郎 鞍田三貴 三富陽子 山本剛 チーム医療は必要不可欠な医療体系であることから種々の専門家による討論においてNSTについて説明した
13. 取材 ヘルスケアレストラン	単	2006年9月20日	ヘルスケアレストランVol.14 No10 30-31 日本医療企画	鞍田三貴 術前・術後の栄養管理について管理栄養士はこう考える。監修にとられない姿勢が患者の早期回復につながる。取材記事
14. 読売新聞	単	2006年	読売新聞2007年3月7日朝刊22面	医療ルネサンス病院の実力病院管理栄養士の業務、栄養サポートチームにおける管理栄養士の活動についての取材。検査数値にとらわれず、病棟に出向き患者の声を聴くことで真の栄養管理ができる。
15. 啓発資料	単	2005年10月	ライフサイエンス出版	鞍田三貴ちょっとした献立の工夫で塩分を減らすことができます
16. 座談会	共	2004年12月	ヘルスケアレストラン 12月号 p 62-67	井上義文 鞍田三貴 稲田しづ子 小西弘幸 チーム医療の中で管理栄養士は合格点が取れているのか座談会記述
17. 取材	単	2004年6月20日	ヘルスケアレストラン Vol.12, No7 :P20-21 日本医療企画	特集1 私たちはこうしてNSTを立ち上げた！地道な努力が病院を動かす 栄養士が立ち上げた全科型NST、取材記事
18. 取材	単	2003年12月	臨床栄養 Vol. 103 No7 p 819-821 医歯薬出版(株)	鞍田三貴 「患者を考え、見直し、生み出され続けるらたなる活動」 実習生やボランティアが集まる栄養管理室の理由について取材記事
19. 食生活研究 座談会	共	2003年	食生活研究Vol.23 (3) 20-24	鞍田三貴、藤村真理子、川上万喜子、表順子 管理栄養士カリキュラムについて座談会(2)
20. 食生活研究 座談会	共	2003年	食生活研究Vol.23 (2) 20-31	鞍田三貴、藤村真理子、川上万喜子、表順子 栄養士のカリキュラムについての座談会(1)
21. 啓発資料	単	2000年8月	旭化成工業(株)	鞍田三貴 骨粗鬆症の食事療法 リーフレット
22. 啓発資料	単	2000年	財団法人 骨粗鬆症財団	鞍田三貴 カルシウムはもっと多くとれる(骨を丈夫にする献立改善プラン)
23. 啓発資料 リーフレット	単	1997年10月	からだと心の健康シリーズ5 兵	鞍田三貴 試してはじめてつくられる～あなたの健康～

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
24. 骨粗鬆症財団啓発資料	共	1996年8月	庫県立成人病臨床研究所 山之内製薬(株)	藤田拓男 鞍田三貴 点数でかんたんに1日の摂取量がわかるカルシウム交換表
25. Milk News	単	1994年3月	全国牛乳普及協会 牛乳・乳製品健康づくり委員会	藤田拓男、藤井芳夫、宮内章光、鞍田三貴 三田市の栄養調査と腰椎骨量の測定結果より、閉経後の骨量減少を防止するには大量のカルシウムをとるか他のアプローチが必要であることの啓発資料
26. 壮快 11月号 体にいい油、悪い油の常識が180度激変	単	1989年11月1日	壮快 マイヘルス社 11月号	鞍田三貴 能勢町で実施した結果をもとに、高コレステロール血症は動物性脂肪を摂取したからといってコレステロール値には影響しないこと、糖質を中心とした総施主カロリーの過剰が要因であることを一般紙に掲載した
27. 食物と健康	単	1987年	食物と栄養 行吉学園出版局	鞍田三貴 臨床栄養学との出会い、について総説
6. 研究費の取得状況				
1. 厚生労働科学研究	共	2014年4月	がん対策推進総合研究事業	在宅がん患者の栄養サポートに精通した在宅医療福祉従事者お全国的育成システムの開発
2. 厚生労働科学研究費	共	2009年	地域医療基盤開発推進研究事業	地域栄養支援活動による多職種参加型人材育成システムの開発研究

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年4月～現在	日本静脈経腸栄養学会 栄養・管理栄養士部会委員(委嘱)
2. 2016年～現在	日本臨床栄養協会 理事
3. 2016年～現在	日本臨床栄養代謝学会 代議員
4. 2011年～2016年	日本静脈経腸栄養学会 評議委員
5. 2005年～2010年	日本静脈経腸栄養学会 編集委員
6. 2001年～現在	日本病態栄養学会
7. 2001年～現在	日本臨床栄養代謝学会(旧、日本静脈経腸栄養学会)
8. 2000年～2016年	日本臨床栄養協会 評議委員
9. 1999年～現在	日本臨床栄養学会 評議委員
10. 1998年～現在	日本栄養改善学会
11. 1993年4月～現在	日本糖尿病学会
12. 1991年～現在	日本臨床栄養協会
13. 1991年～現在	日本臨床栄養学会
14. 1991年～現在	日本動脈硬化学会
15. 1983年4月～現在	日本肥満学会